

N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ (L2) コマンドリファレンスガイド (AOS)

> 文書番号:856-126757-205-00 1版:2008年7月

● 著作権

#### Copyright © 2008 NEC Corporation

日本電気株式会社の許可無く本書の複製・改変などを行うことはできません。

ご注意

本書の内容は予告なく変更することがあります。NEC が製品やサービスについて行う保証は、添付の保証文書に記載の内容 のみに限定します。本書のどの箇所であっても何ら新規の保証を行うものではありません。本書に技術的あるいは編集上の 誤りや欠落があったとしても、NEC は一切の責任を負わないものとします。

商標

Microsoft®、Windows®、および Windows NT®は、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

SunOS™および Solaris™は、Sun Microsystems 社の米国およびその他の国における商標です。

Cisco®は、Cisco Systems 社およびその系列会社の米国およびその他一部の国における登録商標です。

文書番号:856-126757-205-00

1版:2008年7月

# 目次

コマンドラインインタフェース	
はじめに	7
関連マニュアル	7
スイッチへの培繕	7
ワーカルコンソール控結	
ロールルコンノール仮施	
IP アトレスの設定	8
l elnet	9
SSH 接続	9
ユーザのアクセス権	
アイドリングタイムアウト	
英字体および記号使用規約	
メニューの概要	
はじめに	
Main Menu	
サブメニューの概要	
グローバルコマンド	
コマンドラインの履歴と編集	
コマンドラインインタフェースのショートカット	15
コマンドスタッキング	
コマンドヘクツインク	
ユマントの起袖形	
l ab キーによる補完	
初回の設定	
	16
SINIP の設定	
ハスリードの設定	
アドミニストレータパスワードの変更	
ユーザパスワードの変更	
オペレータパスワードの変更	19
Information Manu	
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	20
メニューの概要	
System Information Menu	
SIMIPV3 Information Menu	
SINMPV3 USM User Table Information	
SINMPV3 VIEW Table Information	
SINIVIEVS ACCESS Table Information	
SNMPv3 Community Table information	
SNMPv3 Torget Address Table information	
SNMPv3 Target Parameters Table information	
SNMDv3 Natify Table information	
SNMPv3 dump	
System information	
Show last 100 systom messages	
System user information	
Laver 2 Information Menu	29
EDB Information Menu	
Show all FDB information	30
Clearing entries from the FDB	
Link Aggregation Control Protocol information	
Spanning Tree information	
Rapid Spanning Tree and Multiple Spanning Tree information	
Common Internal Spanning Tree information	
Trunk group information	
- ·	

VLAN information	
Layer 2 general information	38
Layer 3 information	
ARP information	39
ARP address list information	40
Show all ARP entry information	40
IP information	40
IGMP multicast group information	
IGMP multicast router port information	41
RMON Information Menu	
RMON history information	42
RMON alarm information	42
RMON event information	43
Link status information	44
Port information	44
Logical Port to GEA Port mapping	45
Uplink Failure Detection information	46
Information dump	

#### Statistics Menu

	はじめに	47
	メニュー内容	47
	Port Statistics Menu	48
	Bridging statistics	48
	Ethernet statistics	49
	Interface statistics	50
	Internet Protocol (IP) statistics	51
	Link statistics	51
	Port RMON statistics	52
	Layer 2 Statistics Menu	53
	FDB statistics	53
	LACP statistics	53
	Layer 3 Statistics Menu	54
	GEA Layer 3 Statistics Menu	54
	GEA Layer 3 statistics	55
		55
		56
	UNS statistics	50
	TOMP Statistics	57
	LIDD statistics	50
	IGMP Multicast Group statistics	59 50
	Management Processor Statistics $x = x =$	53 60
	Packat statistics	00 60
	TCP etatistics	00
	LIDP statistics	01
	CPU statistics	01
	SNMP statistics	62
	NTP statistics	64
	Uplink Failure Detection (UFD) statistics	65
	Statistics dump	65
0	winnetien Menu	
	niiguration menu	~~
		66
	メニューの内容	66
	変更内容の確認、適用、取消、保存	66
	保留になっている変更内容の確認	67
	保留になっている設定の適用	67
	変更の取消	67
	設定の保存	67
	リマインダ	68
	System configuration	68
	System host log configuration	69
	Secure Shell Server configuration	71
	-	

RADIUS server configuration	72
TACACS+ server configuration	73
NTP server configuration	74
System SNMP configuration	75
SNMPv3 configuration	76
SNMPv3 User Security Model configuration	77
SNMPv3 View configuration	77
SNMPv3 View-based Access Control Model configuration	78
SNMPv3 Group configuration	78
SNMPv3 Community Table configuration	79
SNMPv3 Target Address Table configuration	79
SNMPv3 Target Parameters Table configuration	80
SNMPv3 Notify Table configuration	
System Access configuration	
Management Networks configuration	
User Access Control configuration	
User ID configuration	
HTTPS Access configuration	
Port configuration	
Temporarily disabling a port	
Port link configuration	
Layer 2 configuration	
Rapid Spanning Tree Protocol/Multiple Spanning Tree Protocol configuration	
Common Internal Spanning Tree configuration	
CIST port configuration	
Spanning Tree configuration	
Bridge Spanning Tree configuration	
Spanning Tree port configuration	
Forwarding Database configuration	
Static FDB configuration	
I runk configuration	
IP I runk Hash configuration	
Layer 2 IP Trunk Hash conliguration	
LINK Aggregation Control Protocol configuration	
VI AN configuration	
VLAN CONTINUE and the second sec	
Layer 5 configuration	
Default Cateway configuration	100
Address Resolution Protocol configuration	101
IGMP configuration	101
IGMP spooning configuration	102
IGMP static multicast router configuration	102
IGMP filtering configuration	103
IGMP filter definition	104
IGMP filtering port configuration	104
Domain Name System configuration	104
Remote Monitoring configuration	105
RMON history configuration	106
RMON event configuration	106
RMON alarm configuration	107
Port mirroring	
Port-based port mirroring	108
Uplink Failure Detection configuration	109
Failure Detection Pair (FDP) configuration	109
Link to Monitor (LtM) configuration	110
Link to Disable (LtD) configuration	110
Configuration Dump	111
- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	111
スイッチ設定情報の復元	
Operations Menu	
はじめに	112
メニュー内容	112

オペレーションレベルポートオプション	
Boot Options Menu	
はじめに	
メニュー内容	
スイッチソフトウェアイメージの更新	
新しいソフトウェアイメージのスイッチへのダウンロード	
実行するソフトウェアイメージの選択	
ソフトウェアイメージのスイッチからのアップロード	
Configuration ブロックの選択	
スイッチのリセット	
ISCLI への変更	
現在のスイッチソフトウェアの表示	
Maintenance Menu	
はじめに	
メニュー内容	
System Maintenance options	
FDB Manipulation options	
Debugging options	
ARP options	
IGMP Multicast Group options	
I echnical support dump	
FTP/TFTP technical support dump put	
FTP/TFTP サーバへのシステムダンプ転送	
イロノロロック ションシンノ ムケマノ 私屋	۱۷۲ ۱۷۶
ノマン 旧WVノフノ nanic コマンド	123
Panto ー、ント 予定にわいシステトダンプ	
」たてないマハノムクマノ	IZJ

# コマンドラインインタフェース

### はじめに

GbE インテリジェントスイッチ (L2) は、特に設定を行わなくても基本的なスイッチング機能を使用 することができます。ただし、一部の高度な機能を使用するためには設定が必要です。

本スイッチには、アクセス/設定するためのいくつかのオプションが用意されています。

- テキストベースのコマンドラインインタフェース(AOS CLI および ISCLI)。ローカルコンソー ルまたは Telnet/セキュアシェル (SSH) によるリモートからのアクセス
- SNMP (Simple Network Management Protocol) をサポート。NEC WebSAM NetvisorPro などの ネットワーク管理ソフトウェアによるアクセス
- ブラウザベースインタフェース。Web ブラウザでのアクセス

AOS CLI では、スイッチ情報の収集、スイッチの設定などを直接実行することができます。ターミナル上で、スイッチに関する情報、統計データの確認や、必要な設定を実行することができます。

本ガイドでは、スイッチモードでの AOS CLI の使用方法について説明します。スマートパネルモード での CLI の使用方法については、スマートパネルリファレンスガイドを参照してください。

本章では、AOS CLI によるスイッチへのアクセス方法について説明します。

### 関連マニュアル

本スイッチの実装方法、設定方法につきましては、以下のマニュアルも参照してください。

- N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ (L2) ユーザーズガイド
  - N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ (L2) アプリケーションガイド
  - N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ (L2) コマンドリファレンスガイド (ISCLI)
- N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ (L2) ブラウザベースインタフェース
  - リファレンスガイド
  - N8406-022A GbE インテリジェントスイッチ (L2) スマートパネルリファレンスガイド

# スイッチへの接続

コマンドラインインタフェースとして、以下の方法でアクセスすることができます。

- シリアルポート経由でローカルコンソール接続
- ネットワーク経由で Telnet 接続
- ネットワーク経由で SSH 接続

#### ローカルコンソール接続

スイッチとローカルコンソール接続を確立するためには、以下が必要です。

- シリアルケーブル (DB-9) (詳細は「ユーザーズガイド」を参照してください。)
- 管理用コンソール (パーソナルコンピュータなど) と VT-100 準拠の通信ソフトウェア

#### 表1 コンソール構成パラメータ

パラメータ	値
ボーレート	9600
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

以下の手順でスイッチにローカルコンソール接続します。

- 1. シリアルケーブルで管理用コンソールをシリアルポートに接続します。
- 2. 管理用コンソールの電源を入れます。
- 3. Enterキーを数回押して、接続を確立します。
- パスワードを入力してスイッチにアクセスします。(詳細については、「初回の設定」の章の 「パスワードの設定」を参照してください。)

#### IP アドレスの設定

Telnet または SSH 接続によりスイッチにアクセスするためには、IP アドレスを設定する必要があります。IP アドレスの設定には以下の方法があります。

- マネジメントポートからのアクセス:
  - DHCP サーバの利用 /cfg/sys/dhcp コマンドが enabled の場合、マネジメントイン タフェース (インタフェース 256) は DHCP サーバに IP アドレスを要求します。 /cfg/sys/dhcp コマンドのデフォルト値は enabled です。
  - 手動設定 DHCP サーバがない場合、マネジメントインタフェース(インタフェース 256)にIP アドレスを設定する必要があります。もし、セグメント外からアクセスしたい場合は、マネジメントゲートウェイ(ゲートウェイ4)も設定する必要があります。
- アップリンクポートからのアクセス:
  - BOOTP サーバの利用 インタフェース1は、デフォルトでは、BOOTP サーバに IP アドレスを要求するように設定されています。ネットワークに BOOTP サーバがある場合、スイッチの MAC アドレスを BOOTP サーバの BOOTP 設定ファイルに追加します。MAC アドレスは System Information メニューで参照できます(「Information Menu」の章の「System Information Menu」を参照してください)。BOOTP も付属する DHCP サーバを使用している場合、MAC アドレスの設定は必要ありません。
  - 手動設定 BOOTP サーバがない場合、インタフェースに IP アドレスを設定する必要があります。

#### Telnet 接続

Telnet 接続は、ネットワークに接続した端末からスイッチにアクセスすることができます。シリアル ポートを介して利用できるオプションと同じオプションが、ユーザ、オペレータ、アドミニストレー タで可能です。Telnet 接続はデフォルトで有効で、同時に 4 つの接続をサポートします。

IP パラメータを設定すると、Telnet 接続により CLI にアクセスできます。スイッチとの Telnet 接続を するためには、端末で Telnet プログラムを実行し、Telnet コマンドにスイッチの IP アドレスを指定 します。

telnet <GbEインテリジェントスイッチ(L2) IP address>

接続するとパスワードを入力するよう要求されます。パスワードでアクセスレベル(アドミニストレ ータ、オペレータ、またはユーザ)が決まります。デフォルトパスワードについては、本章で後述の 「ユーザのアクセス権」を参照してください。

#### SSH 接続

ネットワーク管理者はリモートで Telnet によりスイッチを管理できますが、安全な接続ではありません。SSH プロトコルであれば、ネットワーク経由でも安全にログインを行うことができます。

SSH は、ネットワークを通じて送信するすべてのデータを暗号化します。SSH を使用するためには、 まずスイッチの設定をする必要があります。SSH を設定する方法については、「Configuration Menu」の章の「Secure Shell Server configuration」を参照してください。

スイッチはキー/暗号生成を一度に1セッションのみ実行できます。したがって、キーの生成や、別のクライアントが直前にログインしていると、SSH/SCP クライアントはログインできません。また、SSH/SCP クライアントがその時点でログインしていると、キー生成は失敗します。

サポートされている SSH の暗号化方法、認証法を以下に示します。

- サーバホスト認証 各接続の最初にクライアント RSA がスイッチを認証します。
- キー交換 RSA
- 暗号化:
  - AES256-CBC
  - AES192-CBC
  - AES128-CBC
  - 3DES-CBC
  - 3DES
  - ARCFOUR

ユーザ認証 — ローカルパスワード認証、RADIUS 認証

以下の SSH クライアントで動作実績があります。

- Linux 用 SSH 3.0.1 (フリーウェア)
- SecureCRT® 4.1.8 (VanDyke Technologies, Inc.)
- Linux 用 OpenSSH\_3.9 (FC 3)
- Linux 用 SCP コマンド (FC 3)
- Windows 用 PuTTY リリース 0.58 (Simon Tatham)

注:SSH はバージョン 1.5、2.0 に基づき、バージョン 1.0~2.0 の SSH クライアントをサポートします。その他のバージョンの SSH クライアントはサポートしていません。SSH バージョン 1 またはバージョン 2 を使用するように、クライアントソフトウェアを設定してください。

デフォルトでは、SSH サービスは無効です。AOS CLI にアクセスして有効にすることができます。

スイッチと SSH 接続を確立するためには、端末上で ssh コマンドにユーザアカウント名とスイッチの IP アドレスを指定して実行します。

>> # ssh <user>@<GbEインテリジェントスイッチ(L2) IP address>

パスワードを入力するよう要求されます。

注:SSHを端末から初めて実行したときに、警告メッセージが出力されることがあります。プロンプトに"yes"と入力して処理を続けてください。

### ユーザのアクセス権

スイッチ管理、ユーザアカウンタビリティを向上させるため、スイッチには、各種レベル、各種クラ スのユーザアクセスが用意されています。様々なスイッチ管理タスクを実行する必要に応じて、CLI やWeb コンソールの機能、画面にアクセスするレベルが上がります。以下の3つのアクセスレベル があります。

- ユーザースイッチの統計情報やステータス情報の表示のみ行うことができます。設定の変更はできません。
- オペレータ スイッチに対して一時的な変更を行うことができます。スイッチをリブート/リ セットすると、その変更は解除されます。オペレータが行った変更はスイッチのリセットで解除 されます。
- アドミニストレータ スイッチのすべての設定を行うことができます。

スイッチ機能へのアクセスは、ユーザ名とパスワードを使用して管理します。ローカルコンソール、 Telnet、SSH 経由でスイッチに接続した場合、パスワードを入力するよう要求されます。そのパスワ ードでアクセスレベルが決まります。各アクセスレベルのデフォルトのユーザ名/パスワードを次の 表に示します。

注:最初の設定時、デフォルトのパスワードを変更し、ネットワークセキュリティポリシの必要に応じて定期的に変更することを推奨します。詳細については、「初回の設定」の章の「パスワードの設定」を参照してください。

表2 ユーザアクセスレベル

ユーザアカウント	説明
user	スイッチのステータス情報、統計情報をすべて参照できますが、スイッチの設定を変更
	することはできません。ユーザアカウントはデフォルトで有効で、デフォルトパスワー
	ドは user です。
oper	スイッチのすべての機能を管理できます。ポートやスイッチをリセットできます。デフ
	オルトでは、オペレータアカウントは無効で、パスワードはありません。
admin	アドミニストレータは、スイッチのメニュー、情報、設定コマンドのすべてをアクセス
	できます。また、パスワードの変更もできます。アドミニストレータアカウントはデフ
	オルトで有効で、デフォルトパスワードは admin です。

# 注:admin 以外のアカウントは、パスワードを空白にすると、各ユーザレベルへのアクセスを無効にできます。

アドミニストレータパスワードを入力してログインすると、スイッチの全機能のアクセスを行うことができます。

ログイン後、CLIの Main Menu が表示されます。Main Menu の項目については、「メニューの概要」 の章を参照してください。

[Main Menu]	
info – Information Menu	
stats - Statistics Menu	
cfg - Configuration Menu	
oper - Operations Command Menu	
boot - Boot Options Menu	
maint – Maintenance Menu	
diff - Show pending config changes [global command]	
apply - Apply pending config changes [global command]	
save - Save updated config to FLASH [global command]	
revert - Revert pending or applied changes [global command]	
exit – Exit [global command, always available]	
>> Main#	

# アイドリングタイムアウト

デフォルトでは、5分間何もアクセスがないと、スイッチは、コンソール、Telnet、SSHセッションから切り離します。この機能は idle timeout パラメータで制御し、1~60分の範囲で設定できます。このパラメータを変更する方法につては、「Configuration Menu」の章の「System configuration」を参照してください。

# 英字体および記号使用規約

次の表に、本ガイドの英字体および記号使用規約を示します。

英字体または記号	意味	例		
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力かプロンプトを示しま	Main#		
	す。			
AaBbCc123	コマンド例または正確に入力しなければならない	Main# sys		
	語句を示します。			
<aabbcc123></aabbcc123>	コマンドの中のパラメータを示します。実際のコ	Telnet セッションを確立するの		
	マンドでは、名前や値を指定します。括弧は付け	であれば、次のように入力しま		
	ないでください。	す。		
		host# telnet <ip< td=""></ip<>		
		address>		
	特殊用語、強調したい語句などに使用することも	ユーザーズガイドを参照してく		
	あります。	ださい。		
[ ]	コマンドで、鍵括弧で囲まれた項目はオプション	host# ls [-a]		
	です。必要に応じて入力します。括弧は付けない			
	でください。			

表3 英字体および記号使用規約

# メニューの概要

### はじめに

AOS CLI は、スイッチ情報と統計情報を確認できます。また、アドミニストレータでログインした場合、すべてのスイッチ設定を実行できます。

CLIを使いやすくするため、種々のコマンドが一連のメニュー、サブメニューにグループ化されています。各メニューでは、利用できるコマンドやサブメニューのリストを表示し、各コマンドが実行する処理も示します。各メニューの下には、現メニューに対応するコマンドがあります。

本章では Main Menu コマンドについて説明し、CLI 内のすべてのメニューから共通に利用できるコマンドとショートカットのリストを示します。

### Main Menu

接続、ログインに成功すると、Main Menu が表示されます。次の表はアドミニストレータでログイン した時の Main Menu です。ユーザでログインした場合、一部の機能は利用できません。

[Main	Menu]	
	info	- Information Menu
	stats	- Statistics Menu
	cfg	- Configuration Menu
	oper	- Operations Command Menu
	boot	- Boot Options Menu
	maint	- Maintenance Menu
	diff	- Show pending config changes [global command]
	apply	- Apply pending config changes [global command]
	save	- Save updated config to FLASH [global command]
	revert	- Revert pending or applied changes [global command]
	exit	- Exit [global command, always available]

### サブメニューの概要

Main Menu の配下で以下のサブメニューが表示されます。

- Information Menu 基本的なシステム設定から VLAN 等、スイッチの現ステータスに関する情報を表示するサブメ ニューがあります。
- Statistics Menu スイッチ性能に関する統計情報を表示するサブメニューがあります。ポート、IP、ICMP、TCP、 UDP、SNMP、ルーティング、ARP、DNS などがあります。
- Configuration Menu スイッチを設定するためのサブメニューがあります。設定を変更しても、実際に適用しない限り、 有効にはなりません。変更内容はフラッシュメモリに保存できます。
- Operations Command Menu スイッチ設定の一時的な変更には、オペレーションレベルのコマンドを使用します。ポートを一 時的に稼動、不稼動にする際に使用するメニューです。
- Boot Options Menu スイッチソフトウェアのアップグレード、configuration ブロックの選択、必要に応じてスイッチ のリセットなどに使用します。スイッチを工場設定に戻す際にも使用します。
- Maintenance Menu

デバッグ用のメニューで、重要なステータス情報のダンプ表示や、FDB、ARP テーブル、ルー ティングテーブルの項目のクリアなどを行うことができます。

# グローバルコマンド

基本的なコマンドの中にはメニュー階層全体を通して実行できるものがあります。オンラインヘルプ の取得、メニューのナビゲート、設定変更の適用、保存などで使用するコマンドです。

特定のコマンドのヘルプを得るには、"help"と入力します。次の画面が表示されます。

Global	Commands: [	[can be issued fro	om any Menu]	
help		up	print	pwd
lines		verbose	exit	quit
diff		apply	save	revert
ping		traceroute	telnet	history
pushd		popd	who	
			-	
The fol	llowing are	used to navigate	the Menu structure	:
	Print curre	ent Menu		
	Move up one Menu level			
/	/ Top Menu if first, or command separator			
!	! Execute command from history			

次の表にグローバルコマンドを示します。

表4 グローバルコマンド

コマンド	動作	
? または help	現メニューの中の特定のコマンドについて、その利用情報を示します。パラ	
	メータを付けない場合、グローバルマンドの概要が表示されます。	
.またはprint	現メニューを表示します。	
または up	メニュー構造の中で1レベル上に移動します。	
/	コマンドの先頭に置くと、Main Menu を表示します。その他の場合は、同じ	
	行の中のコマンドを区切るのに使用します。	
lines	画面上に一度に表示する行数を設定します。デフォルトは24行です。値を指	
	定せずに実行すると、現在の設定が示されます。	
diff	設定変更したが、まだ未適用の設定情報を示します。diff flash と指定	
	すると、apply コマンドで適用済みだが、save コマンドでフラッシュメモリ	
	(NVRAM) にはまだ保存されていない設定情報を表示します。	
apply	変更した設定を適用します。	
save	Configuration ブロックの active に保存されている設定情報を backup に保存	
	し、現在稼働している設定情報を active に保存します。	
	save n と指定すると、現在稼働している設定情報を active に保存します	
	が、active に保存されていた設定情報を backup に保存しません。	
revert	保留状態(未適用)になっている設定内容を削除します。	
	revert apply と指定すると、フラッシュメモリに保存していない設定情	
	報をすべて削除します。	
exit または quit	コマンドラインインタフェースを終了して、ログアウトします。	
ping	ネットワーク経由で端末間の接続を確認します。フォーマットは次のとおり です。	
	ping <host name=""> <ip address=""> <pre>[<number of="" tries=""></number></pre></ip></host>	
	[ <msec delay="">]]</msec>	
	<ul> <li>IP address:装置のホスト名または IP アドレス</li> </ul>	
	<ul> <li>number of tries (オプション) : 実行回数 (1~32)</li> </ul>	
	<ul> <li>msec delay(オプション): pingの実行間隔(msec 単位)</li> </ul>	
traceroute	端末までのルートを示します。フォーマットは次のとおりです。	
	traceroute <host name=""> <ip address=""> [<max-hops></max-hops></ip></host>	
	[ <msec delay="">]]</msec>	
	<ul> <li>IP address:ターゲット端末のホスト名またはIPアドレス</li> </ul>	
	<ul> <li>max-hops(オプション):最大ホップ数</li> </ul>	
	<ul> <li>msec delay(オプション):応答待ち時間(msec 単位)</li> </ul>	
pwd	現メニューのパスを表示します。	
verbose n	画面に表示する情報のレベルを設定します。	
	<ul> <li>0 = Quiet:エラー以外は何も表示しません。プロンプトも表示しませ</li> </ul>	
	$\mathcal{N}_{\circ}$	
	• <b>1 = Normal</b> : プロンプトとリクエストされた出力を示しますが、メニュ	
	ーは表示しません。	
	<ul> <li>2 = Verbose: すべて表示されます。本設定がデフォルトです。</li> </ul>	
	<ul> <li>値を指定せずに実行すると、現在の設定が表示されます。</li> </ul>	

表4 グローバルコマンド

コマンド	動作
telnet	スイッチ上から Telnet を使用します。フォーマットは次のとおりです。
	telnet <hostname>   <ip address=""> [port]</ip></hostname>
history	最後に使用した <b>10</b> コマンドの履歴を表示します。
pushd	現在のディレクトリのパスを保存します。
popd	pushd で保存したディレクトリに戻ります。
who	ログインしているユーザを示します。

# コマンドラインの履歴と編集

コマンドラインインタフェースを利用すると、数回のキー入力だけで、以前に入力したコマンドを検 索、編集できます。コマンドラインで利用できるオプションを次に示します。

表5 コマンドライン履歴/編集オプション

オプション	説明
history	最後に入力した 10 コマンドを番号付きでリストします。
!!	最後に入力したコマンドを繰り返します。
!n	履歴リストの中のn番目のコマンドを繰り返します。
<ctrl-p> または</ctrl-p>	履歴リストから前コマンドを呼び戻します。最後の 10 コマンドについて使用でき
上向き矢印キー	ます。呼び戻したコマンドは、そのまま入力することも、下記のオプションで編
	集することもできます。
<ctrl-n> または</ctrl-n>	次コマンドを履歴リストから呼び戻します。最後の 10 コマンドについて使用でき
下向き矢印キー	ます。呼び戻したコマンドは、そのまま入力することも、下記のオプションで編
	集することもできます。
<ctrl-a></ctrl-a>	カーソルをコマンドラインの先頭に移動します。
<ctrl-e></ctrl-e>	カーソルをコマンドラインの最後に移動します。
<ctrl-b> または</ctrl-b>	カーソルを1文字分左に移動します。
左向き矢印キー	
<ctrl-f> または</ctrl-f>	カーソルを1文字分右に移動します。
右向き矢印キー	
<backspace> または</backspace>	カーソルの左の1文字を消去します。
Delete キー	
<ctrl-d></ctrl-d>	カーソルの位置の1文字を消去します。
<ctrl-k></ctrl-k>	カーソルの位置からコマンドラインの最後までの文字をすべて消去します。
<ctrl-l></ctrl-l>	現ラインを再表示します。
<ctrl-u></ctrl-u>	ライン全体をクリアします。
その他のキー	カーソルの位置に新しい文字を挿入します。
	現レベルのメニューを表示します。
	親ディレクトリに移動します。

### コマンドラインインタフェースのショートカット

以下のショートカットによりコマンドを迅速かつ簡単に入力できます。

#### コマンドスタッキング

ショートカットとして、複数のコマンドをスラッシュで区切って1行に入力できます。アクセスした いメニューオプションに必要なだけのコマンドを並べることができます。

たとえば、Main#プロンプトから SNMP 設定メニューにアクセスするショートカットは次のようになります。

Main# cfg/sys/ssnmp/name

#### コマンドの短縮形

同じメニューかサブメニューの中にある他のコマンドから区別できれば先頭部分の文字を入力するだ けで認識できます。大半のコマンドは短縮できます。

たとえば、上記のコマンドは次のように入力することもできます。

Main# c/sys/ssn/n

#### Tab キーによる補完

メニュープロンプトにコマンドの最初の文字を入力して Tab キーを押すと、メニュー内でその文字から始まるコマンドとオプションが表示されます。次の文字を入力するとさらに範囲が狭まります。

Tab キーを押したときに入力文字に合致するコマンドが1つしかないと、そのコマンドがコマンドラインに表示され入力待ちになります。コマンドラインに入力がない状態でTab キーを押すと、現在アクティブなメニューが表示されます。

# 初回の設定

# はじめに

本章では、初回の設定の方法、パスワードを変更する方法について説明します。

スイッチにはじめて設定を行うときの手順は次のとおりです。

1. スイッチコンソールに接続します。接続後、ログインプロンプトが表示されます。

Blade Network Technologies 1Gb Intelligent L2 Switch Enter password:

2. デフォルトのアドミニストレータパスワードとして admin を入力します。 アドミニストレータ権限がある場合の Main Menu が表示されます。

[Main Menu	]	
info	-	Information Menu
stats	-	Statistics Menu
cfg	-	Configuration Menu
oper	-	Operations Command Menu
boot	-	Boot Options Menu
maint	-	Maintenance Menu
diff	-	Show pending config changes [global command]
apply	-	Apply pending config changes [global command]
save	-	Save updated config to FLASH [global command]
revert	-	Revert pending or applied changes [global command]
exit	-	Exit [global command, always available]

>> Main#

3. Main Menu から次のコマンドを入力して、Configuration Menu にアクセスします。

Main# /cfg

Configuration Menu が表示されます。

[Conf	iguration	n Menu]
	sys	- System-wide Parameter Menu
	port	- Port Menu
	12	- Layer 2 Menu
	13	- Layer 3 Menu
	rmon	- RMON Menu
	pmirr	- Port Mirroring Menu
	ufd	- Uplink Failure Detection Menu
	dump	- Dump current configuration to script file
	ptcfg	- Backup current configuration to FTP/TFTP server
	gtcfg	- Restore current configuration from FTP/TFTP server
	cur	- Display current configuration

注:SNMPは、デフォルトで有効です。

1. 次のコマンドにより SNMP を有効にします。

>> # /cfg/sys/access/snmp disable read only read/write

2. Read コミュニティ名または Write コミュニティ名を設定します。デフォルトでは、それぞれ public と private です。

>> # /cfg/sys/ssnmp/rcomm wcomm

- 3. 設定するコミュニティ名を入力します。
- 4. 設定の適用と、フラッシュメモリへの保存を行います。

>> System# apply >> System# save

### パスワードの設定

初回の設定後、すべてのパスワードを変更し、ネットワークセキュリティポリシの必要に応じて定期 的に変更することを推奨します。ユーザアクセスレベルについては、「コマンドラインインタフェー ス」の章の「ユーザのアクセス権」を参照してください。

ユーザ、オペレータ、またはアドミニストレータのパスワードを変更するためには、アドミニストレ ータパスワードでログインする必要があります。ユーザやオペレータのコマンドモードからパスワー ドを変更することはできません。

注:変更したアドミニストレータパスワードは大切に保管してください。もしアドミニストレータパス ワードを忘れた場合は、保守サービス会社にご連絡ください。

#### アドミニストレータパスワードの変更

アドミニストレータは、すべてのメニュー、情報、設定コマンドへのアクセスや、ユーザ、オペレー タ、アドミニストレータのパスワードの変更も行うことができます。

アドミニストレータアカウントのデフォルトパスワードは admin です。パスワードを変更するには、

- 1. スイッチに接続し、admin パスワードでログインします。
- 2. Main Menu から、次のコマンドで Configuration Menu にアクセスします。

Main# /cf	a
Configura	tion Menuが表示されます。
[Configur	ration Menu]
sys	- System-wide Parameter Menu
port	- Port Menu
12	- Layer 2 Menu
13	- Layer 3 Menu
rmon	- RMON Menu
pmirr	- Port Mirroring Menu
ufd	- Uplink Failure Detection Menu
dump	- Dump current configuration to script file
ptcfg	<ul> <li>Backup current configuration to FTP/TFTP server</li> </ul>
gtcfg	<ul> <li>Restore current configuration from FTP/TFTP server</li> </ul>
cur	- Display current system access configuration

3. Configuration Menu から、次のコマンドで System Menu を選択します。

```
>> Configuration# sys
```

System メニューが表示されます。

[System Menu]			
syslog	- Syslog Menu		
sshd	- SSH Server Menu		
radius	- RADIUS Authentication Menu		
tacacs+	- TACACS+ Authentication Menu		
ntp	- NTP Server Menu		
ssnmp	- System SNMP Menu		
access	- System Access Menu		
date	- Set system date		
time	- Set system time		
timezone	- Set system timezone (daylight savings)		
olddst	- Set system DST for US		
idle	- Set timeout for idle CLI sessions		
notice	- Set login notice		
bannr	- Set login banner		
hprompt	- Enable/disable display hostname (sysName) in CLI prompt		
bootp	- Enable/disable use of BOOTP		
dhcp	- Enable/disable use of DHCP on Mgmt interface		
reminder	s - Enable/disable Reminders		
cur	- Display current system-wide parameters		

4. アドミニストレータパスワードを設定するため、次のコマンドを入力します。

System# access/user/admpw

5. プロンプトに現在のアドミニストレータパスワードを入力します。

Changing ADMINISTRATOR password; validation required... Enter current administrator password:

#### 注:変更したアドミニストレータパスワードは大切に保管してください。もしアドミニストレータパス ワードを忘れた場合、保守サービス会社にご連絡ください。

```
6. プロンプトに新しいアドミニストレータパスワードを入力します。
```

Enter new administrator password:

```
7. 新しいアドミニストレータパスワードをもう一度入力します。
```

Re-enter new administrator password:

```
8. 次のコマンドを入力して、設定の適用と、フラッシュメモリへの保存を行います。
```

System# apply System# save

#### ユーザパスワードの変更

ユーザログインではスイッチの制御が制限されています。ユーザアカウントの場合、スイッチ情報と 統計情報を見ることはできますが、設定を変更することはできません。

ユーザアカウントのデフォルトパスワードは user です。ユーザアカウントからこのパスワードを変更 することはできません。以下の手順に示すように、アドミニストレータのみパスワードを変更するこ とができます。

```
1. スイッチに接続し、アドミニストレータパスワードでログインします。
```

```
2. Main Menu から、次のコマンドで Configuration Menu にアクセスします。
```

Main# cfg

```
3. Configuration Menu から、次のコマンドで System Menu を選択します。
```

>> Configuration# sys

4. ユーザパスワードを設定するため、次のコマンドを入力します。

System# access/user/usrpw

 プロンプトに現在のアドミニストレータパスワードを入力します。 ユーザパスワードを変更できるのはアドミニストレータだけです。アドミニストレータパスワー ドを入力することで、権限が確認されます。

Changing USER password; validation required... Enter current administrator password:

6. プロンプトに新しいユーザパスワードを入力します。

Enter new user password:

7. 新しいユーザパスワードをもう一度入力します。

Re-enter new user password:

8. 設定の適用と、フラッシュメモリへの保存を行います。

System# apply System# save

#### オペレータパスワードの変更

オペレータはスイッチのすべての機能を管理できます。ポートやスイッチ全体をリセットできます。 ただし、スイッチの変更は一時的な変更のみ行うことができます。スイッチをリブート/リセットす ると、変更された設定は解除されます。

デフォルトでは、オペレータアカウントは無効でパスワードはありません。オペレータアカウントからパスワードを変更することはできません。以下の手順に示すように、アドミニストレータのみ変更 することができます。

- 1. スイッチに接続し、アドミニストレータパスワードでログインします。
- 2. Main Menu から、次のコマンドで Configuration Menu にアクセスします。

Main# cfg

3. Configuration Menu から、次のコマンドで System Menu を選択します。

>> Configuration# sys

4. オペレータパスワードを設定するため、次のコマンドを入力します。

System# access/user/opw

- 5. プロンプトに現在のアドミニストレータパスワードを入力します。
  - オペレータパスワードを変更できるのはアドミニストレータだけです。アドミニストレータパス ワードを入力することで、権限が確認されます。

Changing OPERATOR password; validation required... Enter current administrator password:

6. プロンプトに新しいオペレータパスワードを入力します。

Enter new operator password:

7. 新しいオペレータパスワードをもう一度入力します。

Re-enter new operator password:

8. 設定の適用と、フラッシュメモリへの保存を行います。

System# apply System# save

# Information Menu

# はじめに

ユーザ、オペレータ、アドミニストレータのコマンドモードでスイッチの情報を確認できます。本章 では、CLIを使用してスイッチ情報を表示する方法について説明します。

# メニューの概要

コマンド: /info

[Info	rmation	Menu]
	sys	- System Information Menu
	12	- Layer 2 Information Menu
	13	- Layer 3 Information Menu
:	rmon	- Show RMON information
	link	- Show link status
1	port	- Show port information
	geaport	- Show system port and gea port mapping
	ufd	- Show Uplink Failure Detection information
	dump	- Dump all information

次の表に Information Menu の項目を示します。

#### 表6 Information Menu の項目

コマンド	機能
sys	システム情報を表示します。
12	Layer 2 Information Menu を表示します。
13	Layer 3 Information Menu を表示します。
rmon	RMON Information Menu を表示します。
link	各ポートについて、以下の情報を表示します。
	ポート番号
	ポート速度(10Mb/s、100Mb/s、1000Mb/s、any)
	全二重/半二重モード(half、full、any)
	送受信フロー制御(no、yes、any)
	リンクステータス (up、down)
port	以下のポートステータス情報を表示します。
	ポート番号
	ポートの VLAN タグの使用有無
	ポート VLAN ID (PVID)
	ポート名
	VLAN メンバ
geaport	GEA ポートマッピング情報を表示します。
ufd	UFD (Uplink Failure Detection) 情報を表示します。
dump	Information Menu から利用できるすべてのスイッチ情報をダンプします(設定に応じ
	て <b>10K</b> またはそれ以上)。

# System Information Menu

コマンド: /info/sys

[System Menu]	
snmpv3	- SNMPv3 Information Menu
general	- Show general system information
log	- Show last 100 syslog messages
user	- Show current user status
dump	- Dump all system information

次の表に System Menu の項目を示します。

表7	System	Menu	の項	目
----	--------	------	----	---

項目	機能
snmpv3	SNMPv3 Information Menu を表示します。
general	以下のシステム情報を表示します。
	システム日時
	スイッチのモデル名
	スイッチの名称と場所
	MACアドレス
	IP インタフェースの IP アドレス
	ハードウェアバージョンと製品番号
	ソフトウェアのバージョン番号とイメージ名(フラッシュメモリのイメージ番号)
	Configuration ブロック名
log	最新シスログメッセージを表示します。
user	ユーザアクセス情報を表示します。
dump	Information Menu から利用できるすべてのスイッチ情報をダンプします(設定に応じて
	<b>10K</b> またはそれ以上)

### SNMPv3 Information Menu

コマンド: /info/sys/snmpv3

SNMPv3 Information Menu]			
usm	-	Show	usmUser table information
vie	w –	Show	vacmViewTreeFamily table information
acc	ess -	Show	vacmAccess table information
gro	up –	Show	vacmSecurityToGroup table information
com	m –	Show	community table information
tad	dr -	Show	targetAddr table information
tpa	ram -	Show	targetParams table information
not	ify -	Show	notify table information
dum	р –	Show	all SNMPv3 information

SNMP バージョン3 (SNMPv3) は、以下をサポートすることによって SNMPv2 フレームワークを補 完する拡張 SNMP フレームワークです。

- 新しい SNMP メッセージフォーマット
- メッセージのセキュリティ
- アクセス制御
- SNMP パラメータのリモート設定

SNMPv3 アーキテクチャの詳細については、RFC2271~RFC2276 を参照してください。

次の表に SNMPv3 Information Menu の項目を示します。

項目	説明
usm	ユーザセキュリティモデル (USM) テーブル情報を表示します。
view	ビューの名前、サブツリー、マスク、タイプなどの情報を表示します。
access	ビューベースアクセス制御情報を表示します。
group	セキュリティモデル、ユーザ名、グループ名など、グループに関する情報を表
	示します。
comm	コミュニティテーブルに関する情報を表示します。
taddr	ターゲットアドレステーブルを表示します。
tparam	ターゲットパラメータテーブルを表示します。
notify	通報テーブルを表示します。
dump	全 SNMPv3 情報を表示します。

表8 SNMPv3 Information Menu 項目

#### SNMPv3 USM User Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/usm

usmUser Table: User Name	Protocol
adminmd5	HMAC_MD5, DES PRIVACY
adminsha	HMAC_SHA, DES PRIVACY
vlv2only	NO AUTH, NO PRIVACY

SNMPv3 のユーザベースセキュリティモデル (USM) で、メッセージの認証、プライバシ保護などの セキュリティサービスを行います。USM ユーザテーブルに表示されるユーザ ID を利用します。USM ユーザテーブルには以下の情報があります。

- ユーザ名
- セキュリティ名。セキュリティモデルと異なる文字列
- 認証プロトコル。ユーザ認証で使用されるプロトコルを示す。
- プライバシプロトコル

次の表に SNMPv3 ユーザテーブルの項目を示します。

#### 表9 SNMPv3 User Table 項目

項目	説明
User Name	スイッチのアクセスに使用するユーザ名です。
Protocol	プライバシプロトコルを使って、ユーザを保護するために使用されているプロトコルを
	表示します。スイッチはプライバシについて DES アルゴリズムをサポートしていま
	す。認証アルゴリズムとして MD5 と HMAC-SHA もサポートしています。

#### SNMPv3 View Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/view

View Name	Subtree	Mask	Туре
iso	1		included
v1v2only	1		included
v1v2only	1.3.6.1.6.3.15		excluded
v1v2only	1.3.6.1.6.3.16		excluded
v1v2only	1.3.6.1.6.3.18		excluded

グループ毎にアクセスできる MIB ツリーを制限できます。ここでは、ビュー名毎に MIB サブツリーを 含むか除外するかを示します。

次の表に SNMPv3 ビューテーブルの項目を示します。

#### 表10 SNMPv3 View Table 項目

項目	説明
View Name	ビューの名前を表示します。
Subtree	MIB サブツリーを OID ストリングとして表示します。ビューサブツリーは、MIB
	オブジェクトインスタンスです。
Mask	ビットマスクを表示します。
Туре	ビュー名毎に、サブツリーを含むか除外するかを示します。

#### SNMPv3 Access Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/access

Group Name	Model	Level	ReadV	WriteV	NotifyV
v1v2grp	snmpv1	noAuthNoPriv	iso	iso	v1v2only
admingrp	usm	authPriv	iso	iso	iso

vacmAccess Table (View-based Access Control Model Access Table) で、グループ名、セキュリティ 情報、Read View、Write View、Notify Viewの対応がマッピングされます。

グループのアクセス権は Read View、Write View、Notify View で決まります。Read View は Read を 許可する MIB オブジェクト、Write View は Write を許可する MIB オブジェクト、Notify View は通報 を許可する MIB オブジェクトを示します。

次の表に SNMPv3 アクセステーブルの項目を示します。

#### 表11 SNMPv3 Access Table 項目

項目	説明
Group Name	グループの名前を表示します。
Model	セキュリティモデルを表示します。SNMPv1、SNMPv2、USM です。
Level	アクセス権を得るために必要な最低レベルのセキュリティを表示します。
	noAuthNoPriv、authNoPriv、auth-Priv です。
ReadV	本エントリが Read アクセスを認める MIB ビューを表示します。
WriteV	本エントリが Write アクセスを認める MIB ビューを表示します。
NotifyV	本エントリが Notify アクセスを認める MIB ビューを表示します。

#### SNMPv3 Group Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/group

Sec Model	User Name	Group Name
snmpv1	v1v2only	vlv2grp
usm	adminmd5	admingrp
usm	adminsha	admingrp

グループ名とセキュリティモデルとユーザ名の対応表です。

次の表に SNMPv3 グループテーブルの項目を示します。

#### 表12 SNMPv3 Group Table 項目

項目	説明
Sec Model	使用するセキュリティモデルを表示します。USM、SNMPv1、SNMPv2、SNMPv3 の
	いずれかです。
User Name	ユーザ名を表示します。
Group Name	グループ名を表示します。

#### SNMPv3 Community Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/comm

Index	Name	User Name	Тад
trapl	public	vlv2only	vlv2trap

```
SNMP コミュニティテーブル情報を表示します。
```

次の表に SNMPv3 コミュニティテーブルの項目を示します。

#### 表13 SNMPv3 Community Table 項目

項目	説明
Index	本テーブルの行に固有のインデックス値を表示します。
Name	コミュニティ名を表示します。
User Name	ユーザセキュリティモデル (USM) のユーザ名を表示します。
Tag	コミュニティタグを表示します。

#### SNMPv3 Target Address Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/taddr

Name	Transport Addr	Port	Taglist	Params
trapl	47.81.25.66	162	v1v2trap	vlv2param

SNMPv3 ターゲットアドレステーブル情報を表示します。

次の表に SNMPv3 ターゲットアドレステーブルの項目を示します。

表14 SNMPv3 Target Address Table 項目

項目	説明
Name	ローカルには任意ですが、ユニークな識別子で、本 SNMP ターゲットアドレスエ
	ントリと関連の識別子を表示します。
Transport Addr	トランスポートアドレスを表示します。
Port	SNMP UDP ポート番号を表示します。
Taglist	SNMP メッセージを送信するターゲットアドレスの選択に用いるタグ値を表示し
	ます。
Params	ターゲットパラメータテーブルのエントリを表示します。エントリには、トラン
	スポートアドレスに送信するメッセージの生成時に使用する SNMP パラメータが
	あります。

### SNMPv3 Target Parameters Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/tparam

Name	MP Model	User Name	Sec Model	Sec Level
vlv2param	snmpv2c	vlv2only	snmpv1	noAuthNoPriv

次の表に SNMPv3 ターゲットパラメータテーブルの項目を示します。

表15	SNMPv3	Target	Parameters	Table	項目
-----	--------	--------	------------	-------	----

項目	説明
Name	ローカルには任意ですが、ユニークな識別子で、本ターゲットパラメータエント
	リと関連の識別子を表示します。
MP Model	本エントリを使用する SNMP メッセージの生成時に用いるメッセージ処理モデル
	を表示します。
User Name	本エントリを使用するユーザ名を表示します。
User Name Sec Model	本エントリを使用するユーザ名を表示します。 本エントリを用いて SNMP メッセージを生成するときに使用するセキュリティモ
User Name Sec Model	本エントリを使用するユーザ名を表示します。 本エントリを用いて SNMP メッセージを生成するときに使用するセキュリティモ デルを表示します。
User Name Sec Model Sec Level	<ul> <li>本エントリを使用するユーザ名を表示します。</li> <li>本エントリを用いて SNMP メッセージを生成するときに使用するセキュリティモデルを表示します。</li> <li>本エントリを用いて SNMP メッセージを生成するときに使用するセキュリティの</li> </ul>

### SNMPv3 Notify Table information

コマンド: /info/sys/snmpv3/notify

Name	Tag
vlv2trap	vlv2trap

次の表に SNMPv3 通報テーブルの項目を示します。

表16 SNMPv3 Notify	Table 項目
項目	説明
Name	ローカルには任意ですが、ユニークな識別子で、本 SNMP 通報エントリと関連の識別
	子です。
Tag	SNMP ターゲットアドレステーブルのエントリの選択に使用するタグ値を表示しま
	す。本エントリとタグ値が同じ SNMP ターゲットアドレステーブルのエントリが選択
	されます。値の長さがゼロの場合、エントリは選択されません。

# SNMPv3 dump

コマンド: /info/sys/snmpv3/dump

Engine ID = usmUser Tak	= 80:00:0 ple:	07:50:03:00:01	F:6A:F8:F	EF:0	0			
User Name			Protoc	o⊥ 				
admin adminmd5 adminsha v1v2only	NO AUTH, NO PRIVACY HMAC_MD5, DES PRIVACY HMAC_SHA, DES PRIVACY NO AUTH, NO PRIVACY							
vacmAccess Group Name	Table: Model	Level	ReadV	Wri	teV	NotifyV		
admin v1v2grp admingrp	usm snmpv1 usm	noAuthNoPriv noAuthNoPriv authPriv	org org org	org org org	 [ [	org v1v2only org		
vacmViewTre View Name	eeFamily	Table: Subtree	Mas	sk		Туре		
org vlv2only vlv2only vlv2only vlv2only vlv2only		1.3 1.3 1.3.6.1.6.3 1.3.6.1.6.3 1.3.6.1.6.3	3.15 3.16 3.18			included included excluded excluded excluded		
vacmSecurit Sec Model	yToGroup User Nan	Table: Ne			Group	Name		
snmpvl usm usm	v1v2only admin adminsha				vlv2gi admin adming	drb J		
snmpCommuni Index	ity Table Name	User Name			Tag 			
snmpNotify Name	Table:	Tag						
snmpTargetA Name	Addr Tabl Transpor	e: t Addr Port	Taglist		Params	5		
snmpTargetI Name	Params Ta	uble: MP Model Us	ser Name			Sec Model	Sec Level	

# System information

コマンド: /info/sys/gen

```
System Information at 6:56:22 Thu Jan 11, 2006
Time zone: Asia/Tokyo
Blade Network Technologies 1Gb Intelligent L2 Switch
sysName:
sysLocation:
RackId: NEC01A 6X00125
RackName: Default_Rack_Name
EnclosureSerialNumber: NEC01A 6X00125
EnclosureName: Default_Chassis_Name
BayNumber: 1
Switch is up 0 days, 14 hours, 56 minutes and 22 seconds.
Last boot reason: reset from console
MAC address: 00:10:00:01:00:01 IP (If 1) address: 10.14.4.16
Revision:
Switch Serial No:
Spare Part No:
Software Version 1.2.0 (FLASH image1), active configuration.
```

システム情報には以下のものがあります。

- システム日時
- スイッチのモデル名
- Rack の名前と位置
- MAC アドレス
- スイッチの IP アドレス
- ソフトウェアイメージファイルとバージョン番号
- 現在の Configuration ブロック (active、backup、factory default)

# Show last 100 syslog messages

コマンド: /info/sys/log

Date	Time	Severity level	Message
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 1
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 8
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 7
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 12
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 11
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 14
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 13
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 16
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 15
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 17
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 20
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 22
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 23
Jul 8	17:25:41	NOTICE	system: link up on port 21
Jul 8	17:25:42	NOTICE	system: link up on port 4
Jul 8	17:25:42	NOTICE	system: link up on port 3
Jul 8	17:25:42	NOTICE	system: link up on port 6
Jul 8	17:25:42	NOTICE	system: link up on port 5
Jul 8	17:25:42	NOTICE	system: link up on port 10
Jul 8	17:25:42	NOTICE	system: link up on port 9

各メッセージに日付と時刻のフィールド、重大度レベルがあります。重大度レベルは以下の8つで示 されます。

- EMERG システムが利用できないことを示します。
- ALERT 直ちに処置すべきであることを示します。
- **CRIT** 危機的状態であることを示します。
- ERR エラー状態か動作不良を示します。
- WARNING 警告状態であることを示します。
- NOTICE 正常ですが、多少問題な状態であることを示します。
- INFO 情報メッセージを示します。
- DEBUG デバッグメッセージを示します。

### System user information

コマンド: /info/sys/user

Usernames:	
user - enabled	
oper - disabled	
admin – Always Enabled	
Current User ID table:	
1: name tech1 , ena, cos user	, password valid, online
2: name tech2 , ena, cos user	, password valid, offline

次の表にユーザ名情報の項目を示します。

表17	Use	Name	information	項	目
-----	-----	------	-------------	---	---

項目	説明
user	ユーザアクセスレベルのステータスを表示します。
oper	オペレータアクセスレベルのステータスを表示します。
admin	アドミニストレータアクセスレベルのステータスを表示します。
Current User	設定されているUser IDのステータスを表示します。
ID Table	

# Layer 2 Information Menu

コマンド: /info/12

[Layer 2 Menu	]
fdb	- Forwarding Database Information Menu
lacp	- Link Aggregation Control Protocol Menu
stp	- Show STP information
cist	- Show CIST information
trunk	- Show Trunk Group information
vlan	- Show VLAN information
gen	- Show general information
dump	- Dump all layer 2 information

次の表に Layer 2 Menu の項目を示します。

#### 表18 Layer 2 Menu 項目

項目	説明
fdb	FDB Information Menu を表示します。
stp	STPの有効/無効の他、以下のSTPブリッジ情報を確認できます。
	<ul> <li>プライオリティ</li> </ul>
	• Hello Time
	Max Age
	Forward Delay
	Aging Time
	以下のポート固有 STP 情報を参照することもできます。
	<ul> <li>ポート番号とプライオリティ</li> </ul>
	<ul> <li>コスト</li> </ul>
	● 状態
cist	以下の <b>CIST</b> 情報を表示します。
	• プライオリティ
	• Hello Time
	Max Age
	• Forward Delay
	以下のホート固有 CISI 情報を参照することもできます。
	<ul> <li>ホート番号とファイオリアイ</li> <li>ニュー</li> </ul>
+ l-	● 仏影
	トランククルーフを構成した場合、トランククルーフの谷小一下の状態を確認できます。
vian	以下の VLAN 構成 (1) 戦を衣示します。
	● VLAN 留方 ● V/LAN タ
	<ul> <li>VLAN 石</li> <li>フテータフ</li> </ul>
	• $\Lambda / - \gamma \Lambda$ • $V = \Lambda + \gamma \Lambda$
	<ul> <li>VLAN のホートアンパー</li> <li>レイヤ 9 記字 桂田 なまデートます</li> </ul>
<u>yen</u>	レイ 「 4 以に用取るが小しまり。 Lovor 9 Monu から利用できるオズブのフィッチ信報を表示します(設定によっては 40K ま
սսութ	Layer Z INTELIN パロゲリ用 しさる りゃくい ハイ ツノ 旧牧を衣小 しより ( 反圧によつ しは IUN よ たけ これ IUL ト)

### **FDB** Information Menu

コマンド: /info/l2/fdb

[Forwarding	Database	Menu]
find	- Show	a single FDB entry by MAC address
port	- Show	FDB entries on a single port
vlan	- Show	FDB entries on a single VLAN
state	- Show	FDB entries by state
dump	- Show	all FDB entries

**FDB (Forwarding Database)** には、学習した MAC アドレスと、マッピングされたポート番号の対応情報があります。

表19 FDB Information Menu 項目

項目	説明
find <mac address=""> [<vlan>]</vlan></mac>	1 つのデータベースエントリを MAC アドレスで表示しま
	す。装置の MAC アドレスを入力するよう要求されます。
	入力する MAC アドレスのフォーマット:
	xx:xx:xx:xx:xx:xx (例:08:00:20:12:34:56)
	もしくは
	xxxxxxxxxxx (例:080020123456)
port <port number=""></port>	指定したポートの全 FDB エントリを表示します。
vlan <1-4095>	指定した VLAN の全 FDB エントリを表示します。範囲は 1
	~4095 です。
state unknown forward trunk	指定した状態に合致する全 FDB エントリを表示します。
Dump	FDB 内の全エントリを表示します。

#### Show all FDB information

コマンド: /info/l2/fdb/dump

MAC address	VLAN	Port	Trnk	State
00:02:01:00:00:00	300		1	TRK
00:02:01:00:00:01	300	23		FWD
00:02:01:00:00:02	300	23		FWD
00:02:01:00:00:03	300	23		FWD
00:02:01:00:00:04	300	23		FWD
00:02:01:00:00:05	300	23		FWD
00:02:01:00:00:06	300	23		FWD
00:02:01:00:00:07	300	23		FWD
00:02:01:00:00:08	300	23		FWD
00:02:01:00:00:09	300	23		FWD
00:02:01:00:00:0a	300	23		FWD
00:02:01:00:00:0b	300	23		FWD
00:02:01:00:00:0c	300	23		FWD

フォワーディング (FWD) 状態にあるアドレスは、スイッチがそのアドレスを学習したことを示しています。トランキング (TRK) 状態にある場合には、Tmk フィールドにトランクグループ番号を表示します。ポートの状態が未知 (UNK) になっている場合、MAC アドレスをスイッチがまだ学習しておらず、宛先アドレスとしてだけ見ています。アドレスが未知状態の場合、出力ポートは表示されません。

#### Clearing entries from the FDB

スタティック MAC アドレスを FDB から削除する方法については、「Configuration Menu」の章の「Static FDB configuration」を参照してください。

# Link Aggregation Control Protocol information

コマンド: /info/l2/lacp

[LACP Menu]	
aggr	- Show LACP aggregator information for the port
port	- Show LACP port information
dump	- Show all LACP ports information

#### 表20 LACP information Menu 項目

項目		
aggr	各ポートに関連づけられたアグリゲータの情報を表示します。	
port	指定したポートの LACP 情報を表示します。	
dump	全 LACP 情報を表示します。	

#### LACP dump

コマンド: /info/l2/lacp/dump

>> LA	CP# dump						
port	lacp	adminkey	operkey	selected	prio	attached	trunk
						aggr	
1	off	1	1	n	32768		
2	off	2	2	n	32768		
3	off	3	3	n	32768		
4	off	4	4	n	32768		
5	off	5	5	n	32768		
6	off	6	6	n	32768		
7	off	7	7	n	32768		
8	off	8	8	n	32768		

全 LACP 情報の表示にはスイッチの各ポートの以下の情報を含んでいます。

- ポート番号
- ポートの LACP モード(active, passive, off)
- ポートの adminkey 値
- ポートの operkey 値
- ポートの、リンクアグリゲーショングループへの選択有無
- ポートプライオリティ値
- 各ポートに関連付けられたアグリゲータ
- LACP トランクグループ番号

# Spanning Tree information

コマンド: /info/l2/stp

upfast	upfast disabled, update 40					
Spanni VLANs:	ing Tree 1	Group 1:	On (STP/P	PVST+)		
Currer 8000	nt Root: 00:02:a5	:dl:Of:ed	Path-Co d 8	ost Por 3 20	rt Hello MaxAge FwdDel 0 2 20 15	
Parame	eters: I	Priority 32768	Hello Ma 2	axAge Fwo 20 1	dDel Aging 15 300	
Port	Priority	r Cost	FastFwd	State	Designated Bridge Des Port	
1	0	0	n	FORWARI	 DING *	
2 3	0 0	0 0	n n	FORWARI FORWARI	DING * DING *	

スイッチは IEEE 802.1D スパニングツリープロトコル (STP) を使用します。RSTP/MSTP をオンにしたときのスパニングツリーグループ情報については、「Rapid Spanning Tree and Multiple Spanning Tree Information」の節を参照してください。STP の有効/無効の他、以下の STP ブリッジ情報を参照できます。

- upfast (Uplink Fast) の状態
- 現ルート MAC アドレス
- パスコスト
- ポート
- Hello Time
- Max Age
- Forward Delay
- Aging Time

以下のポートの STP 情報も参照できます。

- ポート番号とプライオリティ
- コスト
- 状態
- ポート高速フォワーディング状態
- 指定ブリッジ
- 指定ポート

次の表に STP のパラメータを示します。

表21 STP パラメータ	
パラメータ	説明
Current Root	スパニングツリーのルートブリッジの情報です。ルートのプライオリティ
	(16 進)、MAC アドレスです。
Path-Cost	ルートブリッジまでのパスコストです。
Port	ルートポートになっているポート番号です。この値が 0 の場合、STP のル
	ートブリッジであることを示します。
Priority (bridge)	ブリッジプライオリティ値です。ブリッジプライオリティが最小のブリッジ
	がルートブリッジになります。
Hello	Hello Time 値です(秒)。ルートブリッジが BPDU (Bridge Protocol Data Unit)
	を送信する間隔です。ルートブリッジ以外のブリッジは、ルートブリッジの
	値を使用します。
MaxAge	Max Age 値です(秒)。STP ネットワークの再構築を開始するまでに、ブリッ
	ジが BPDU のを受信を待つ最大時間です。
FwdDel	Forward Delay 値です(秒)。リスニング状態からラーニング状態、もしくは
	ラーニング状態からフォワーディング状態に遷移する際、ブリッジポートが
	待ち合わせる時間です。
Aging	FDB の Aging Time です(秒)。
Priority (port)	ボートプライオリティ値です。指定ボートを決定するためのパラメータで
	す。複数のブリッジボートを1つのセグメントに接続している場合、ボート
	フライオリティが最小のホートが、セクメントの指定ホートになります。
Cost	ボートのパスコスト値です。パスコストは指定ボートを決定するためのパラ
	メータです。高速になるほどパスコストは小さくなります。
State	ポートの現在の状態を示します。BLOCKING、LISTENING、
	LEARNING、FORWARDING、DISABLEDのいずれかです。
Designated bridge	各ボートに接続された、指定ブリッジのプライオリティ (16 進) 、MAC アド
	レスです。
Designated port	本ポートを接続している指定ブリッジのポートのポート ID です。

# Rapid Spanning Tree and Multiple Spanning Tree information

コマンド: /info/l2/stp

upfas	t disak	oled, up	pdate 40						
Spann VLANs	ing Tre : 1-3 4	ee Groug 1095	p 1: On	(RSTP)	)				
Curre 8000	nt Root 00:00:	:: :01:00:1	P 19:00	ath-Co (	ost Port ) 0	Hello M 9	axAge 20	FwdDel 15	
Param	eters:	Priori 32768	ity Hel 3 9	lo Ma	axAge Fwo 20 :	dDel Ag 15 3	ing 00		
Port	Prio	Cost	State	Role	Designa	ated Bri	dge	Des Port	Туре
1	0	0	DSB						
2	0	0	DSB						
3	0	0	DSB						
4	0	0	DSB						
5	0	0	DSB						
б	0	0	DSB						
7	0	0	DSB						
8	0	0	DSB						
9	0	0	DSB						
10	0	0	DISC						
11	0	0	FWD	DESG	8000-00:	00:01:00	:19:00	8017	P2P2,Edge
12	0	0	FWD	DESG	8000-00:	00:01:00	:19:00	8018	P2P

スイッチソフトウェアは、IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree Protocol (RSTP) と IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree Protocol (MSTP) のどちらかを使用するように設定できます。RSTP/MSTP を 有効にすると、スパニングツリーグループに関して以下の RSTP ブリッジ情報を参照できます。

- upfast (Uplink Fast) の状態
- 現ルート MAC アドレス
- パスコスト
- ポート
- Hellot Time
- Max Age
- Forward Delay
- Aging Time

以下のポート固有 RSTP 情報を参照することもできます。

- ポート番号とプライオリティ
- コスト
- 状態
- 役割
- 指定ブリッジおよびポート
- リンクタイプ

#### 次の表に、RSTP または MSTP モードでの STP パラメータを示します。

表22 STP パラメータ	
パラメータ	説明
Current Root	スパニングツリーのルートブリッジに関する情報を示します。ルートのプライオ
	リティ (16 進) 、MAC アドレスです。
Path-Cost	ルートブリッジまでのパスコストの和です。
Port	ルートポートになっているポート番号です。この値が 0 の場合、STP のルートブ
	リッジであることを示します。
Priority (bridge)	ブリッジプライオリティ値です。ブリッジプライオリティが最小のブリッジがル
	ートブリッジになります。
Hello	Hello Time 値です(秒)。ルートブリッジが BPDU (Bridge Protocol Data Unit) を送
	信する間隔です。ルートブリッジ以外のブリッジは、ルートブリッジの値を使用
	します。
MaxAge	Max Age 値です(秒)。STP ネットワークの再構築を開始するまでに、ブリッジが
	BPDU の受信を待つ最大時間です。
FwdDel	Forward Delay 値です(秒)。リスニング状態からラーニング状態、もしくはラーニ
	ング状態からフォワーディング状態に遷移する際、ブリッジポートが待ち合わせ
	る時間です。
Aging	FDB の Aging Time です(秒)。
Priority (port)	ポートプライオリティ値です。指定ポートを決定するためのパラメータです。複
	数のブリッジポートを1つのセグメントに接続している場合、ポートプライオリ
	ティが最小のポートが、セグメントの指定ポートになります。
Cost	ポートのパスコスト値です。パスコストは指定ポートを決定するためのパラメー
	タです。ポートが高速になるほどパスコストは小さくなります。
State	ポートの現在の状態を示します。RSTP/MSTP モードでは、
	Discarding(DISC)、Learning(LRN)、Forwarding(FWD)、
	Disabled(DSB) のいずれかです。
Role	スパニングツリーにおいて本ポートがもつ現在の役割を示します。Designated
	(DESG)、Root (ROOT)、Alternate (ALTN)、Backup (BKUP)、Master (MAST)、
	Unknown (UNK) のいずれかです。
Designated bridge	各ポートに接続された、指定ブリッジのプライオリティ (16 進) 、MAC アドレス
	です。
Designated port	本ポートを接続している指定ブリッジのポートのポート ID です。
Туре	ポートに接続されているリンクのタイプと、ポートがエッジポートかどうかを示
	します。リンクタイプは AUTO、P2P、SHARED のいずれかです。

### **Common Internal Spanning Tree information**

コマンド: /info/l2/cist

```
Mstp Digest: 0xac36177f50283cd4b83821d8ab26de62
Common Internal Spanning Tree:
VLANs: 1 3-4094
Current Root: Path-Cost Port MaxAge FwdDel
8000 00:03:42:fa:3b:80 11 1 20
                                                   15
CIST Regional Root: Path-Cost
8000 00:03:42:fa:3b:80
                            11
Parameters: Priority MaxAge FwdDel Hops
              32768 20 15 20
Port Prio Cost State Role Designated Bridge Des Port Hello Type
 1 128 2000 FWD DESG 8000-00:03:42:fa:3b:80 8001 4 P2P, Edge
2 128 2000 FWD DESG 8000-00:03:42:fa:3b:80 8002
 3 128 2000 DSB
 4 128 2000 DSB
5 128 2000 DSB
 6 128 2000 DSB
 7 128 2000 DSB
 8 128 2000 DSB
9 128 2000 DSB
 10 128 0
               DSB
11 128 2000 FWD DESG 8000-00:03:42:fa:3b:80
12 128 2000 DSB
```

Common Internal Spanning Tree (CIST)の有効無効の他、以下の CIST ブリッジ情報を参照できます。

- **CIST** ルート
- CIST リージョナルルート
- プライオリティ
- Max Age
- Forward Delay
- ホップ

以下のポート固有 CIST 情報も参照できます。

- ポート番号とプライオリティ
- コスト
- 状態
- 役割
- 指定ブリッジとポート
- Hello Time
- リンクタイプとポートタイプ
次の表に CIST パラメータを示します。

表23 CIST パラメータ	
パラメータ	説明
CIST Root	CIST のルートブリッジに関する情報を示します。この行の値で CIST ルートを表します。
CIST Regional Root	本 MSTP リージョンのルートブリッジに関する情報を示します。この 行の値でリージョナルルートを表します。
Priority (bridge)	ブリッジプライオリティ値です。ブリッジプライオリティが最小のブリ ッジがルートブリッジになります。
MaxAge	Max Age 値です(秒)。STP ネットワークの再構築を開始するまでに、ブ リッジが BPDU の受信を待つ最大時間です。
FwdDel	Forward Delay 値です(秒)。リスニング状態からラーニング状態、もし くはラーニング状態からフォワーディング状態に遷移する際、ブリッジ ポートが待ち合わせる時間です。
Hops	最大ブリッジホップ数を示します。
Priority (port)	ポートプライオリティ値です。指定ポートを決定するためのパラメータ です。複数のブリッジポートを1つのセグメントに接続している場合、 ポートプライオリティが最小のポートが、セグメントの指定ポートにな ります。
Cost	ポートのパスコスト値です。指定ポートを決定するためのパラメータで す。ポートが高速になるほどパスコストは小さくなります。
State	ポートの現在の状態を示します。Discarding(DISC)、 Learning(LRN)、Forwarding(FWD)、Disabled(DSB)のい ずれかです。
Role	スパニングツリーにおいて本ポートがもつ現在の役割を示します。 Designated (DESG)、Root (ROOT)、Alternate (ALTN)、Backup (BKUP)、Master (MAST)、Unknown (UNK) のいずれかです。
Designated Bridge	各ポートに接続された、指定ブリッジのプライオリティ (16 進)、MAC アドレスです。
Designated Port	本ポートを接続している指定ブリッジのポートのポート ID です。
Hello	Hello Time 値です(秒)。ルートブリッジが BPDU (Bridge Protocol Data Unit) を送信する間隔です。ルートブリッジ以外のブリッジは、ルート ブリッジの値を使用します。
Туре	ポートに接続されているリンクのタイプと、ポートがエッジポートかど うかを示します。リンクタイプは AUTO、P2P、SHARED のいずれか です。

# Trunk group information

コマンド: /info/l2/trunk

Trunk group 1, Enabled port state: 17: STG 1 forwarding 18: STG 1 forwarding

トランクグループを構成すると、各種トランクグループの各ポートの状態を参照できます。

# **VLAN** information

コマンド:	/info/l2/vlan
-------	---------------

VLAN	Name	Status	Ports
1	Default VLAN	ena	4 5
2	pc03p	ena	2
7	pc07f	ena	7
11	pc04u	ena	11
14	8600-14	ena	14
15	8600-15	ena	15
16	8600-16	ena	16
17	8600-17	ena	17
18	35k-1	ena	18
20	35k-3	ena	20
21	35k-4	ena	21
22	pc07z	ena	22
24	redlan	ena	24
300	ixiaTraffic	ena	1 12 13 23
4000	bpsports	ena	3-6 8-10
4095	Mgmt VLAN	ena	19

表示情報には、すべての構成済み VLAN、アクティブリンク状態にあるすべてのメンバポートがあります。

VLAN 情報には以下のものがあります。

- VLAN 番号
- VLAN 名
- ステータス
- **VLAN** のポートメンバ

# Layer 2 general information

コマンド: /info/l2/gen

STP uplink fast mode	:	disabled
----------------------	---	----------

次の表に Layer 2 General Information を示します。

表24 Layer 2 General Information 項目

フィールド	説明
STP uplink fast mode	STP uplink fast のステータスを表示します(enabled または
	disabled)

# Layer 3 information

コマンド: /info/13

[Layer 3 Menu	]
arp	- ARP Information Menu
ip	- Show IP information
igmp	- Show IGMP Snooping Multicast Group information
dump	- Dump all layer 3 information

次の表に Layer 3 メニューの項目を示します。

#### 表25 Layer 3 メニュー項目

項目	説明
arp	Address Resolution Protocol メニューを表示します。
ip	以下の IP 情報を表示します。
	<ul> <li>IP インタフェース情報:インタフェース番号、IP アドレス、サブネットマス</li> </ul>
	ク、VLAN 番号、ステータス
	<ul> <li>デフォルトゲートウェイ情報:メトリック、ゲートウェイ番号、IP アドレス、</li> </ul>
	ヘルスステータス
	<ul> <li>IP フォワーディング情報: Enable、Inet、Imask</li> </ul>
	<ul> <li>ポートステータス</li> </ul>
igmp	IGMP メニューを表示します。
dump	Layer 3 メニューから利用できるすべてのスイッチ情報をダンプします(設定に応じ
	て <b>10K</b> またはそれ以上)。

# **ARP** information

コマンド: /info/arp

[Address Reso	olution Protocol Menu]	
find	- Show a single ARP entry by IP address	
port	- Show ARP entries on a single port	
vlan	- Show ARP entries on a single VLAN	
addr	- Show ARP entries for switch's interface	
dump	- Show all ARP entries	

Address Resolution Protocol (ARP) 情報には、各エントリの IP アドレスと MAC アドレス、アドレス のステータスフラグ/VLAN/ポート、ポート参照情報などがあります。

次の表に、	Address Resolutio	n Protocol メニ	ニューの項目を	を示します。
-------	-------------------	---------------	---------	--------

表26	Address	Resolution	Protocol	メニュ	一項目
-----	---------	------------	----------	-----	-----

項目	説明
find <ip address=""></ip>	指定した IP アドレスの ARP エントリを表示します。例: 192.4.17.101
port <port number=""></port>	指定したポートの ARP エントリを表示します。
vlan <1-4095>	指定した VLAN の ARP エントリを表示します。
addr	ARP アドレスリストを表示します。IP アドレス、IP マスク、MAC アド
	レス、VLAN フラグです。
dump	以下の全 ARP エントリを表示します。
	<ul> <li>各エントリの IP アドレスと MAC アドレス</li> </ul>
	<ul> <li>アドレスステータスフラグ</li> </ul>
	<ul> <li>アドレスが属する VLAN とポート</li> </ul>
	アドレスを参照したポート(表示された IP アドレスにトラフィックを
	送ったポートがなければ空白)

#### ARP address list information

コマンド: /info/arp/addr

IP address	IP mask	MAC address	VLAN	Flags
205.178.18.66	255.255.255.255	00:70:cf:03:20:04	4095	
205.178.50.1	255.255.255.255	00:70:cf:03:20:04	1	

#### Show all ARP entry information

コマンド: /info/arp/dump

IP address	Flags	MAC address	VLAN	Port
192.168.2.4		00:50:8b:b2:32:cb	1	18
192.168.2.19		00:0e:7f:25:89:b5	1	17
192.168.2.61	P	00:0f:6a:ed:46:00	1	

Flags フィールドはエントリに関する追加情報を示すフィールドです。フラグが何もなければ、その エントリは正常です。

表27 ARP ダンプの Flags パラメータ

フラグ	説明
P	スイッチ IP インタフェース用に生成した永続エントリ
R	間接ルートエントリ
U	未解決 ARP エントリ。MAC アドレスは学習されていません。

## **IP** information

コマンド: /info/13/ip

```
Interface information:
  1: 47.80.23.243   255.255.254.0   47.80.23.255,   vlan 1, up
Default gateway information: metric strict
  1: 47.80.22.1,   up
  2: 47.80.225.2,   up
```

以下のインタフェース情報、デフォルトゲートウェイ情報が表示されます。

- インタフェース番号
- IP アドレス
- IP マスク
- IP ブロードキャストアドレス
- ステータス

## IGMP multicast group information

コマンド: /info/l3/igmp

[IGMP	Multicas	t	Group Menu]
	mrouter - Show IGMP Snooping Multicast Router Port informat		Show IGMP Snooping Multicast Router Port information
	find	-	Show a single group by IP group address
	vlan	-	Show groups on a single vlan
	port	-	Show groups on a single port
	trunk	-	Show groups on a single trunk
	dump	-	Show all groups

次の表に、スイッチが学習した IGMP グループに関する情報の表示に使用するコマンドを示します。

表28 IGMP Multicast Group メニュー項目

項目	説明
mrouter	Multicast Router メニューを表示します。
find <ip address=""></ip>	指定した IP アドレスの IGMP マルチキャストグループを表示します。
vlan <1-4094>	指定した VLAN の全 IGMP マルチキャストグループを表示します。
port <port number=""></port>	指定したポートの全 IGMP マルチキャストグループを表示します。
trunk <1-40>	指定したトランクグループの全 IGMP マルチキャストグループを表示しま
	す。
dump	全マルチキャストグループに関する情報を表示します。

## IGMP multicast router port information

コマンド: /info/l3/igmp/mrouter

IGMP	Multi	LCa	ast Ro	oute	r Menu]						
	vlan	-	Show	all	multicast	router	ports	on	а	single	vlan
	dump	_	Show	all	multicast	router	ports				

次の表に、IGMP スヌーピングにより学習したマルチキャストルータに関する情報の表示に用いる項 目を示します。

#### 表29 IGMP Multicast Router Menu 項目

項目	説明
vlan <1-4094>	指定した VLAN の全マルチキャストグループに関する情報を表示します。
dump	スイッチが学習した全マルチキャストグループの情報を表示します。

## **RMON Information Menu**

[

コマンド: /info/rmon

[RMON	Informa	Information Menu]				
	hist	-	Show RMON History group information			
	alarm	-	Show RMON Alarm group information			
	event – Show RMON Event group information		Show RMON Event group information			
	dump	mp - Show all RMON information				

次の表に RMON Information Menu の項目を示します。

#### 表30 RMON Information Menu 項目

項目	説明
hist	RMON History group configuration メニューを表示します。
alarm	RMON Alarm group configuration メニューを表示します。
event	RMON Event group configuration メニューを表示します。
dump	すべての RMON Information メニュー項目を表示します。

# **RMON** history information

コマン	/ド: /ir	nfo/rmc	on/hist	
RMON	History	group	configuration:	

KHON HISCO.	ry group conriguration.			
Index	IFOID	Interval	Rbnum	Gbnum
1	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.24	30	5	5
2	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.24	30	5	5
3	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.18	30	5	5
4	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.19	30	5	5
5	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.24	1800	5	5

次の表に RMON History group configuration メニューの項目を示します。

項目	説明
Index	各 history を示すインデックス番号です。
IFOID	MIB OID を表示します。
Interval	各バケットのサンプリングする時間間隔を表示します。
Rbnum	要求バケット数を表示します。データを保存するデータスロットの数です。
Gbnum	サンプリングデータを保持する許容バケット数を表示します。

#### **RMON** alarm information

RMON A	larm group	confi	guration:					
Index	Interval	Туре	rLimit	fLimit	rEvtIdx	fEvtIdx	last value	
1	30	abs	10	0	1	0	0	
2	900	abs	0	10	0	2	0	
3	300	abs	10	20	0	0	0	
4	1800	abs	10	0	1	0	0	
5	1800	abs	10	0	1	0	0	
8	1800	abs	10	0	1	0	56344540	
10	1800	abs	10	0	1	0	0	
11	1800	abs	10	0	1	0	0	
15	1800	abs	10	0	1	0	0	
18	1800	abs	10	0	1	0	0	
100	1800	abs	10	0	1	0	0	
Index		OI	D					
1	1.3	.6.1.2	.1.2.2.1.10	0.257				
2	1.3	.6.1.2	.1.2.2.1.1	L.258				
3	1.3	.6.1.2	.1.2.2.1.12	2.259				
4	1.3	.6.1.2	.1.2.2.1.13	3.260				
5	1.3.6.1.2.1.2.2.1.14.261							
8	1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.280							
10	1.3.6.1.2.1.2.2.1.15.262							
11	1.3.6.1.2.1.2.2.1.16.263							
15	1.3	.6.1.2	.1.2.2.1.19	9.266				
18	1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.279							
100	1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.264							

次の表に、RMON Alarm group configuration メニューの項目を示します。

項目	説明
Index	各アラームインスタンスを識別するインデックス番号を表示します。
Interval	データをサンプリングして、立上り、立下りしきい値と比較する時間間隔を表示しま
	す。
Туре	選択した変数をサンプリングし、しきい値と比較する方法を表示します。
	<ul> <li>abs:絶対値。選択した変数の値を、サンプリング間隔の最後にしきい値と直接</li> </ul>
	比較します。
	• delta:デルタ値。選択した変数の最終サンプル値を現在の値から引き、その差を
	しきい値と比較します。
rLimit	サンプリングした統計データの立上りしきい値を表示します。
fLimit	サンプリングした統計データの立下りしきい値を表示します。
rEvtIdx	立上りしきい値を交差したときにトリガする立上りアラームイベントインデックスを
	表示します。
fEvtIdx	立下りしきい値を交差したときにトリガする立下りアラームイベントインデックスを
	表示します。
Last value	最後にサンプリングした値を表示します。
OID	各アラームインデックスの MIB OID を表示します。

表32 RMON Alarm group configuration メニュー項目

#### **RMON** event information

コマンド: /info/rmon/event

RMON E	vent g	group co	onfig	gurat	ion:	
Index	Туре	Las	st Se	ent		Description
1	both	0D:	0H:	1M:2	20S	Event_1
2	none	0D:	0н:	0M:	0S	Event_2
3	log	0D:	0H:	0M:	0S	Event_3
4	trap	0D:	0H:	0M:	0S	Event_4
5	both	0D:	0H:	0M:	0S	Log and trap event for Link Down
10	both	0D:	0H:	0M:	0S	Log and trap event for Link Up
11	both	0D:	0H:	0M:	0S	Send log and trap for icmpInMsg
15	both	0D:	0H:	0M:	0S	Send log and trap for icmpInEchos
100	both	0D:	0H:	0M:	0S	Event_100

次の表に RMON Event group configuration メニューの項目を示します。

表33 RMON Event group configuration メニュー項目

項目	説明
Index	各イベントインスタンスを識別するインデックス番号を表示します。
Туре	本イベントの通報のタイプを表示します。None、log、trap、both のいずれかで
	す。
Last Sent	スイッチがリブートしてから最後のイベントが発生した時までの経過時間を表示しま
	す。スイッチがリブートするとクリアされます。
Description	イベントの説明を表示します。

# Link status information

コマンド: /info/link

Port	Speed	Duplex	Flow	/ Ctrl	Link
			TX	RX	
1	1000	any	yes	yes	down
2	1000	any	yes	yes	down
3	1000	full	yes	yes	down
4	1000	full	yes	yes	down
5	1000	any	yes	yes	down
б	1000	any	yes	yes	down
7	1000	any	yes	yes	down
8	1000	full	yes	yes	up
9	1000	full	yes	yes	down
10	1000	full	yes	yes	down
11	1000	any	yes	yes	down
12	1000	any	yes	yes	down
13	1000	any	yes	yes	down
14	1000	any	yes	yes	down
15	1000	any	yes	yes	down
16	1000	any	yes	yes	down
17	1000	full	yes	yes	up
18	1000	full	yes	yes	up
19	100	full	yes	yes	up
20	100	full	yes	yes	down
21	1000	full	yes	yes	down
22	1000	full	no	yes	down
23	any	any	yes	yes	down
24	any	any	yes	yes	down

スイッチの各ポートについて、以下のリンクステータス情報を表示します。

- ポート番号
- ポート速度(10Mb/s、100Mb/s、1000Mb/s、any)
- 全二重/半二重モード(half、full、any)
- 送受信フロー制御(no、yes、any)
- リンクステータス (**up、down**)

## Port information

コマンド: /info/port

Port	Tag	RMON	PVID	NAME		VLAN(s)
1	 n			Downlink1		
2	n	đ	1	Downlink2	1	
3	n	d	1	Downlink3	1	
4	n	d	1	Downlink4	1	
5	n	d	1	Downlink5	1	
6	n	d	1	Downlink6	1	
7	n	d	1	Downlink7	1	
8	n	d	1	Downlink8	1	
9	n	d	1	Downlink9	1	
10	n	d	1	Downlink10	1	
11	n	d	1	Downlink11	1	
12	n	d	1	Downlink12	1	
13	n	d	1	Downlink13	1	
14	n	d	1	Downlink14	1	
15	n	d	1	Downlink15	1	
16	n	d	1	Downlink16	1	
17	n	d	1	Xconnect1	1	
18	n	d	1	Xconnect2	1	
19	n	d	4095	Mgmt	4095	
20	n	d	1	Uplink1	1	
21	n	d	1	Uplink2	1	
22	n	d	1	Uplink3	1	
23	n	d	1	Uplink4	1	
24	n	d	1	Uplink5	1	

ポート情報には以下のものがあります。

- ポート番号
- ポートで VLAN タグの使用有無 (y または n)
- RMON の有効無効(eまたは d)
- ・ ポート VLAN ID (PVID)
- ポート名
- VLAN メンバ

# Logical Port to GEA Port mapping

コマンド:	/info/geaport
-------	---------------

Logical Port	GEA Port(0-based)	GEA Unit
1	1	0
2	2	0
3	4	0
4	7	0
5	8	0
6	12	0
7	13	0
8	14	0
9	0	0
10	3	0
11	5	0
12	6	0
13	9	0
14	10	0
15	11	0
16	15	0
17	16	0
18	17	0
19	18	0
20	19	0
21	23	0
22	22	0
23	21	0
24	20	0

この表示で、論理ポート番号と、GEA ユニットのポートの対応を示します。

## **Uplink Failure Detection information**

コマンド: /info/ufd

```
Uplink Failure Detection 1: Enabled
LtM status: Down

        Member
        STG
        STG State
        Link Status

        -----
        ----
        -----
        -----

 port 24
                                              down
              1 DISABLED
10 DISABLED *
15 DISABLED *
* = STP turned off for this port.
LtD status: Auto Disabled
              Link Status
Member
                _____
_____
 port1disabledport2disabledport3disabledport4disabled
Uplink Failure Detection 2: Disabled
Uplink Failure Detection 3: Disabled
Uplink Failure Detection 4: Disabled
```

UFD (Uplink Failure Detection) 情報には以下のものがあります。

- UFD ステータス (enabled または disabled)
- LtM ステータスとメンバポート
- LtM ポートのスパニングツリーステータス
- LtD ステータスとメンバポート

## Information dump

コマンド: /info/dump

```
dump コマンドを使用すると、Information Menu から利用できるすべてのスイッチ情報をダンプしま
す(設定に応じて 10K またはそれ以上)。
```

# Statistics Menu

# はじめに

ユーザ/オペレータ/アドミニストレータのコマンドモードでのスイッチの統計データを確認できます。本章では、CLIによりスイッチ統計データを表示する方法について説明します。

## メニュー内容

コマンド: /stats

[Statistics	Menu]
port	- Port Stats Menu
12	- Layer 2 Stats Menu
13	- Layer 3 Stats Menu
mp	- MP-specific Stats Menu
snmp	- Show SNMP stats
ntp	- Show NTP stats
ufd	- Show Uplink Failure Detection stats
clrmp	- Clear all MP related stats
dump	- Dump all stats

次の表に Statistics メニューの項目を示します。

#### 表34 Statistics メニュー項目

項目	説明
port <port number=""></port>	指定したポートの Port Statistics メニューを表示します。ポートベースでトラ
	フィック統計データを表示するコマンドです。トラフィック統計データは MIB
	オブジェクトにあります。
12	Layer 2 Statistics Menu を表示します。
13	Layer 3 Statistics Menu を表示します。
mp	Management Processor Statistics Menu を表示します。
snmp	SNMP 統計データを表示します。
ntp <i><clear></clear></i>	NTP 統計データを表示します。
	clear オプションをつけて実行すると、NTP 統計データをクリアします。
ufd <i><clear></clear></i>	UFD 統計データを表示します。
	clear オプションをつけて実行すると UFD 統計データをクリアします。
clrmp	すべての Management Processor Statistics をクリアします。
dump	すべてのスイッチ統計データをダンプします。

## Port Statistics Menu

コマンド: /stats/port <port number>

[Port	Statist	Statistics Menu]					
	brg	- Show bridging ("dotl") stats					
	ether	- Show Ethernet ("dot3") stats					
	if	- Show interface ("if") stats					
	ip	- Show Internet Protocol ("IP") stats					
	link	- Show link stats					
	rmon	- Show RMON stats					
	clear	- Clear all port stats					

ポート毎にトラフィック統計データを表示するためのメニューです。

次の表に Port Statistics Menu の項目を示します。

#### 表35 Port Statistics Menu 項目

項目	説明
brg	ポートのブリッジング ("dot1") 統計データを表示します。
ether	ポートのイーサネット ("dot3") 統計データを表示します。
if	ポートのインタフェース統計データを表示します。
ip	ポートのインターネットプロトコル統計データを表示します。
link	ポートのリンク統計データを表示します。
rmon	ポートの RMON 統計データを表示します。
clear	ポートの統計データをすべてクリアします。

### **Bridging statistics**

コマンド: /stats/port <port number>/brg

Bridging statistics for port 1:	
dot1PortInFrames:	63242584
dot1PortOutFrames:	63277826
dot1PortInDiscards:	0
dot1TpLearnedEntryDiscards:	0
dot1StpPortForwardTransitions:	0

次の表に、選択したポートのブリッジング統計データの項目を示します。

表36 ポートのブリッジング統計データ項目

項目	説明
dot1PortInFrames	受信したフレーム数。本ポートに対応するインタフェースで受信
	したフレームのみカウントします。
dot1PortOutFrames	送信したフレーム数。本ポートに対応するインタフェースで送信
	したフレームのみカウントします。
dot1PortInDiscards	フォワーディングプロセスで廃棄(つまりフィルタリング)した
	受信フレーム数
dot1TpLearnedEntryDiscards	学習したか、したと思われるが、FDB に格納するスペースがな
	いため廃棄された FDB エントリの総数。
	このカウンタの値が大きくなれば、FDB が恒常的に満杯になっ
	ていることを示します(サブネットワークの性能に悪い影響を及
	ぼしている状態)。このカウンタの値が大きくても、現在は増加
	していなければ、問題が起きたことは起きたが、永続していない
	ことを示します。
dot1StpPortForwardTransition	本ポートがラーニング状態からフォワーディング状態に遷移した
S	回数

### **Ethernet statistics**

コマンド: /stats/port <port number>/ether

Ethernet statistics for port 1:		
dot3StatsAlignmentErrors:	0	
dot3StatsFCSErrors:	0	
dot3StatsSingleCollisionFrames:	0	
dot3StatsMultipleCollisionFrames:	0	
dot3StatsLateCollisions:	0	
dot3StatsExcessiveCollisions:	0	
dot3StatsInternalMacTransmitErrors:	0	
dot3StatsFrameTooLongs:	0	
dot3StatsInternalMacReceiveErrors:	0	

次の表に、選択したポートのイーサネット統計データの項目を示します。

表37 ポートのイーサネット統計データ項目	
項目	説明
dot3StatsAlignmentErrors	指定したインタフェースで受信したフレームで、長さが8
	の倍数ではなく、フレームチェックシーケンス (FCS) の
	チェックに合格しなかったフレームの数。
	本オブジェクトのインスタンスで表すカウントは、MAC
	サービスが論理リンクコントロール (LLC) にアライメント
	エラーステータスを戻したときにインクリメントされま
	す。
	多重エラー状態となった受信フレームは、IEEE 802.3 レ
	イヤ管理の規約に基づき、LLCに示されたエラーステータ
	スに従って排他的にカウントします。
dot3StatsFCSErrors	指定したインタフェースで受信したフレームで、長さが8
	の倍数で、フレームナェックシーゲンス (FCS) のナェッ
	クに合格しなかったノレームの剱。
	本オノシェクトのインスタンスで表 g カリントは、MAC
	$p = c \wedge m \operatorname{LLC}(c / v = \Delta) \pm y / \Delta / = \lambda / = y \wedge \varepsilon$
	庆しにとさにインクリアン下されより。 名香エラー世能となった <i>色信フレー</i> 人け IFFE 802.3 レ
	スに従って排他的にカウントします。
dot3StatsSingleCollisionFrames	一度の衝突だけで転送が禁止されるインタフェースで送信
	に成功したフレーム数。
	本オブジェクトのインスタンスでカウントしたフレーム
	は、ifOutUcastPkts、ifOutMulticastPkts、または
	ifOutBroadcastPkts の対応するインスタンスでもカウント
	しますが、dot3StatsMultipleCollisionFrame オブジェクト
	の対応するインスタンスではカウントしません。
dot3StatsMultipleCollisionFrames	二度以上の衝突で送信が禁止されるインタフェースで送信
	に成功したフレーム数。
	本オブジェクトのインスタンスでカウントしたフレーム
	は、ifOutUcastPkts、ifOutMulticastPkts、または
	ifOutBroadcastPkts の対応するインスタンスでもカウント
	しますが、dot3StatsSingleCollisionFrames オブジェクト
1	の対応するインスタンスではカウントしません。
dot3StatsLateCollisions	ハケットの送信で512ビット時間より以後に、衝突を検
	出しに時间級。 542 ビュー時期は 40M ビュー / 秒システルズ 54 90000 に
	SIZ L ツト時間は TOM L ツトノ やシスノム L SI.2pset に 対応します。本オブジェクトのインフタンフでデオカウン
	N心しより。本オノシェクトのインハクシハ(ホリカリン トに今まれる(遅い)衝空む 他の衝空間道統計データに
	「に日よれい」(建ツ)国人し、他ツ国人民座派出) ノに 広じて(通堂)衛空と老うすす
dot3StatsExcessiveCollisions	温度の衝突のため 送信に失敗したフレーム数
dot 3 Stats Internal MacTransmit Error	内部 MAC サブレイヤ送信エラーのため、送信に失敗した
s	フレーム数。
	dot3StatsLateCollisions オブジェクト、
	dot3StatsExcessiveCollisions オブジェクト、または
	dot3StatsCarrierSenseErrors オブジェクトでカウントされ
	ないインスタンスのみカウントします。

項目	説明
dot3StatsFrameTooLongs	受信したフレームで、最大許容フレームサイズを超えるフ
	レームの数。
	本オブジェクトのインスタンスが示すカウントは、MAC
	サービスが LLC に frameTooLong ステータスを戻したと
	きにインクリメントされます。
	多重エラー状態となった受信フレームは、IEEE 802.3 レ
	イヤ管理の規約に基づき、LLC に示されたエラーステータ
	スに従って排他的にカウントします。
dot3StatsInternalMacReceiveErrors	内部 MAC サブレイヤ受信エラーのため、受信に失敗した
	フレーム数。
	dot3StatsFrameTooLongs オブジェクト、
	dot3StatsAlignmentErrors オブジェクト、または
	dot3StatsFCSErrors オブジェクトでカウントされないイ
	ンスタンスのみカウントします。

表37 ポートのイーサネット統計データ項目

#### Interface statistics

コマンド: /stats/port <port number>/if

Interface statistics	for port 1:		
	ifHCIn Counters	ifHCOut Counters	
Octets:	51697080313	51721056808	
UcastPkts:	65356399	65385714	
BroadcastPkts:	0	6516	
MulticastPkts:	0	0	
Discards:	0	0	
Errors:	0	21187	

次の表に、選択したポートのインタフェース (IF) 統計データの項目を示します。

表38 ポートのインタフェース統計データ項目

項目	説明
Octets-IfHCIn	インタフェースで受信したオクテットの総数
UcastPkts-IfHCIn	ユニキャストアドレスで受信したパケットの数
BroadcastPkts-IfHCIn	ブロードキャストアドレスで受信したパケットの数
MulticastPkts-IfHCIn	マルチキャストアドレスで受信したパケットの総数
Discards-IfHCIn	受信したパケットのうち、廃棄されたパケットの数
Errors-IfHCIn	受信したパケットのうち、エラーとなったパケットの数
Octets-IfHCOut	インタフェースから送信したオクテットの総数
UcastPkts-IfHCOut	ユニキャストアドレスに送信したパケットの総数
BroadcastPkts-IfHCOut	ブロードキャストアドレスに送信したパケットの総数
MulticastPkts-IfHCOut	マルチキャストアドレスに送信したパケットの総数
Discards-IfHCOut	送信パケットのうち、廃棄されたパケットの数
Errors-IfHCOut	送信パケットのうち、エラーのために送信できなかったパケットの数

## Internet Protocol (IP) statistics

 $\exists \forall \mathcal{V}$ : /stats/port <port number>/ip

GEA IP statistics for port 1: ipInReceives : 0 ipInHeaderError: 0 ipInDiscards : 0

次の表に、選択したポートのインターネットプロトコル (IP) 統計データの項目を示します。

≠no	12.	1 m	口体ションカ西日	
衣39	シー	トの	IP 航計アーク項目	

項目	説明
ipInReceives	インタフェースから受信した入力データグラムの総数(エラーで受信したものを
	含む)
ipInHeaderError	IP ヘッダの宛先フィールドに示された IP アドレスが、本エンティティ(スイッ
	チ)で受信する有効アドレスでなかったために廃棄された入力データグラムの数
ipInDiscards	受信した IP データグラムのうち、廃棄された IP データグラム数

#### Link statistics

 $\exists \forall \mathcal{V}$ : /stats/port <port number>/link

Link statistics for port 1:	
linkStateChange:	2

次の表に、選択したポートのリンク統計データの項目を示します。

表40 ポートのリンク統計データ項目

項目	説明
linkStateChange	リンク状態変化の総数

### Port RMON statistics

コマンド: /stats/port <port number>/rmon

RMON statistics for port 2:		
etherStatsDropEvents:	NA	
etherStatsOctets:	0	
etherStatsPkts:	0	
etherStatsBroadcastPkts:	0	
etherStatsMulticastPkts:	0	
etherStatsCRCAlignErrors:	0	
etherStatsUndersizePkts:	0	
etherStatsOversizePkts:	0	
etherStatsFragments:	0	
etherStatsJabbers:	0	
etherStatsCollisions:	0	
etherStatsPkts64Octets:	0	
etherStatsPkts65to1270ctets:	0	
etherStatsPkts128to2550ctets:	0	
etherStatsPkts256to5110ctets:	0	
etherStatsPkts512to1023Octets:	0	
etherStatsPkts1024to1518Octets:	0	

次の表に、選択したポートのリモートモニタリング (RMON) 統計データを示します。

表41	RMON 統計データ
-----	------------

統計データ	説明
etherStatsDropEvents	システムリソース上の制約のために廃棄された受信パケットの
	総数
etherStatsOctets	ネットワークで受信したデータ(不良パケット内のデータを含
	む)のオクテットの総数(フレーミングビットは除くが、FCS
	オクテットは含む)
etherStatsPkts	受信したパケット(不良パケット、ブロードキャストパケッ
	ト、マルチキャストパケットを含む)の総数
etherStatsBroadcastPkts	ブロードキャストアドレス宛で受信したパケットの総数
etherStatsMulticastPkts	マルチキャストアドレス宛で受信したパケットの総数
etherStatsCRCAlignErrors	長さが 64 オクテットから 1518 オクテットまでで(フレーミン
	グビットを除くが、FCS オクテットを含む)、FCS エラーか、
	アライメントエラーがある受信パケットの総数
etherStatsUndersizePkts	長さが 64 オクテット(フレーミングビットは除くが、FCS オ
	クテットは含む)未満だが、その他は正常な受信パケットの総
	数
etherStatsOversizePkts	長さが 1518 オクテット(フレーミングビットは除くが、FCS
	オクテットは含む)を超えるが、その他は正常な受信パケット
etherStatsFragments	長さが 64 オクテット (フレーミングビットを除くが、FCS オ
	クアットを含む)未満で、FCS エラーか、アライメントエラー
	がある受信バケットの総数
etherStatsJabbers	長さが 1518 オクテット(フレーミングビットを除くが、FCS
	オクアットを含む)を超え、FCS エフーか、アフイメントエラ ボキス 平信 パトート の分野
	ーかめる気信ハケットの総数。 + ノーサウェートレインノーズの後年かりの見立地では
etnerStatsCollisions	
etnerStatsPKts64	長さか b4 オクアット(フレーミンクビットを除くが、FCS オ
UCTETS	クフ ツトを百む)以下の文信ハケツト(不良ハゲツトを含む) の紛粉
otherset applet af Et ol 27	9) 応数 長さが CE~107 ナカテット (フレーミンガビットた陸ノボ
etherstalsPKLS05L012/	
ULLELS	
etherStatsPkts128to255	<u>- ジノーショル 855</u> 長さが <b>128~255</b> オクテット(フレーミングビットを除くが
Octets	FCS オクテットを含む) の受信パケット (不良パケットを含
	む)の総数
etherStatsPkts256to511	長さが <b>256~511</b> オクテット(フレーミングビットを除くが、
Octets	FCS オクテットを含む)の受信パケット(不良パケットを含
	む)の総数

表41 RMON 統計データ	
統計データ	説明
etherStatsPkts512to1023 Octets	長さが 512~1023 オクテット(フレーミングビットを除くが、 FCS オクテットを含む)の受信パケット(不良パケットを含 む)の総数
etherStatsPkts1024to1518 Octets	長さが 1024~1518 オクテット(フレーミングビットを除く が、FCS オクテットを含む)の受信パケット(不良パケットを 含む)の総数

## Layer 2 Statistics Menu

コマンド: /stats/12

[Layer 2 S	Statistics Menu]
fdb	- Show FDB stats
lacp	- Show LACP stats

次の表に、Layer 2 Statistics Menu の項目を示します。

#### 表42 Layer 2 Statistics Menu 項目

項目	機能
fdb	FDB statistics を表示します。
lacp	LACP(Link Aggregation Control Protocol) statistics を表示します。

#### **FDB** statistics

コマンド: /stats/l2/fdb

FDB statistics:	01	hiwat ·	Q1
currenc:	91	III wat:	91

このメニュー項目により、現エントリ数、記録済みエントリの最大数など、FDBの利用に関する統計 データを表示します。

次の表に FDB 統計データの項目を示します。

表43 FDB 統計データ項目

項目	説明
current	FDB の現エントリ数
hiwat	FDB で記録した最大エントリ数

#### LACP statistics

コマンド: /stats/l2/lacp <port number>

Valid LACPDUs received	-	(	0	
Valid Marker PDUs received	-	(	0	
Valid Marker Rsp PDUs received	-	(	0	
Unknown version/TLV type	-	(	0	
Illegal subtype received	-	(	0	
LACPDUs transmitted	-	(	0	
Marker PDUs transmitted	-	(	0	
Marker Rsp PDUs transmitted	-	(	0	

# Layer 3 Statistics Menu

コマンド: /sta	ats/13
[Layer 3 Stat	istics Menu]
geal3	- GEA Layer 3 Stats Menu
ip	- Show IP stats
arp	- Show ARP stats
dns	- Show DNS stats
icmp	- Show ICMP stats
tcp	- Show TCP stats
udp	- Show UDP stats
igmp	- Show IGMP stats
clrigmp	- Clear IGMP stats
ipclear	- Clear IP stats
dump	- Dump layer 3 stats

次の表に Layer 3 Statistics メニューの項目を示します。

表44	Laver	3 Statistics	メニュー	・の項目
-----	-------	--------------	------	------

項目	機能
geal3	GEA Layer 3 Statistics メニューを表示します。
ip	IP 統計データを表示します。
arp	ARP 統計データを表示します。オプションをつけると ARP 統計デ
	ータをクリアします。
dns	DNS 統計データを表示します。
icmp	ICMP 統計データを表示します。
tcp	TCP 統計データを表示します。
udp	UDP 統計データを表示します。
igmp	IGMP 統計データを表示します。
clrigmp <1-4095> all	選択した VLAN の IGMP 統計データをすべてクリアします。
ipclear	IP 統計データをクリアします。IP 統計データをすべて削除するの
	で、このコマンドの使用には注意が必要です。
dump	レイヤ3統計データをすべて表示します。

### GEA Layer 3 Statistics Menu

コマンド: /stats/13/geal3

[GEA Layer 3 Statistics Menu] 13bucket - Show GEA L3 bucket for an IP address dump - Dump GEA layer 3 stats counter

次の表に、GEA Layer 3 Statistics メニューの項目を示します。

表45 GEA Layer 3 Statistics メニューの項目

項目	機能
13bucket	GEA 統計データを表示します。
Dump	すべての GEA 統計データを表示します。

## GEA Layer 3 statistics

コマンド: /stats/13/geal3/dump

GEA L3 statistics:	
Max L3 table size	: 2048
Number of L3 entries used	: 0
Max LPM table size	: 256
Number of LPM entries used	: 0

### **IP** statistics

コマンド: /stats/13/ip

IP statistics:	
ipInReceives: 36475	ipInHdrErrors: 0
ipInAddrErrors: 905	
ipInUnknownProtos: 0	ipInDiscards: 0
ipInDelivers: 4103	ipOutRequests: 30974
ipOutDiscards: 0	
ipDefaultTTL: 255	

次の表に IP 統計データの項目を示します。

表46 IP 統計データ項目

項目	説明
ipInReceives	インタフェースから受信した入力データグラムの総数(エラー状態で受信し
	たものを含む)
ipInHdrErrors	チェックサムエラー、バージョン番号不一致、その他のフォーマットエラ
	ー、有効期限超過、IP オプションの処理で見つかったエラーなど、IP ヘッ
	ダ内のエラーのため廃棄した入力データグラムの数
ipInAddrErrors	IP ヘッダ内宛先フィールドの IP アドレスが、本スイッチで受信する有効ア
	ドレスでなかったために廃棄された入力データグラム数。無効アドレス
	(例:0.0.0.0)、未サポートクラス(たとえばクラス E)のアドレスも含み
	ます。
	IP ゲートウェイではなく、宛先アドレスがローカルアドレスではなかった
	ために廃棄されたデータグラムを含みます。
ipInUnknownProtos	受信に成功したが、プロトコルが未知かサポートしていないため廃棄され
	た、データグラムの数
ipInDiscards	受信した IP データグラムのうち、廃棄された入力 IP データグラムの数。再
	アセンブリを待ち合わせているときに廃棄されたデータグラムは含まれませ
	$\mathcal{N}_{\circ}$
ipInDelivers	IP プロトコル(ICMP を含む)への配信に成功した入力データグラムの総数
ipOutRequests	送信した IP データグラムの総数。ipForwDatagrams でカウントしたデータ
	グラムは含まれません。
ipOutDiscards	送信する IP データグラムのうち、廃棄した IP データグラムの数。パケット
	がこの(任意の)廃棄基準に合致する場合、ipForwDatagrams でカウント
	したデータグラムも含まれます。
ipDefaultTTL	TTL 値がトランスポートレイヤプロトコルで提示されないとき、本スイッチ
	から発したデータグラムの IP ヘッダの Time-To-Live (TTL)フィールドに挿
	入されるデフォルト値

### **ARP** statistics

コマンド: /stats/13/arp

ARP statistics:				
arpEntriesCur:	2	arpEntriesHighWater:	4	

次の表に ARP 統計データの項目を示します。

表47 ARP 統計データ項目

項目	説明
arpEntriesCur	ARP テーブル内の ARP エントリの総数
arpEntriesHighWater	ARP テーブルにこれまで記録された ARP エントリの最大数

#### **DNS** statistics

コマンド: /stats/13/dns

DNS statistics:				
dnsInRequests:	0	dnsOutRequests:	0	
dnsBadRequests:	0			

次の表に DNS 統計データの項目を示します。

表48 DNS 統計データ項目

項目	説明
dnsInRequests	受信した DNS リクエストパケットの総数
dnsOutRequests	送信した DNS リクエストパケットの総数
dnsBadRequests	廃棄した受信 DNS リクエストパケットの総数

### **ICMP** statistics

コマンド: /stats/13/icmp

ICMP statistics:			
icmpInMsgs:	245802	icmpInErrors:	1393
icmpInDestUnreachs:	41	icmpInTimeExcds:	0
icmpInParmProbs:	0	icmpInSrcQuenchs:	0
icmpInRedirects:	0	icmpInEchos:	18
icmpInEchoReps:	244350	icmpInTimestamps:	0
icmpInTimestampReps:	0	icmpInAddrMasks:	0
icmpInAddrMaskReps:	0	icmpOutMsgs:	253810
icmpOutErrors:	0	icmpOutDestUnreachs:	15
icmpOutTimeExcds:	0	icmpOutParmProbs:	0
icmpOutSrcQuenchs:	0	icmpOutRedirects:	0
icmpOutEchos:	253777	icmpOutEchoReps:	18
icmpOutTimestamps:	0	icmpOutTimestampReps:	0
icmpOutAddrMasks:	0	icmpOutAddrMaskReps:	0

次の表に ICMP 統計データを示します。

表49 ICMP 統計データ	
統計データ	説明
icmpInMsgs	スイッチが受信した ICMP メッセージの総数。icmpInErrors でカウントした
	メッセージもすべて含まれます。
icmpInErrors	スイッチで受信したが、ICMP 特有のエラー(ICMP チェックサムエラー、
	length エラーなど)があることが確認された ICMP メッセージの数
icmpInDestUnreachs	ICMP Destination Unreachable メッセージの受信数
icmpInTimeExcds	ICMP Time Exceeded メッセージの受信数
icmpInParmProbs	ICMP Parameter Problem メッセージの受信数
icmpInSrcQuenchs	ICMP Source Quench(バッファがほぼ満杯で、データ送信中止)メッセージの受信数
icmpInRedirects	ICMP Redirect メッセージの受信数
icmpInEchos	ICMP Fcho (request) メッセージの受信数
icmpInEchoReps	ICMP Echo Reply メッセージの受信数
icmpInTimestamps	ICMP Timestamp (request)メッセージの受信数
icmpInTimestampReps	ICMP Timestamp reply メッセージの受信数
icmpInAddrMasks	ICMP Address Mask Request メッセージの受信数
icmpInAddrMaskReps	ICMP Address Mask Reply メッセージの受信数
icmpOutMsgs	スイッチが送信を試みた ICMP メッセージの総数。icmpOutErrors でカウン
	トしたメッセージもすべて含まれます。
icmpOutErrors	ICMP 内で見つかった問題のため、本スイッチが送信しなかった ICMP メッ
	セージの数
icmpOutDestUnreachs	ICMP Destination Unreachable メッセージの送信数
icmpOutTimeExcds	ICMP Time Exceeded メッセージの送信数
icmpOutParmProbs	ICMP Parameter Problem メッセージの送信数
icmpOutSrcQuenchs	ICMP Source Quench(バッファがほぼ満杯で、データ送信中止)メッセー
	ジの送信数
icmpOutRedirects	ICMP Redirect メッセージの送信数
icmpOutEchos	ICMP Echo (request)メッセージの送信数
icmpOutEchoReps	ICMP Echo Reply メッセージの送信数
icmpOutTimestamps	ICMP Timestamp (request)メッセージの送信数
icmpOutTimestampReps	ICMP Timestamp reply メッセージの送信数
icmpOutAddrMasks	ICMP Address Mask Request メッセージの送信数
icmpOutAddrMaskReps	ICMP Address Mask Reply メッセージの送信数

## **TCP** statistics

コマンド: /stats/13/tcp

TCP statistics:				
tcpRtoAlgorithm:	4	tcpRtoMin:	0	
tcpRtoMax:	240000	tcpMaxConn:	2048	
tcpActiveOpens:	252214	tcpPassiveOpens:	7	
tcpAttemptFails:	528	tcpEstabResets:	4	
tcpInSegs:	756401	tcpOutSegs:	756655	
tcpRetransSegs:	0	tcpInErrs:	0	
tcpCurBuff:	0	tcpCurConn:	3	
tcpOutRsts:	417			

次の表に TCP 統計データの項目を示します。

表50	TCP	統計デー	タ項目
100			/ × H

項目	説明
tcpRtoAlgorithm	未応答オクテットの再送信に用いるタイムアウト値
tcpRtoMin	再送信タイムアウトに可能な最小値(ミリ秒単位)
tcpRtoMax	再送信タイムアウトに可能な最大値(ミリ秒単位)
tcpMaxConn	スイッチがサポートできる TCP コネクションの上限
tcpActiveOpens	TCP コネクションで CLOSED から SYN-SENT ステートに遷移した回数
tcpPassiveOpens	TCP コネクションで LISTEN から SYN-RCVD ステートに遷移した回数
tcpAttemptFails	TCP コネクションで SYN-SENT または SYN-RCVD から CLOSED ステー
	トに遷移した回数と、SYN-RCVDから LISTEN ステートに遷移した回数
tcpEstabResets	TCP コネクションで ESTABLISHED または CLOSE-WAIT から CLOSED
	ステートに遷移した回数
tcpInSegs	受信セグメントの総数
tcpOutSegs	送信セグメントの総数
tcpRetransSegs	再送信セグメントの総数
tcpInErrs	エラー(たとえば TCP チェックサムエラー)がある受信セグメントの総数
tcpCurBuff	TCP プロトコルスタックによるヒープからのメモリ割当ての総数
tcpCurConn	現在開いている TCP セッションの総数
tcpOutRsts	RST フラグが入っている送信 TCP セグメントの数

### **UDP** statistics

コマンド: /stats/13/udp

UDP statistics:			
udpInDatagrams:	54	udpOutDatagrams:	43
udpInErrors:	0	udpNoPorts:	1578077

次の表に UDP 統計データの項目を示します。

表51	UDP	統計デー	タ項目
-----	-----	------	-----

項目	説明
udpInDatagrams	スイッチで受信した UDP データグラムの総数
udpOutDatagrams	スイッチから送信する UDP データグラムの総数
udpInErrors	udpNoPorts 以外で配信できなかった受信 UDP データグラムの数
udpNoPorts	宛先ポートにアプリケーションがなかった受信 UDP データグラムの総数

## IGMP Multicast Group statistics

コマンド: /stats/13/igmp

Enter VLAN number: (1	-4095	) 1		
IGMP Snoop vlan 1 stat.	istic	s:		
rxIgmpValidPkts:	0	rxIgmpInvalidPkts:	0	
rxIgmpGenQueries:	0	rxIgmpGrpSpecificQueries:	0	
rxIgmpLeaves:	0	rxIgmpReports:	0	
txIgmpReports:	0	txIgmpGrpSpecificQueries:	0	
txIgmpLeaves:	0			

このメニュー項目で、IGMP マルチキャストグループに関する統計データを表示できます。

次の表に IGMP 統計データの項目を示します。

表52 IGMP 統計データ項目

項目	説明
rxIgmpValidPkts	有効 IGMP パケットの総受信数
rxIgmpInvalidPkts	無効パケットの総受信数
rxIgmpGenQueries	General Membership Query パケットの総受信数
rxIgmpGrpSpecificQueries	特定のグループから受信した Membership Query パケットの総数
rxIgmpLeaves	Leave リクエストの総受信数
rxIgmpReports	Membership Report の総受信数
txIgmpReports	Membership Report の総送信数
txIgmpGrpSpecificQueries	特定のグループに送信した Membership Query パケットの総数
txIgmpLeaves	Leave メッセージの総送信数

# Management Processor Statistics $\checkmark = \_ \_ \_$

コマンド: /stats/mp

[MP-specific	Sta	atisti	ics N	lenu 🤅	]			
pkt	-	Show	Pacł	cet s	stats			
tcb	-	Show	All	TCP	control	blocks	in	use
ucb	-	Show	All	UDP	control	blocks	in	use
cpu	-	Show	CPU	util	Lization			

次の表に MP-specific Statistics メニューの項目を示します。

#### 表53 MP-specific Statistics メニュー項目

項目	機能
pkt	パケットの統計データを表示します。
tcb	使用中の TCP control block (TCB) をすべて表示します。
ucb	使用中の UDP control block (UCB) をすべて表示します。
cpu	1、4、64 秒間の CPU 使用率を表示します。

#### **Packet statistics**

コマンド: /stats/mp/pkt

Packet counts:				
allocs:	36692	frees:	36692	
mediums:	0	mediums hi-watermark:	3	
jumbos:	0	jumbos hi-watermark:	0	
smalls:	0	smalls hi-watermark:	2	
failures:	0			

次の表に、上記の例で示すパケット統計データの項目を示します。

表54	MP	固有	パケ	ッ	ト統計デー	・タ	項	目
-----	----	----	----	---	-------	----	---	---

表UI WI 固ト ノノI	
項目	サンプル値
allocs	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから割り当てられた
	パケットの総数
frees	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールに解放されたパケッ
	トバッファの総数
mediums	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから 128-1536byte
	のサイズで割り当てられているパケットの総数
mediums hi-	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから 128-1536byte
watermark	サイズで割り当てられたパケットの最大数
jumbos	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから 1536byte 以上
	のサイズで割り当てられているパケットの総数
jumbos hi-	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから 1536byte 以上
watermark	のサイズで割り当てられたパケットの最大数
smalls	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから 128byte 以下
	のサイズで割り当てられているパケットの総数
smalls hi-	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから 128byte 以下
watermark	のサイズで割り当てられたパケットの最大数
failures	TCP/IP プロトコルスタックによりパケットバッファプールから割り当てに失敗
	したパケットの総数

## **TCP** statistics

コマンド: /stats/mp/tcb

All TCP all	located control	blocks:			
10ad41e8:	0.0.0.0	0 <=>	0.0.0.0	80	listen
10ad5790:	47.81.27.5	1171 <=>	47.80.23.243	23	established

次の表に、上記の例で示す TCP control block (TCB) 統計データの項目を示します。

表55	MP	固有	TCP	統計デ	ータ項目
-----	----	----	-----	-----	------

項目	サンプル値
メモリ	10ad41e8/10ad5790
宛先 IP アドレス	0.0.0/47.81.27.5
宛先ポート	0/1171
ソース IP	0.0.0/47.80.23.243
ソースポート	80/23
状態	Listen/established

#### **UDP** statistics

コマンド: /stats/mp/ucb

All	UDP	allocated	control	blocks:			
10	51:	listen					

次の表に、上記の例で示す UDP control block (UCB) 統計データの項目を示します。

表56 UDP 統計データ項	
項目	サンプル値
制御ブロック	161
状態	Listen

#### **CPU** statistics

コマンド: /stats/mp/cpu

CPU utilization:		
cpuUtil1Second:	88	
cpuUtil4Seconds:	98	
cpuUtil64Seconds:	8%	

次の表に、CPU 統計データの項目を示します。

表57	CPU	統計デー	タ	項目
-----	-----	------	---	----

項目	説明
cpuUtil1Second	MP CPU の1秒間の使用率。パーセントで示します。
cpuUtil4Seconds	MP CPU の4秒間の使用率。パーセントで示します。
cpuUtil64Seconds	MP CPU の 64 秒間の使用率。パーセントで示します。

## **SNMP** statistics

コマンド: /stats/snmp

SNMP statistics:			
snmpInPkts:	54	snmpInBadVersions:	0
<pre>snmpInBadC'tyNames:</pre>	0	<pre>snmpInBadC'tyUses:</pre>	0
snmpInASNParseErrs:	0	snmpEnableAuthTraps:	0
snmpOutPkts:	54	<pre>snmpInBadTypes:</pre>	0
snmpInTooBigs:	0	snmpInNoSuchNames:	0
snmpInBadValues:	0	<pre>snmpInReadOnlys:</pre>	0
snmpInGenErrs:	0	snmpInTotalReqVars:	105
<pre>snmpInTotalSetVars:</pre>	0	snmpInGetRequests:	2
snmpInGetNexts:	52	snmpInSetRequests:	0
<pre>snmpInGetResponses:</pre>	0	snmpInTraps:	0
snmpOutTooBigs:	0	snmpOutNoSuchNames:	2
<pre>snmpOutBadValues:</pre>	0	snmpOutReadOnlys:	0
snmpOutGenErrs:	0	snmpOutGetRequests:	0
snmpOutGetNexts:	0	snmpOutSetRequests:	0
snmpOutGetResponses:	54	snmpOutTraps:	0
snmpSilentDrops:	0	snmpProxyDrops:	0

次の表に SNMP 統計データの項目を示します。

	表58	SNMP	統計データ	'項目
--	-----	------	-------	-----

項目	説明
snmpInPkts	受信した SNMP メッセージの総数
snmpInBadVersions	SNMP プロトコルエンティティで受信し、未サポート SNMP バージョ
	ンであった SNMP メッセージの総数
snmpInBadC'tyNames	SNMP プロトコルエンティティで受信し、未知の SNMP コミュニティ
	名が使用された SNMP メッセージ総数
snmpInBadC'tyUses	SNMP プロトコルエンティティで受信し、メッセージに指定された
	SNMP コミュニティで許可されていない SNMP 処理を表した SNMP
	メッセージの総数
snmpInASNParseErrs	受信した SNMP メッセージのうち、構文エラーの総数
snmpEnableAuthTraps	スイッチが生成した認証トラップを有効/無効にするオブジェクト
snmpOutPkts	送信した SNMP メッセージの総数
snmpInBadTypes	ASN.1 構文解析に失敗した SNMP メッセージの総数
snmpInTooBigs	受信した SNMP プロトコルデータユニット(PDU)で、エラーステータ
	スフィールドの値が大きすぎる PDU の総数
snmpInNoSuchNames	SNMP プロトコルエンティティで受信し、エラーステータスフィール
	ドの値が noSuchName である SNMP プロトコルデータユニット
	(PDU) の総数
snmpInBadValues	SNMP プロトコルエンティティで受信し、エラーステータスフィール
	ドの値が badValue である SNMP プロトコルデータユニット (PDU) の
	総数
snmpInReadOnlys	SNMP プロトコルエンティティで受信し、エラーステータスフィール
	ドの値が read-only である SNMP プロトコルデータユニット (PDU) の
	総数
snmpInGenErrs	SNMP プロトコルエンティティで受信し、エラーステータスフィール
	ドの値が genErr である SNMP ブロトコルデータユニット (PDU) の総
snmpInTotalReqVars	有効な SNMP Get-Request および Get-Next フロトコルテータユニッ
	ト (PDU) を受信し、SNMP ノロトコルエンテイデイが検察に成功した
	WID オノンエクトの総数 左執わ SNMD Set Deguest プロレフルデークフェッレ (DDU) た受信
snmpiniotalSetVars	有効な SNMP Set-Request フロトコルナータユニット (PDU) を受信 こ SNMD プロトコルエンティティが亦更には頂した MID オブジーク
	し、SINVIF ノロドコルエンノイノイル変更に成功した WID オノシエク
spmpInCetRequests	「いい心奴 SNIMP プロトコルエンティティが受け付け 加押した SNIMP Cot
Simprideckequests	Sivin フロトコルデータユニット (PDI) の総数
anmnInCetNevta	NUMP プロトコルエンティティが受け付け 如理した SNMP Get-Nevt
SIMPLINGCONCACD	プロトコルデータユニット (PDU) の絵類
snmpInSetRequests	SNMP プロトコルエンティティが受け付け、処理した SNMP Set-
	Request プロトコルデータユニット (PDU) の総数

Statistics Menu 62

表58 SNMP 統計データ項目

項目	説明
snmpInGetResponses	SNMP プロトコルエンティティが受け付け、処理した SNMP Get-
	Response プロトコルデータユニット (PDU) の総数
snmpInTraps	SNMP プロトコルエンティティが受け付け、処理した SNMP トラップ
	プロトコルデータユニット (PDU) の総数
snmpOutTooBigs	SNMP プロトコルが生成し、エラーステータスフィールドの値が大き
	すぎる SNMP プロトコルデータユニット (PDU) の総数
snmpOutNoSuchNames	SNMP プロトコルエンティティが生成し、エラーステータスフィール
	ドの値が noSuchName の SNMP プロトコルデータユニット (PDU) の
	総数
snmpOutBadValues	SNMP プロトコルエンティティが生成し、エラーステータスフィール
	ドの値が badValue である SNMP プロトコルデータユニット (PDU) の
	総数
snmpOutReadOnlys	未使用
snmpOutGenErrs	SNMP プロトコルエンティティが生成し、エラーステータスフィール
	ドの値が genErr である SNMP プロトコルデータユニット (PDU) の総
	数
snmpOutGetRequests	SNMP プロトコルエンティティが生成した SNMP Get-Request プロト
	コルデータユニット (PDU) の総数
snmpOutGetNexts	SNMP プロトコルエンティティが生成した SNMP Get-Next プロトコ
	ルデータユニット (PDU) の総数
snmpOutSetRequests	SNMP プロトコルエンティティが生成した SNMP Set-Request プロト
	コルデータユニット (PDU) の総数
snmpOutGetResponses	SNMP プロトコルエンティティが生成した SNMP Get-Response プロ
	トコルデータユニット (PDU) の総数
snmpOutTraps	SNMP プロトコルエンティティが生成した SNMP トラッププロトコル
	データユニット (PDU) の総数
snmpSilentDrops	SNMP エンティティに配信した GetRequest-PDU、GetNextRequest-
	PDU、GetBulkRequest-PDU、SetRequest-PDU、および
	InformRequest-PDU で、Response-PDU の応答のサイズが大きすぎる
	ために廃棄された総数
snmpProxyDrops	SNMP エンティティに配信した GetRequest-PDU、GetNextRequest-
	PDU、GetBulkRequest-PDU、SetRequest-PDU、および
	InformRequest-PDU で、タイムアウト以外で、プロキシターゲットへ
	のメッセージ送信が失敗したため廃棄された総数

# NTP statistics

コマンド: /stats/ntp

NTP	statistics:			
	Primary	Server:		
		Requests Sent:	17	
		Responses Received:	17	
		Updates:	1	
	Secondai	ry Server:		
		Requests Sent:	0	
		Responses Received:	0	
		Updates:	0	
	Last upda	ate based on response fr	rom primary server.	
	Last upda	ate time: 18:04:16 Tue M	Mar 13, 2006	
	Current s	system time: 18:55:49 Tu	ue Mar 13, 2006	

次の表にNTP 統計データの項目を示します。

表 59 NIP 統計アータ項	目
-----------------	---

項目	説明
Primary Server	Requests Sent:時間同期のためにスイッチがプライマリ NTP サーバに
	送信した NTP リクエストの総数
	Responses Received : プライマリ NTP サーバから受信した NTP 応答
	の総数
	Updates: プライマリ NTP サーバから受信した NTP 応答に基づいて、
	スイッチが時刻を更新した回数
Secondary Server	Requests Sent:時間同期のためにスイッチがセカンダリ NTP サーバに
	送信した NTP リクエストの総数
	Responses Received : セカンダリ NTP サーバから受信した NTP 応答
	の総数
	Updates:セカンダリ NTP サーバから受信した NTP 応答に基づいて、
	スイッチが時刻を更新した回数
Last update based on	プライマリ、セカンダリのどちらの NTP サーバで最後に更新したかを
response from primary	示す
server	
Last update time	最後に更新した時刻
Current system time	現在の時刻

## Uplink Failure Detection (UFD) statistics

このメニュー項目により、UFD 統計データを表示できます。UFD 統計データをリセットする場合、 コマンド/stats/ufd に引数 clear を付けて実行します。

```
コマンド: /stats/ufd <clear>
```

```
Uplink Failure Detection statistics:
FDP number: 1
Number of times LtM link failure: 1
Number of times LtM link in Blocking State: 0
Number of times LtD got auto disabled: 1
FDP number: 2
Number of times LtM link failure: 1
Number of times LtM link in Blocking State: 0
Number of times LtD got auto disabled: 1
FDP number: 3
Number of times LtM link failure: 1
Number of times LtM link in Blocking State: 0
Number of times LtD got auto disabled: 1
FDP number: 4
Number of times LtM link failure: 1
Number of times LtM link in Blocking State: 0
Number of times LtD got auto disabled: 1
```

次の表に UFD 統計データを示します。

表60 UFD 統計データ

統計データ	説明
Number of times LtM link failure	LtM グループでリンク故障を検出した回数
Number of times LtM link in	LtM グループでスパニングツリーのブロッキング状態
Blocking State	を検出した回数
Number of times LtD got auto	LtM グループのリンク故障検出により、LtD グループが
disabled	自動的に無効になった回数

## Statistics dump

コマンド: /stats/dump

ダンプコマンドを使用すると、Statistics メニューで示されるすべてのスイッチ統計データをダンプできます(設定により 40K またはそれ以上)。

# **Configuration Menu**

## はじめに

Configuration Menuは、アドミニストレータログインでのみ利用できます。スイッチの機能を設定するサブメニューからなります。設定を変更しても適用しなければ有効になりません。変更内容はフラッシュメモリに保存できます。

## メニューの内容

コマンド: /cfg

[Configuration	Menu]	
	-	

sys	- System-wide Parameter Menu
port	- Port Menu
12	- Layer 2 Menu
13	- Layer 3 Menu
rmon	- RMON Menu
pmirr	- Port Mirroring Menu
ufd	- Uplink Failure Detection Menu
dump	- Dump current configuration to script file
ptcfg	- Backup current configuration to FTP/TFTP server
gtcfg	- Restore current configuration from FTP/TFTP server
cur	- Display current configuration
	sys port 12 13 rmon pmirr ufd dump ptcfg gtcfg cur

次の表に Configuration Menu の項目を示します。

#### 表61 Configuration Menu 項目

項目	機能
sys	System Menu を表示します。
port <port number=""></port>	Port Menu を表示します。
12	Layer 2 Menu を表示します。
13	Layer 3 Menu を表示します。
rmon	RMON Menu を表示します。
pmirr	Mirroring Menu を表示します。
ufd	Uplink Failure Detection Menu を表示します。
dump	現在の設定をスクリプトファイルにダンプしま
	す。
ptcfg <host address="" ip="" name="" of<="" or="" td=""><td>現在の設定を FTP/TFTP サーバにバックアップし</td></host>	現在の設定を FTP/TFTP サーバにバックアップし
FTP/TFTP server> <filename host="" on=""></filename>	ます。
gtcfg <host address="" ip="" name="" of<="" or="" td=""><td>FTP/TFTP サーバから設定を復元します。</td></host>	FTP/TFTP サーバから設定を復元します。
FTP/TFTP server> <filename host="" on=""></filename>	
cur	現在の設定のパラメータを表示します。

## 変更内容の確認、適用、取消、保存

Configuration Menu でスイッチパラメータを設定した場合、すぐには有効になりません。適用するまでは保留のままです。また、適用しても、その変更内容をフラッシュメモリに保存しないと、次のブートで取り消されます。

変更内容が保留になっているときには、

- 保留になっている変更内容を確認できます。
- 保留になっている変更内容を適用できます。
- 前回の Apply コマンドで設定した Configuration パラメータを復元できます。
- 変更内容をフラッシュメモリに保存できます。

### 保留になっている変更内容の確認

CLI プロンプトに diff と入力すると、保留になっている変更内容を確認できます。

# diff

diff flash と入力すると、適用しただけでフラッシュメモリに保存していない変更内容をすべて確認できます。

# diff flash

## 保留になっている設定の適用

変更した設定を有効にするには、適用を行う必要があります。適用するには、プロンプトに次のコマ ンドを入力します。

# apply

注:変更した設定内容は、適用すると有効になります。

## 変更の取消

まだ適用していない変更内容は、revert コマンドで取り消すことができます。フラッシュメモリに保存していない変更内容を取り消すには revert apply を入力します。

# revert

## 設定の保存

変更内容を適用すると、スイッチのフラッシュメモリに保存できます。

重要:変更を保存しないと、システムを次にリブートしたときに取り消されます。

設定を保存するには、プロンプトに次のコマンドを入力します。

# save

変更内容を保存すると、active ブロックに保存されます。active ブロックにあった設定情報は backup ブロックにコピーされます。backup ブロックへの旧設定情報の保存が必要なければ、次のコマンドを入力します。

# save n

スイッチを次にリセットするときに、実行したい Configuration を指定できます。以下の Configuration ブロックがあります。

- active ブロック
- backup ブロック
- factory ブロック

適用しただけでフラッシュメモリに保存しなかった変更内容は、diff flash コマンドで確認できます。 どのプロンプトからも実行できるグローバルコマンドです。

次のシステムリセットで実行する Configuration を選択する方法については、「Boot Options Menu」の章の「Configuration ブロックの選択」を参照してください。

## リマインダ

設定する際、複数のステップが必要な場合、CLI リマインダは必要な設定内容を表示します。CLI リ マインダのデフォルト設定は enabled です。CLI リマインダを無効にするコマンドは、 /cfg/sys/reminders dis です。

CLIリマインダが有効な状態で表示される例を次に示します。

```
>> Layer 2# vlan 5
VLAN number 5 with name "VLAN 5" created.
Reminder: VLAN 5 needs to be enabled.
>> VLAN 5# add 9
Port 9 is an UNTAGGED port and its current PVID is 1.
Confirm changing PVID from 1 to 5 [y/n]: y
Current ports for VLAN 5: empty
Pending new ports for VLAN 5: 9
Reminder: Port 9 needs to be enabled.
Reminder: VLAN 5 needs to be enabled.
```

## System configuration

コマンド: /cfg/sys

[Syst	em Menu]		
	syslog	-	Syslog Menu
	sshd	-	SSH Server Menu
	radius	-	RADIUS Authentication Menu
	tacacs+	-	TACACS+ Authentication Menu
	ntp	-	NTP Server Menu
	ssnmp	-	System SNMP Menu
	access	-	System Access Menu
	date	-	Set system date
	time	-	Set system time
	timezone	-	Set system timezone (daylight savings)
	olddst	-	Set system DST for US
	dlight	-	Set system daylight savings
	idle	-	Set timeout for idle CLI sessions
	notice	-	Set login notice
	bannr	-	Set login banner
	hprompt	-	Enable/disable display hostname (sysName) in CLI prompt
	bootp	-	Enable/disable use of BOOTP
	dhcp	-	Enable/disable use of DHCP on Mgmt interface
	reminders	-	Enable/disable Reminders
	cur	-	Display current system-wide parameters

このメニューで、スイッチ管理パラメータの設定を行います。

次の表に System Menu の項目を示します。

#### 表62 System Menu 項目

項目	機能
syslog	Syslog Menu を表示します。
sshd	SSH Server Menu を表示します。
radius	RADIUS Authentication Menu を表示します。
tacacs+	TACACS+ Authentication Menu を表示します。
ntp	NTP Server Menu を表示します。
ssnmp	System SNMP Menu を表示します。
access	System Access Menu を表示します。
date	システム日付を設定します。
time	24時間クロックフォーマットでシステム時刻を設定します。
timezone	スイッチが設置されているタイムゾーンを設定します。タイムゾー
	ンウィザードで位置(大陸、国、地域)を選択するよう要求されま
	す。
dlight disable enable	システムクロックの夏時間を有効/無効にします。有効にすると、
	ローカル時間に合わせて、システムクロックを加減します。デフォ
	ルトでは無効です。

表62 System Menu 項目	
項目	機能
idle <1-60>	CLI セッションのアイドリングタイムアウトを 1~60 分の範囲で設 定します。デフォルトは5分です。この設定はシリアルポートと Telnet の両方に影響します。
notice <1-1024 character multi-line> <'-' to end>	"Enter password:"プロンプトの直前に表示する、ログイン時の注意 文を設定します。1024 文字まで設定できます。
bannr <1-80 characters>	80 文字までのログインバナーを設定します。スイッチにログインしたときにログインバナーが表示されます。
hprompt disable enable	コマンドラインインタフェースでのホスト名の表示を有効/無効に します。デフォルト値は disable です。
bootp disable enable	BOOTP の使用を有効/無効にします。有効の場合、BOOTP サー バに IP パラメータを要求します。BOOTP サーバから取得した IP アドレスはインタフェース 1 に割り当てられます。手動でインタフ ェース 1 に設定したアドレスより、BOOTP サーバから取得した IP アドレスが優先されます。デフォルト値は enable です。
dhcp disable enable	DHCP の使用を有効/無効にします。有効の場合、DHCP サーバに IP パラメータを要求します。DHCP サーバから取得した IP アドレ スはマネジメントインタフェース(インタフェース 256)に割り当 てられます。手動でインタフェース 256に設定したアドレスより、 DHCP サーバから取得した IP アドレスが優先されます。デフォル ト値は enable です。
reminders disable enable	CLIのリマインダメッセージを有効/無効にします。デフォルト値 は enabled です。
cur	現在のシステムパラメータを表示します。

# System host log configuration

コマンド: /cfg/sys/syslog

[Syslo	og Menu]	
ł	host	- Set IP address of first syslog host
ł	host2	- Set IP address of second syslog host
£	sever	- Set the severity of first syslog host
£	sever2	- Set the severity of second syslog host
t	facil	- Set facility of first syslog host
t	facil2	- Set facility of second syslog host
c	console	- Enable/disable console output of syslog messages
-	log	- Enable/disable syslogging of features
C	cur	- Display current syslog settings

次の表に Syslog メニューの項目を示します。

表63	Svsloa	メニ:	ュー項目
衣いろ	Sysiog	> - :	ユー項目

項目	機能
host <ip address=""></ip>	第一シスログホストの IP アドレスを設定します。たと
	えば、100.10.1.1
host2 <i><ip address=""></ip></i>	第二シスログホストの IP アドレスを設定します。たと
	えば、100.10.1.2
sever <1-7>	表示する第一シスログホストの重大度レベルを設定しま
	す。デフォルトは7で、すべての重大度レベルのログを
	意味します。
sever2 <1-7>	表示する第二シスログホストの重大度レベルを設定しま
	す。デフォルトは7で、すべての重大度レベルのログを
	意味します。
facil <1-7>	表示する第一シスログホストのファシリティレベルを設
	定します。値の範囲は0~7、デフォルトは0です。
facil2 <1-7>	表示する第二シスログホストのファシリティレベルを設
	定します。値の範囲は0~7、デフォルトは0です。
console disable enable	シスログメッセージのコンソールへの送信を有効/無効
	にします。必要ならば、コンソールを無効にして、スイ
	ッチがシスログメッセージに影響されないようにしま
	す。デフォルトは有効です。

表63 Syslog メニュー項目

項目	機能
項目 log <feature all=""> <enable disable=""></enable></feature>	<ul> <li>機能</li> <li>シスログメッセージを生成できる機能のリストを表示します。特定の機能の有効/無効、すべての機能でシスログの有効/無効を選択できます。以下の機能があります。</li> <li>console</li> <li>system</li> <li>mgmt</li> <li>cli</li> <li>stg</li> <li>vlan</li> <li>ssh</li> <li>ntp</li> <li>ip</li> <li>web</li> <li>rmon</li> <li>ufd</li> </ul>
cur	現在のシスログ設定を表示します。

### Secure Shell Server configuration

コマンド: /cfg/sys/sshd

[SSHD Menu]
interval- Set Interval for generating the RSA server key
scpadm - Set SCP-only admin password
hkeygen - Generate the RSA host key
skeygen - Generate the RSA server key
sshport - Set SSH server port number
ena - Enable the SCP apply and save
dis - Disable the SCP apply and save
on - Turn SSH server ON
off - Turn SSH server OFF
cur - Display current SSH server configuration

ネットワーク上の Telnet トラフィックは安全ではありません。このメニューにより、SSH クライア ントから SSH アクセスを行うことができます。SSH を使用するデータはすべて暗号化されます。

SSH はシリアルポート経由でのみ設定できます。Telnet やブラウザベースインタフェース (BBI) でス イッチにアクセスした場合、メニューは表示されません。

注:SSHの詳細については、「アプリケーションガイド」を参照してください。

次の表に SSHD メニューの項目を示します。

項目	説明
intrval <0-24>	RSA サーバキーの自動生成間隔を指定します。本コマンドで指定した
	間隔で RSA サーバキーを自動生成します。0 にすると、RSA サーバキ
	ーの自動生成は無効になります。スイッチが他のキー生成の実行のた
	めに割り当てられた時間が経過すると、キーの生成は省略されます。
scpadm	セキュアコピー <b>(SCP)</b> 専用のアドミニストレータパスワードを指定し
	ます。この SCP アドミニストレータのユーザ名は scpadmin です。通
	常、SCP を使用して、マシンからマシンへファイルを確実にコピーし
	ます。スイッチでは、SCP により、セキュアチャネルを用いるスイッ
	チ設定情報をダウンロード、アップロードします。
hkeygen	RSA ホストキーを手動で生成します。スイッチにセキュアシェル
	(SSH)を組み込んでいると、このキーを自動的に生成します。ただ
	し、セキュリティ上の理由からキーを書き換える必要がある場合、こ
	のコマンドにより手動で生成できます。コマンドは、apply コマンド
	を実行しなくても、直ちに有効になります。
skeygen	RSA サーバキーを手動で生成します。スイッチにセキュアシェル
	(SSH)を組み込んでいると、このキーを自動的に生成します。セキュ
	リティ上の理由からキーを書き換える必要がある場合、このコマンド
	により手動で生成できます。コマンドは、apply コマンドを実行しな
	くても、直ちに有効になります。
sshport <tcp number="" port=""></tcp>	SSH サーバポート番号を設定します。デフォルトは 22 です。
ena	SCP 経由の apply/save を有効にします。
dis	SCP 経由の apply/save を無効にします。デフォルトは無効です。
on	SSH サーバを有効にします。
off	SSH サーバを無効にします。デフォルトは無効です。
cur	現在の SSH サーバ構成を表示します。

表**64 SSHD** メニュー項目

#### **RADIUS** server configuration

コマンド: /cfg/sys/radius

[RADIUS Serv	ver Menu]
prisrv	- Set primary RADIUS server address
secsrv	- Set secondary RADIUS server address
secret	- Set primary RADIUS server secret
secret2	- Set secondary RADIUS server secret
port	- Set RADIUS port
retries	- Set RADIUS server retries
timeout	- Set RADIUS server timeout
telnet	- Enable/disable RADIUS backdoor for telnet/ssh/http/https
secbd	- Enable/disable RADIUS secure backdoor for telnet/ssh/http/https
on	- Turn RADIUS authentication ON
off	- Turn RADIUS authentication OFF
cur	- Display current RADIUS configuration

注:RADIUSの詳細については、「アプリケーションガイド」を参照してください。

次の表に RADIUS Server メニューの項目を示します。

項目	説明
prisrv <ip address=""></ip>	プライマリ RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。
secsrv <ip address=""></ip>	セカンダリ RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。
secret <1-32 characters>	スイッチとプライマリ RADIUS サーバ間の共用シークレットを設定
none	します。
secret2 <1-32 characters>	スイッチとセカンダリ RADIUS サーバ間の共用シークレットを設定
none	します。
port <udp number="" port=""></udp>	使用する UDP ポートの番号を、1500~3000 の範囲で設定します。
	デフォルトは 1645 です。
retries <1-3>	RADIUS 認証のリトライ数を設定します。範囲は1~3、デフォルト
	は3です。
timeout <1-10>	RADIUS 認証のタイムアウト時間を設定します。範囲は 1~10 秒、
	デフォルトは3秒です。
telnet enable disable	Telnet/SSH/ HTTP/HTTPS の RADIUS バックドアを有効/無効にし
	ます。デフォルトは無効です。セキュアバックドア (secbd) が有効
	の場合、本設定を有効にはできません。
secbd enable disable	セキュアパスワードを使用して、Telnet/SSH/ HTTP/HTTPS の
	RADIUS バックドアを有効/無効にします。デフォルトは無効で
	す。バックドア (telnet) が有効の場合、本設定を有効にはできま
	せん。
on	RADIUS サーバを有効にします。
off	RADIUS サーバを無効にします。デフォルトは無効です。
cur	現 RADIUS サーバのパラメータを表示します。

表65 RADIUS Server メニュー項目

重要:RADIUS が有効で、コンソールもしくは Telnet/SSH/HTTP/HTTPS を介して接続する場合、 RADIUS 認証によりログインする必要があります。コンソールのバックドアは常に有効のため、バ ックドア(telnet)かセキュアバックドア(secbd)が無効でも、noradiusとアドミニストレータパ スワードにより接続することもできます。

Telnet バックドアが有効の場合 (telnet ena)、バックドアとして noradius を入力して RADIUS チェックをバイパスし、アドミニストレータパスワードでスイッチにログインできます。これは、 RADIUS サーバ利用時にも実行可能です。

セキュアバックドアが有効の場合 (secbd ena)、バックドアとして noradius を入力して RADIUS チェックをバイパスし、アドミニストレータパスワードでスイッチにログインできます。ただ し、RADIUS サーバが利用できない場合のみ実行可能です。
## TACACS+ server configuration

コマンド: /cfg/sys/tacacs+

[TACACS+	- 5	Server Menu]
prisrv	-	Set IP address of primary TACACS+ server
secsrv	-	Set IP address of secondary TACACS+ server
secret	-	Set secret for primary TACACS+ server
secret2	-	Set secret for secondary TACACS+ server
port	-	Set TACACS+ port number
retries	-	Set number of TACACS+ server retries
timeout	-	Set timeout value of TACACS+ server retries
telnet	-	Enable/disable TACACS+ back door for telnet/ssh/http/https
secbd	-	Enable/disable TACACS+ secure backdoor for telnet/ssh/http/https
cmap	-	Enable/disable TACACS+ new privilege level mapping
usermap	-	Set user privilege mappings
on	-	Enable TACACS+ authentication
off	-	Disable TACACS+ authentication
cur	_	Display current TACACS+ settings

TACACS+ (Terminal Access Controller Access Control System) は、リモートアクセスサーバがユーザ のログインパスワードを認証サーバに送り、指定したシステムへのアクセスが可能かどうかを確認で きる認証プロトコルです。TACACS+プロトコルと RADIUS プロトコルの方が、TACACS 暗号プロト コルよりセキュアです。TACACS+は RFC 1492 に定義されています。

TACACS+プロトコルは RADIUS より高い信頼性があります。TACACS+は TCP を用いていますが、 RADIUS は UDP を使用しているためです。また、RADIUS は認証と権限付与を 1 ユーザプロファイ ルにまとめて行いますが、TACACS+は 2 つの動作を分離しています。

TACACS+には、RADIUSと比べ認証デバイスとして以下の利点があります。

- TCP ベースのため、円滑にトラフィックのやり取りが可能です。
- 認証リクエストのパスワードだけとは異なり、全パケットの暗号化をサポートします。
- 認証、権限付与、アカウンティングを切り離してサポートします。

次の表に TACACS+ Server メニューの項目を示します。

項目	説明
prisrv <ip address=""></ip>	プライマリ TACACS+サーバの IP アドレスを設定します。
secsrv <ip address=""></ip>	セカンダリ TACACS+サーバの IP アドレスを設定します。
secret <1-32 characters>	スイッチとプライマリ TACACS+サーバ間の共用シークレットを設
none	定します。
secret2 <1-32 characters>	スイッチとセカンダリ TACACS+サーバ間の共用シークレットを設
none	定します。
port <tcp number="" port=""></tcp>	使用する TCP ポートの番号を、1~65000 の範囲で設定します。デ
	フォルトは49です。
retries <1-3>	TACACS+認証のリトライ数を設定します。範囲は1~3、デフォル
	トは3です。
timeout <4-15>	TACACS+認証のタイムアウト時間を設定します。範囲は 4~15
	秒、デフォルトは5秒です。
telnet enable disable	Telnet/SSH/HTTP/HTTPS の TACACS+バックドアを有効/無効に
	します。デフォルトは無効です。セキュアバックドア (secbd) が
	有効の場合、本設定を有効にはできません。
secbd enable disable	Telnet/SSH/ HTTP/HTTPS のセキュアパスワードを使用して、
	TACACS+バックドアを有効/無効にします。デフォルトは無効で
	す。バックドア (telnet) が有効の場合、本設定を有効にはできま
	せん。
cmap enable disable	TACACS+認証レベルマッピングを有効/無効にします。デフォル
	ト値は無効です。
usermap <0-15>	TACACS+認証レベルを本スイッチのユーザレベルにマッピングし
user oper admin none	ます。TACACS+認証レベル (0~15) に、対応するユーザレベル
	(user,oper,admin) を入力します。
on	TACACS+サーバを有効にします。
off	TACACS+サーバを無効にします。デフォルトは無効です。
cur	現 TACACS+設定のパラメータを表示します。

表66 TACACS+ Server メニュー項目

重要:TACACS+が有効で、コンソールもしくは Telnet/SSH/HTTP/HTTPS を介して接続する場合、TACACS+認証によりログインする必要があります。コンソールのバックドアは常に有効のため、バックドア (telnet) かセキュアバックドア (secbd) が無効でも、notacacs とアドミニストレータパスワードにより接続することもできます。

Telnet バックドアが有効の場合 (telnet ena)、バックドアとして notacacs を入力して TACACS+チェックをバイパスし、アドミニストレータパスワードでスイッチにログインできます。こ れは、TACACS+サーバ利用時にも実行可能です。

セキュアバックドアが有効の場合 (secbd ena)、バックドアとして notacacs を入力して TACACS+チェックをバイパスし、アドミニストレータパスワードでスイッチにログインできます。た だし、TACACS+サーバが利用できない場合のみ実行可能です。

## NTP server configuration

コマンド: /cfg/sys/ntp

[NTP	Server	Menu]
	prisrv	- Set primary NTP server address
	secsrv	- Set secondary NTP server address
	intrval	l – Set NTP server resync interval
	on	- Turn NTP service ON
	off	- Turn NTP service OFF
	cur	- Display current NTP configuration

このメニューで、スイッチの時計を NTP サーバに同期できます。デフォルトでは、このオプションは 無効です。

次の表に NTP Server メニューの項目を示します。

表67 NTP Server メニュー項目

項目	説明
prisrv <ip address=""></ip>	プライマリ NTP サーバの IP アドレスを設定します。
secsrv <ip address=""></ip>	セカンダリ NTP サーバの IP アドレスを設定します。
intrval <1-44640>	スイッチクロックを NTP サーバと再同期させる間隔を分単位 (1~44640)
	で指定します。デフォルトは 1440 分です。
on	NTP 同期サービスを有効にします。
off	NTP 同期サービスを無効にします。デフォルトは無効です。
cur	現在の NTP サービス設定を表示します。

## System SNMP configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp

[SNMP Menu]	
snmpv3	- SNMPv3 Menu
name	- Set SNMP "sysName"
locn	- Set SNMP "sysLocation"
cont	- Set SNMP "sysContact"
rcomm	- Set SNMP read community string
wcomm	- Set SNMP write community string
timeout	- Set timeout for the SNMP state machine
auth	- Enable/disable SNMP "sysAuthenTrap"
linkt	- Enable/disable SNMP link up/down trap
ufd	- Enable/disable SNMP Uplink Failure Detection trap
cur	- Display current SNMP configuration

スイッチソフトウェアは SNMP ベースのネットワーク管理をサポートします。ネットワーク管理の SNMP モデルでは、管理ステーション(クライアント/サーバ)が、管理装置(エージェント)から 提供される MIB (Management Information Base) という 1 組の変数にアクセスします。ネットワー クで SNMP ネットワーク管理ステーションを実行している場合、以下の標準 SNMP MIB によりスイ ッチを管理できます。

- MIB II (RFC 1213)
- Ethernet MIB (RFC 1643)
- Bridge MIB (RFC 1493)

SNMP エージェントは、UDP ポート 161 で SNMP メッセージをリスンしている、管理装置のソフト ウェアプロセスです。エージェントに送信する各 SNMP メッセージには、検索、変更する管理オブジ ェクトのリストがあります。

- 変更できる SNMP パラメータには以下のパラメータがあります。
- システム名
- システム位置
- システムコンタクト
- SNMP システム認証トラップ機能の利用
- **Read** コミュニティ名
- Write コミュニティ名

次の表に SNMP メニューの項目を示します。

表68 System SNMP メニュー項目

項目	説明
snmpv3	SNMPv3 メニューを表示します。
name <1-64 characters>	システムの名前を設定します。最大 64 文字です。
locn <1-64 characters>	システムを設置している場所を指定します。最大 64 文字です。
cont <1-64 characters>	システムコンタクトの名前を指定します。最大 64 文字です。
rcomm <1-32 characters>	SNMP Read コミュニティ名を指定します。SNMP がスイッチに
	"get"アクセスするのを制御するストリングです。最大 32 文字、
	デフォルトは public です。
wcomm <1-32 characters>	SNMP Write コミュニティ名を指定します。SNMP がスイッチに
	"set"アクセス、"get"アクセスするのを制御するストリングです。
	最大 <b>32</b> 文字、デフォルトは <i>private</i> です。
timeout <1-30>	SNMP ステートマシンのタイムアウト値を設定します。範囲は1
	~30分、デフォルトは5分です。
auth disable enable	システム認証トラップ機能の使用を有効/無効にします。デフォ
	ルトでは無効です。
linkt <i><port></port></i> disable enable	SNMP リンクアップトラップ、リンクダウントラップの送信を
	有効/無効にします。デフォルトでは有効です。
ufd disable enable	<b>Uplink Failure Detection (UFD)</b> トラップの送信を有効/無効にし
	ます。デフォルトは無効です。
cur	現在の SNMP 設定を表示します。

# SNMPv3 configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3

[SNMPv3 Menu]		
usm	- usmUser Table Menu	
view	- vacmViewTreeFamily Table Menu	
access	- vacmAccess Table Menu	
group	- vacmSecurityToGroup Table Menu	
comm	- community Table Menu	
taddr	- targetAddr Table Menu	
tparam	- targetParams Table Menu	
notify	- notify Table Menu	
vlv2	- Enable/disable V1/V2 access	
cur	- Display current SNMPv3 configuration	

SNMP バージョン3 (SNMPv3) は、以下をサポートすることによって SNMPv2 フレームワークを補 完する拡張 SNMP フレームワークです。

- 新しい SNMP メッセージフォーマット
- メッセージのセキュリティ
- アクセス制御
- SNMP パラメータのリモート設定

SNMPv3 アーキテクチャの詳細については、RFC2271~RFC2275 を参照してください。

次の表に SNMPv3 メニューの項目を示します。

表69	SNM	1Pv3	メニュ	一項	E
-----	-----	------	-----	----	---

項目	説明
usm <1-16>	ユーザのユーザセキュリティモデル (USM) エントリを設定します。範囲は
	1~16 です。
view <1-128>	MIB ビューを設定します。範囲は 1~128 です。
access <1-32>	アクセス権を設定します。範囲は 1~32 です。
group <1-16>	SNMP グループを設定します。グループにより、ユーザ名を、アクセスグ
	ループ名と、SNMP 管理オブジェクトにアクセスするために必要なアクセ
	ス権にマッピングします。範囲は 1~16 です。
comm <1-16>	コミュニティテーブルエントリを指定します。コミュニティテーブルは、コ
	ミュニティ名を指定します。範囲は 1~16 です。
taddr <1-16>	通報の宛先アドレスとユーザセキュリティレベルを設定します。トランスポ
	ートエンドポイントともいいます。範囲は 1~16 です。
tparam <1-16>	SNMP パラメータを設定します。メッセージ処理モデル、セキュリティモ
	デル、セキュリティレベル、ユーザ名で構成されます。範囲は1~16で
	す。
notify <1-16>	通報インデックスを設定します。特定のイベントや状態などについてシステ
	ムをモニタし、そのイベント、条件に基づいて通報メッセージを作成しま
	す。範囲は1~16です。
vlv2 disable enable	SNMP バージョン 1、バージョン 2 でのアクセスを有効/無効にします。デ
	フォルトでは有効です。
cur	現在の SNMPv3 設定を表示します。

# SNMPv3 User Security Model configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/usm <usm number>

[SNMPv3 usmUser	1 Menu]
name -	· Set USM user name
auth -	Set authentication protocol
authpw -	Set authentication password
priv -	· Set privacy protocol
privpw -	· Set privacy password
del -	Delete usmUser entry
cur -	Display current usmUser configuration

このメニューは、認定ユーザ用にユーザセキュリティモデル (USM) エントリを生成します。次の表に SNMPv3 USM メニューの項目を示します。

#### 表70 SNMPv3 USM メニュー項目

項目	説明
name <1-32	ユーザの名前を最大 32 文字で設定します。スイッチのアクセスに必要なログイ
characters>	ン名です。
auth md5 sha none	HMAC-MD5-96 または HMAC-SHA-96 の認証プロトコルを設定します。usm
	number 1,2 以外のデフォルトは none です。
authpw	認証用パスワードを設定します。上記のコマンドを用いて認証アルゴリズムを
	選択した場合、パスワードを設定する必要があります。指定しないと、確認時
	にエラーメッセージが表示されます。
priv des none	スイッチのプライバシプロトコルのタイプを設定します。プライバシプロトコ
	ルはメッセージが公開されるのを防止するものです。オプションは des(CBC-
	DES 対称暗号化プロトコル)または none です。des を指定した場合、認証プ
	ロトコル(MD5 または HMAC-SHA-96)を選択していることを確認してくださ
	い。もし認証プロトコルで none を選択していると、エラーメッセージが表示
	されます。
privpw	プライバシパスワードを設定します。
del	
cur	USMユーザエントリを表示します。

### SNMPv3 View configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/view <view number>

[SNMPv3	vacmViewTreeFamily 1 Menu]
name	- Set view name
tree	- Set MIB subtree(OID) which defines a family of view subtrees
mask	- Set view mask
type	- Set view type
del	- Delete vacmViewTreeFamily entry
cur	- Display current vacmViewTreeFamily configuration

次の表に SNMPv3 View メニューの項目を示します。

### 表71 SNMPv3 View メニュー項目

項目	説明
name <1-32 characters>	ビューの名前を最大 32 文字で設定します。
tree <1-64 characters>	OIDを最大 64 文字で設定します。mask と組み合わせて、本エン
	トリのツリーを指定します。
	例: 1.3.6.1.2.1.1.1.0
mask <1-32 characters>	ビットマスクを 32 文字で設定します。tree と組み合わせて、本エ
	ントリのツリーを指定します。
type included excluded	tree と mask で指定したツリーを、name で設定した MIB ビュー
	に含むか除外するかを設定します。
del	本ビューのエントリを削除します。
cur	現在のビュー設定を表示します。

## SNMPv3 View-based Access Control Model configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/access <access number>

[SNMPv3 vacmA	ccess 1 Menu]
name	- Set group name
model	- Set security model
level	- Set minimum level of security
rview	- Set read view index
wview	- Set write view index
nview	- Set notify view index
del	- Delete vacmAccess entry
cur	- Display current vacmAccess configuration

vacmAccess でグループのアクセス権を設定します。

次の表に SNMPv3 Access メニューの項目を示します。

表72 SNMPv3 Access メニュー項目

項目	説明
name <1-32 characters>	グループ名を指定します。SNMPv3 Group configuration で
	設定する、グループエントリのグループ名です。
model usm snmpv1 snmpv2	使用するセキュリティモデルを設定します。
level	アクセス権の獲得に必要なセキュリティレベルを設定しま
noAuthNoPriv authNoPriv authPriv	す。noAuthNoPrivの場合、認証がなくプライバシプロ
	トコルを使用せずに SNMP メッセージが送信されます。
	authNoPriv では、認証はありますがプライバシプロト
	コルを使用せずに送信されます。authPriv では、認証
	を行いプライバシプロトコルを使用して送信されます。
rview <1-32 characters>	Read アクセスを許可する、MIB ビュー名を最大 32 文字で
	指定します。名前を指定しないか、指定しても有効なビュ
	ーが存在しない場合、アクセスは認められません。
wview <1-32 characters>	Write アクセスを許可する、MIB ビュー名を最大 32 文字で
	指定します。名前を指定しないか、指定しても有効なビュ
	ーが存在しない場合、アクセスは認められません。
nview <1-32 characters>	通報を許可する、MIB ビュー名を最大 32 文字で指定しま
	す。
del	ビューベースアクセス制御エントリを削除します。
cur	現在のビューベースアクセス制御設定を表示します。

### SNMPv3 Group configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/group <group number>

[SNMPv3 vacms	SecurityToGroup 1 Menu]
model	- Set security model
uname	- Set USM user name
gname	- Set group name
del	- Delete vacmSecurityToGroup entry
cur	- Display current vacmSecurityToGroup configuration

次の表に SNMPv3 Group メニューの項目を示します。

### 表**73 SNMPv3 Group** メニュー項目

項目	説明
model usm snmpv1 snmpv2	セキュリティモデルを設定します。
uname <1-32 characters>	ユーザ名を指定します。USM(User Security Model)エントリに設定した
	ユーザ名です。
gname <1-32 characters>	グループ名を最大 32 文字で設定します。
del	<b>vacmSecurityToGroup</b> エントリを削除します。
cur	現在の vacmSecurityToGroup 設定を表示します。

### SNMPv3 Community Table configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/comm <comm number>

[SNMPv3 snmpC	ommunityTable 1 Menu]
index	- Set community index
name	- Set community string
uname	- Set USM user name
tag	- Set community tag
del	- Delete communityTable entry
cur	- Display current communityTable configuration

コミュニティテーブルエントリの設定に使用するメニューです。設定したエントリは、SNMP エンジ ンのコミュニティテーブルリストに格納されます。

次の表に SNMPv3 Community Table メニューの項目を示します。

表74	SNMPv3	Community	/ Table	Configuration	メニュー項目
衣 / 4	SINIVIEVS	Community	/ I able	Communation	ノーユー項目

項目	説明
index <1-32 characters>	テーブルにユニークなインデックス値を設定します。最大 32 文字で
	す。
name <1-32 characters>	SNMP コミュニティ名を最大 32 文字で設定します。
uname <1-32 characters>	ユーザ名を指定します。USM エントリに設定したユーザ名で
	す。
tag <1-255 characters>	タグを指定します。SNMPv3 Target Address Table configuration で設定
	する、ターゲットアドレステーブルエントリのタグリストを指定しま
	す。このタグで、コマンドリスポンダアプリケーションが SNMP トラ
	ップを送信するトランスポートエンドポイントを指定します。
del	コミュニティテーブルエントリを削除します。
cur	現在のコミュニティテーブル設定を表示します。

### SNMPv3 Target Address Table configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/taddr <taddr number>

[SNMPv3 snmpTargetAddrTable 1 Menu]		
name	- Set target address name	
addr	- Set target transport address IP	
port	- Set target transport address port	
taglist	- Set tag list	
pname	- Set targetParams name	
del	- Delete targetAddrTable entry	
cur	- Display current targetAddrTable configuration	

SNMP トラップを送信する宛先アドレスのエントリを設定するメニューです。

次の表に SNMPv3 Target Address Table メニューの項目を示します。

項目	説明
name <1-32 characters>	ローカルには任意ですが、ユニークな識別子を設定します。
addr <transport address<="" td=""><td>SNMP トラップを送信する IP アドレスを設定します。</td></transport>	SNMP トラップを送信する IP アドレスを設定します。
ip>	
port <transport address<="" td=""><td>SNMP トラップ送信時に使用するトランスポートアドレスポートを</td></transport>	SNMP トラップ送信時に使用するトランスポートアドレスポートを
port>	設定します。
taglist <1-255	ターゲットアドレスの選択に使用するタグリストを設定します。最
characters>	大 255 文字です。
pname <1-32 characters>	パラメータ名を指定します。SNMPv3 Target Parameters Table
	configuration で設定する、ターゲットパラメータエントリのパラメー
	タ名です。
del	ターゲットアドレステーブルエントリを削除します。
cur	現在のターゲットアドレステーブルの設定を表示します。

表75 SNMPv3 Target Address Table メニュー項目

## SNMPv3 Target Parameters Table configuration

コマンド: /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/tparam <tparam number>

[SNMPv3 snmpT	argetParamsTable 1 Menu]
name	- Set targetParams name
mpmodel	- Set message processing model
model	- Set security model
uname	- Set USM user name
level	- Set minimum level of security
del	- Delete targetParamsTable entry
cur	- Display current targetParamsTable configuration

ターゲットパラメータエントリを設定して、SNMP エンジンのターゲットパラメータテーブルに格納 します。このテーブルには、メッセージの生成に使用するパラメータがあります。パラメータは、メ ッセージ処理モデル (SNMPv3、SNMPv2c、SNMPv1)、セキュリティモデル (usm など)、セキュ リティレベル (noAuthnoPriv、authNoPriv、authPriv) などです。 次の表に SNMPv3 Target Parameters Table メニューの項目を示します。

表76 SNMPv3 Target Parameters Table メニュー項目

項目	説明
name <1-32 characters>	パラメータ名を設定します。ローカルには任意ですが、ユニ
	ークな識別子を設定します。
mpmodel snmpv1 snmpv2c snmpv3	SNMP メッセージの生成に使用するメッセージ処理モデルを
	設定します。
model usm snmpv1 snmpv2	SNMP メッセージの生成時に使用するセキュリティモデルを
	設定します。
uname <1-32 characters>	本エントリを使用して SNMP メッセージを生成する、USM
	エントリに設定したユーザ名を指定します。
level	本エントリを用いた SNMP メッセージの生成時に使用する
noAuthNoPriv authNoPriv authPri	セキュリティのレベルを設定します。noAuthNoPriv の
V	場合、認証がなくプライバシプロトコルを使用せずに SNMP
	メッセージが送信されます。authNoPriv では、認証はあ
	りますがプライバシプロトコルを使用せずに送信されます。
	authPriv では、認証を行いプライバシプロトコルを使用
	して送信されます。
del	targetParamsTable エントリを削除します。
cur	現在のtargetParamsTable 設定を表示します。

## SNMPv3 Notify Table configuration

 $\exists \forall \mathcal{V} \models: \ /cfg/sys/ssnmp/snmpv3/notify \ \textit{<notify number>}$ 

[SNMPv3 snmpNo	otifyTable 1 Menu]
name	- Set notify name
tag	- Set notify tag
del	- Delete notifyTable entry
cur	- Display current notifyTable configuration

通報では、システムをモニタして特定のイベントや条件があるか調べ、そのイベントや条件に基づいてメッセージを生成し、トラップを送出します。 次の表に SNMPv3 Notify Table メニューの項目を示します。

### 表77\_SNMPv3 Notify Table メニューの項目

項目	説明
name <1-32 characters>	ローカルには任意ですが、ユニークな識別子を設定します。
tag <1-255 characters>	タグを指定します。SNMPv3 Target Address Table configuration で設
	定する、ターゲットアドレスエントリのタグリストを指定します。
del	通報テーブルエントリを削除します。
cur	現在の通報テーブル設定を表示します。

### System Access configuration

コマンド: /cfg/sys/access

[Syste	em Access	Menu]
n	ngmt	- Management Network Definition Menu
υ	ıser	- User Access Control Menu (passwords)
h	nttp	- Enable/disable HTTP (Web) access
h	nttps	- HTTPS Web Access Menu
Ŵ	vport	- Set HTTP (Web) server port number
S	snmp	- Set SNMP access control
t	nport	- Set Telnet server port number
t	port	- Set the TFTP Port for the system
C	cur	- Display current system access configuration

次の表に System Access メニューの項目を示します。

#### 表78 System Access メニュー項目

項目	説明
mgmt	Management Networks メニューを表示します。
user	User Access Control メニューを表示します。
http disable enable	ブラウザベースインタフェースへの HTTP(ウェブ)アク
	セスを有効/無効にします。デフォルトは有効です。
https	HTTPS メニューを表示します。
wport <tcp number="" port=""></tcp>	HTTP アクセスのポート番号を設定します。デフォルトは
	<b>80</b> です。
snmp disable read-only read-	SNMP のアクセス制御を設定します(read-only、read-
write	write、無効)。
tnport <tcp number="" port=""></tcp>	Telnet のポート番号を設定します。デフォルトは 23 です。
tport <tftp number="" port=""></tftp>	TFTP のポート番号を設定します。デフォルトは 69 です。
cur	現在のシステムアクセスパラメータを表示します。

# Management Networks configuration

コマンド: /cfg/sys/access/mgmt

[Management	Networks Menu]
add	- Add mgmt network definition
rem	- Remove mgmt network definition
cur	- Display current mgmt network definitions

次の表に Management Networks メニューの項目を示します。最大 10 の管理ネットワークをスイッチ に設定できます。

表79 Management Networks メニュー項目

項目	説明
add <ip address=""> <ip mask=""></ip></ip>	Telnet、SNMP、ブラウザベースインタフェースによるスイッチア
	クセスか可能な不ツトワークを設定します。IP アトレスの範囲 は、ネットロークマスクアドレスによって決まります。IP アドレ
	スとマスクアドレスをドット十進表記で指定します。
rem <ip address=""> <ip mask=""></ip></ip>	管理ネットワークアドレスを削除します。
cur	現在の管理ネットワークパラメータを表示します。

### User Access Control configuration

 $\exists \forall \mathcal{V}$  : /cfg/sys/access/user

[User Access	Control Menu]
uid	- User ID Menu
eject	- Eject user
usrpw	- Set user password (user)
opw	- Set operator password (oper)
admpw	- Set administrator password (admin)
cur	- Display current user status

次の表に User Access Control メニューの項目を示します。

表80	User	Access	Control	メ	ニュ	一項目	Ε
-----	------	--------	---------	---	----	-----	---

項目	説明
uid <1-10>	選択したユーザのユーザ ID メニューを表示します。
eject <user-name></user-name>	スイッチにアクセスしているユーザをイジェクトします。
usrpw <1-128	ユーザ(user)パスワードを設定します(最大 128 文字)。ユーザはスイ
characters>	ッチステータス情報と統計データを参照できますが、設定を変更するこ
	とはできません。
opw <1-128 characters>	オペレータ (oper) パスワードを設定します(最大 128 文字)。オペレー
	タはスイッチのすべての機能を管理します。スイッチ情報と統計データ
	のすべてを参照でき、ポートまたはスイッチ全体をリセットできます。
admpw <1-128	アドミニストレータ (admin) パスワードを設定します(最大 128 文
characters>	字)。アドミニストレータは、スイッチのメニュー、情報、設定コマン
	ドのすべてにアクセスでき、ユーザパスワード、アドミニストレータパ
	スワードの変更も行うことができます。
cur	現在のユーザステータスを表示します。

# User ID configuration

コマンド: /cfg/sys/access/user/uid <uid number>

[User ID 1	Menu]	
COS	- Set class of service	
name	- Set user name	
pswd	- Set user password	
ena	- Enable user ID	
dis	- Disable user ID	
del	- Delete user ID	
cur	- Display current user configuration	

次の表に User ID メニューの項目を示します。

#### 表81 User ID メニュー項目

項目	説明
cos <user admin="" oper=""></user>	サービスのクラスを設定してユーザの権限レベルを指定します。
name <1-8 characters>	ユーザ名を最大8文字で設定します。
pswd <1-128	ユーザパスワードを最大 128 文字で設定します。
characters>	
ena	ユーザ ID を有効にします。
dis	ユーザ ID を無効にします。
del	ユーザIDを削除します。
cur	現在のユーザIDパラメータを表示します。

## **HTTPS** Access configuration

 $\exists \forall \mathcal{V}$ : /cfg/sys/access/https

[https Menu]	
access -	Enable/Disable HTTPS Web access
port -	HTTPS WebServer port number
generate -	Generate self-signed HTTPS server certificate
certSave -	save HTTPS certificate
cur -	Display current SSL Web Access configuration

次の表に HTTPS メニューの項目を示します。

表82 HTTPS メニュー項目

項目	説明
access enable disable	HTTPS による BBI アクセス(ウェブアクセス)を有効/無効にします。
	デフォルトは disabled です。
port <tcp number="" port=""></tcp>	HTTPS のポート番号を設定します。デフォルトは 443 です。
generate	キー交換時に使用する SSL への接続証明書を作成します。HTTPS をは
	じめて有効にしたとき、デフォルト証明書が作成されます。たとえば以
	下の各種フィールドに適用したい情報を定める証明書を新たに作成でき
	ます。
	● 国名(2文字)[]: JP
	• 県名 []: Tokyo
	<ul> <li>地域名(たとえば市)[]: Fuchu</li> </ul>
	<ul> <li>組織名(たとえば会社名)[]: NEC</li> </ul>
	<ul> <li>部署名(たとえば課)[]: SIGMABLADE</li> </ul>
	<ul> <li>一般名(たとえばユーザ名)[]: Taro</li> </ul>
	<ul> <li>アドレス(たとえば Eメールアドレス) []: info@nec.com</li> </ul>
	証明書の作成には約 30 秒かかります。その後、スイッチが SSL エージ
	エントを再始動します。
certSave	証明書をフラッシュメモリに保存し、クライアントつまり Web ブラウザ
	に証明書の使用を許可します。
cur	現在の SSL ウェブアクセス設定を表示します。

# Port configuration

コマンド: /cf	g/port <port number=""></port>
[Port 1 Menu]	
gig	- Gig Phy Menu
pvid	- Set default port VLAN id
name	- Set port name
rmon	- Enable/Disable RMON for port
tag	- Enable/disable VLAN tagging for port
tagpvid	- Enable/disable tagging on pvid
ena	- Enable port
dis	- Disable port
cur	- Display current port configuration

このメニューで、個々のスイッチポートに関する設定を行うことができます。

### 注:ポート 19 はマネジメントインタフェース用です。

次の表に Port メニューの項目を示します。

表83 Port メニュー項目	
項目	説明
gig	Gigabit Link メニューを表示します。
pvid <1-4095>	VLAN タグなしフレームの転送に使用するデフォルト VLAN 番号
	を設定します。ポート 19 以外のポートのデフォルトは 1 です。
	注: VLAN4095 はマネジメントインタフェース用です。
name <1-64 characters> none	ポートの名前を設定します(最大 64 文字)。一部の情報画面、統
	計データ画面で、ポート番号の次に表示されます。
rmon enable disable	ポートのリモートモニタリングを有効/無効にします。デフォル
	トは無効です。RMON を使用する場合、RMON を有効にします。
tag enable disable	本ポートの VLAN タグを有効/無効にします。デフォルトは無効
	です。
tagpvid enable disable	VLAN タグの継続を有効/無効にします。無効にすると、VLAN タ
	グ内の VLAN ID が本ポートの PVID と一致する場合、パケットか
	ら VLAN タグを削除します。デフォルトは有効です。
ena	ポートを有効にします。
dis	ポートを無効にします。ポートの設定を変更しないで、ポートを
	一時的に無効にする方法については、次節の「Temporarily
	disabling a port」を参照してください。
cur	現在のポートパラメータを表示します。

### Temporarily disabling a port

ポートの設定を変更せずに、ポートを一時的に無効にするには、プロンプトに次のコマンドを入力し ます。

Main# /oper/port <port number>/dis

本設定でポートの一時的な状態を設定しますので、適用や保存を行う必要はありません。ポート状態 は、スイッチをリセットすると元の設定に戻ります。他の動作レベルコマンドについては、 「Operations Menu」の章の「メニュー内容」を参照してください。

### Port link configuration

コマンド: /cfg/port <port number>/gig

[Gigabit Link	Menu]
speed	- Set link speed
mode	- Set full or half duplex mode
fctl	- Set flow control
auto	- Set auto negotiation
cur	- Display current gig link configuration

ポートリンクのポートパラメータを設定します。

リンクメニュー項目は、スイッチの Gigabit Link メニューに表示されます。本メニューにて、ポート リンクの速度、全二重/半二重、フロー制御、ネゴシエーションモードなどのポートパラメータを設 定できます。

次の表に Gigabit Link メニューの項目を示します。

表84 Gigabit Link メニュー項目

項目 説明 speed 10 | 100 | 1000 | any リンク速度を設定します。すべてのオプションがすべてのポートで 有効という訳ではありません。以下の選択肢があります。 10 : 10Mb/s • 100 : 100Mb/s 1000 : 1000Mb/s any:自動検出(デフォルト) 注:ポート1~18は1000Mb/sに設定されており変更できません。 動作モードを設定します。すべてのオプションがすべてのポートで mode full half any 有効という訳ではありません。以下の選択肢があります。 • full: 全二重 half:半二重 any:自動検出(デフォルト) 注:ポート1~18は any、ポート17,18は full に設定されており変更 できません。 fctl rx|tx|both|none フロー制御を設定します。以下の選択肢があります。 rx:受信フロー制御 tx:送信フロー制御 both:受信と送信両方のフロー制御(デフォルト) none:フロー制御なし ٠ ポートのオートネゴシエーションを有効/無効にします。デフォル auto on off トは有効です。 現在のポートパラメータを表示します。 cur

# Layer 2 configuration

コマンド: /cfg/12

[Layer 2 Menu]	
mrst	- Multiple Spanning Tree/Rapid Spanning Tree Menu
stp	- Spanning Tree Menu
fdb	- FDB
trunk	- Trunk Group Menu
thash	- IP Trunk Hash Menu
lacp	- Link Aggregation Control Protocol Menu
vlan	- VLAN Menu
upfast	- Enable/disable Uplink Fast
update	- UplinkFast station update rate
cur	- Display current layer 2 parameters

次の表に Layer 2 メニューの項目を示します。

表85	Laver 2	メニュ	一項目
-----	---------	-----	-----

項目	説明
mrst	Multiple Spanning Tree/Rapid Spanning Tree メニューを表示します。
stp <1-32>	Spanning Tree メニューを表示します。
fdb	Forwarding Database メニューを表示します。
trunk <1-12>	選択したトランク(1~12)の Trunk Group メニューを表示します。
thash	IP Trunk Hash メニューを表示します。
lacp	Link Aggregation Control メニューを表示します。
vlan <1-4095>	VLAN メニューを表示します。
upfast	Fast Uplink Convergence を有効/無効にします。デフォルトは無効です。
enable disable	注:有効にすると、STG32 以外のすべての STG のブリッジプライオリティ
	を 65500 にし、ポート 17,18,20~24 のパスコストを 3000 増加させます。
update <10-200>	UplinkFast のステーション更新レートを、パケット/秒単位で設定します。
	範囲は10~200、デフォルト値は40です。
cur	現在のレイヤ2パラメータを表示します。

# Rapid Spanning Tree Protocol/Multiple Spanning Tree Protocol configuration

$\square$	$\checkmark$	ン	F	:	/cfg/l2/mrst
-----------	--------------	---	---	---	--------------

[Multi	ultiple Spanning Tree Menu]			
	cist	-	Common and Internal Spanning Tree Menu	
	name	-	Set MST region name	
	rev	-	Set revision level of this MST region	
	maxhop	-	Set Maximum Hop Count for MST (4 - 60)	
	mode	-	Spanning Tree Mode	
	on	-	Globally turns RSTP/MSTP ON	
	off	-	Globally turns RSTP/MSTP OFF	
	cur	-	Display current MST parameters	

スイッチは、IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree Protocol (RSTP) と IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree Protocol (MSTP) をサポートします。MSTP では、多数の VLAN を、各々が独自のトポロジを有 する、少数のスパニングツリーグループにマッピングできます。

最大 31 のスパニングツリーグループをスイッチに設定できます(STG 32 はスイッチ管理用に予約されています)。デフォルトでは MRST はオフです。

注:MSTP をオンにすると、VLAN 1 はスパニングツリーグループ 1 から CIST に移動します。 MSTP をオフにすると、スパニングツリーグループ 1 に戻ります。

次の表に Multiple Spanning Tree メニューの項目を示します。

項目	説明
cist	Common Internal Spanning Tree (CIST) メニューを表示します。
name <1-32 characters>	MSTP リージョンの名前を設定します。1 つの MSTP リージョン内
	のすべての装置は、同じリージョン名を使用する必要があります。
rev <0-65535>	MSTP リージョンのリビジョンレベルを設定します。1 つの MSTP
	リージョン内のすべての装置は、同じリビジョンレベルを使用する
	必要があります。範囲は 0~65535 です。デフォルトは 1 です。
maxhop <4-60>	パケットが脱落するまでに転送するブリッジホップの最大数を設定
	します。範囲は 4~60 ホップ、デフォルトは 20 ホップです。
mode rstp mstp	rstp かmstp を選択します。デフォルトはrstp です。
on	RSTP/MSTP をオンにします。
	注:RSTPをオンにすると、STP グループ1の構成パラメータが
	RSTP に適用されます。
off	RSTP/MSTP をオフにします。デフォルトはオフです。
cur	現在の RSTP/MSTP 設定を表示します。

表86 Multiple Spanning Tree メニュー項目

注:

- IEEE 802.1w 標準ベース RSTP インプリメントは 1 つの STG(つまり 1 スパニングツリーインスタンスと同じ)だけで動作します。そのため、'rstp'モードを選択すると、デフォルトのVLAN 1 を含め、すべての VLAN について 1 つの RSTP インスタンス(STG 1 のデフォルト)のみサポートします。
- 複数のスパニングツリーインスタンスが必要な場合、'mstp'モードを選択して、IEEE 802.1s
   MSTP で指定されているように、複数の VLAN を複数のスパニングツリーインスタンスで処理するようにします。
- IEEE 802.1s MSTP は、IEEE 802.1w RSTP を用いて rapid convergence をサポートしま す。
- 本スイッチの PVST+では、rapid convergence は未サポートです。

#### 注:

以下の構成はサポートしていません。

- PVST+(デフォルトスパニングツリー設定)は Cisco Rapid PVST+と共同運用できません。
- MSTP/RSTP(モードは'mstp'と'rstp'のどちらか)は Cisco Rapid PVST+と共同運用できません。

以下の構成はサポートしています。

- PVST+(デフォルトスパニングツリー設定)は Cisco PVST+と共同運用できます。
- MSTP/RSTP(モードは'mstp')は Cisco MST/RSTPと共同運用できます。

### Common Internal Spanning Tree configuration

コマンド: /cfg/l2/mrst/cist

[Common	Internal Spanning Tree Menu]
brg	- CIST Bridge parameter Menu
port	- CIST Port parameter Menu
add	- Add VLAN(s) to CIST
defau	ult - Default Common Internal Spanning Tree and Member parameters
cur	- Display current CIST parameters

CIST は各種 MSTP リージョン、種々のスパニングツリーインスタンスを実行するデバイスと互換性を提供します。スパニングツリーグループ0と同等です。

表 Common internal Spanning Tree アニュー項目		
項目	説明	
brg	CIST Bridge メニューを表示します。	
port <port number=""></port>	CIST Port メニューを表示します。	
add <1-4095>	VLAN を CIST に追加します。1 行に 1 つの VLAN を入力し、Enter を押して	
	VLAN を追加します。	
default	すべての CIST パラメータをデフォルト値にリセットします。	
cur	現在の CIST 設定を表示します。	

表87 Common Internal Spanning Tree メニュー項目

次の表に Common Internal Spanning Tree メニューの項目を示します。

# CIST bridge configuration

コマンド: /cfg/l2/mrst/cist/brg

```
[CIST Bridge Menu]
prior - Set CIST bridge Priority (0-65535)
mxage - Set CIST bridge Max Age (6-40 secs)
fwd - Set CIST bridge Forward Delay (4-30 secs)
cur - Display current CIST bridge parameters
```

CIST ブリッジパラメータは、スイッチが MSTP モードのときのみ使用されます。CIST パラメータは STP/PVST+の動作に影響しません。

次の表に CIST Bridge メニューの項目を示します。

表88 CIST Bridge メニュー	-項目
項目	説明
prior <0-65535>	CIST のブリッジプライオリティを設定します。ブリッジプライオリティが最 小のブリッジがルートブリッジになります。囲は 0~65535、デフォルトは 32768 です。
	RSTP には適用されません。RSTP を使用する場合、「Bridge Spanning Tree configuration」を参照してください。
mxage <6-40>	CIST の Max Age 値を設定します。MSTP ネットワークの再構築を開始するま でに、ブリッジが BPDU の受信を待つ最大時間です。範囲は 6〜40 秒、デフ ォルトは 20 秒です。
	RSTP には適用されません。RSTP を使用する場合、「Bridge Spanning Tree configuration」を参照してください。
fwd <4-30>	<ul> <li>CIST の Forward Delay 値を設定します。リスニング状態からラーニング状態、もしくはラーニング状態からフォワーディング状態に遷移する際、ブリッジポートが待ち合わせる時間です。範囲は 4~30 秒、デフォルトは 15 秒です。</li> <li>RSTP には適用されません。RSTP を使用する場合、「Bridge Spanning Tree configuration」を参照してください。</li> </ul>
cur	現在の CIST ブリッジ設定を表示します。

# CIST port configuration

コマンド: /cfg/l2/mrst/cist/port <port number>

[CIST Port	1	Menu]
prior	-	Set port Priority (0-240)
cost	-	Set port Path Cost (1-200000000, 0 for auto)
hello	-	Set CIST port Hello Time (1-10 secs)
link	-	Set MSTP link type (auto, p2p, or shared; default: auto)
edge	-	Enables or disables edge port
on	-	Turn port's Spanning Tree ON
off	-	Turn port's Spanning Tree OFF
cur	-	Display current port Spanning Tree parameters

CIST ポートパラメータにより、ポート単位で MST 動作を変更できます。CIST パラメータは STP/PVST+の動作に影響しません。

以下のポートパラメータがあります。

- ポートプライオリティ
- ポートパスコスト
- ポートハロー時間
- リンクタイプ
- エッジ
- オン/オフ
- 現ポート構成

次の表に CIST Port メニューの項目を示します。

#### 表89 CIST Port メニュー項目

項目	説明
prior <0-240>	CIST のポートプライオリティを設定します。指定ポートを決定するた
	めのパラメータです。複数のブリッジポートを1つのセグメントに接続
	している場合、ポートプライオリティが最小のポートが、セグメントの
	指定ポートになります。範囲は 0~240、ステップは 16(0、16、
	<b>32、…)、</b> デフォルトは <b>128</b> です。
cost <0-200000000>	CIST のポートパスコスト値を設定します。指定ポートを決定するため
	のパラメータです。ポートが高速になるほどパスコストは小さくなりま
	す。デフォルトは <b>20000</b> です。
hello <1-10>	CIST ポートの Hello time 値を設定します。ルートブリッジが BPDU
	(Bridge Protocol Data Unit)を送信する間隔です。ルートブリッジ以外の
	ブリッジは、ルートブリッジの値を使用します。範囲は 1~10 秒、デフ
	オルトは2秒です。
link auto p2p shared	ポートに接続するリンクのタイプを設定します。
	<ul> <li>auto:リンクタイプを検出し自動で設定します。</li> </ul>
	<ul> <li>p2p:ポートを Point-To-Point protocol 用に設定します。</li> </ul>
	<ul> <li>shared:共用メディア(通常はハブ)に接続するようにポートを</li> </ul>
	設定します。
	デフォルトは auto です。
edge disable enable	本ポートをエッジポートとして有効/無効にします。エッジポートはリ
	ンクアップすると同時にトラフィックの転送を開始します。サーバポー
	トをエッジポートとして構成します(有効化)。ポート 1~16 のデフォ
	ルトは有効です。
on	ポートの CIST を有効にします。デフォルトではポート 17,18,20〜24 が
	有効です。
off	ポートの CIST を無効にします。
cur	現在の CIST ポート設定を表示します。

# Spanning Tree configuration

コマンド: /cfg	g/l2/stp <stg number=""></stg>
[Spanning Tree	e Group 1 Menu]
brg	- Bridge parameter Menu
port	- Port parameter Menu
add	- Add VLAN(s) to Spanning Tree Group
remove	- Remove VLAN(s) from Spanning Tree Group
clear	- Remove all VLANs from Spanning Tree Group
on	- Globally turn Spanning Tree ON
off	- Globally turn Spanning Tree OFF
default	- Default Spanning Tree and Member parameters
cur	- Display current bridge parameters

本スイッチは、IEEE 802.1D スパニングツリープロトコル (STP) と Cisco PVST+プロトコルをサポートします。スパニングツリーグループを 31 まで構成できます (STG 32 はスイッチ管理用に予約されています)。スパリングツリーはデフォルトでオンです。

### 注:RSTP がオンの場合、STP グループ1のみ構成することができます。

次の表に Spanning Tree Group メニューの項目を示します。

表90	Spanning	Tree	Group	メ	ニュ	一項目
-----	----------	------	-------	---	----	-----

項目	説明
brg	Bridge Spanning Tree メニューを表示します。
port <port number=""></port>	Spanning Tree Port メニューを表示します。
add <1-4094>	VLAN をスパニングツリーグループと関連付けます。パラメータとして
	外部 VLAN ID を指定します。
remove <1-4094>	VLAN とスパニングツリーグループの関連を解除します。
clear	スパニングツリーグループからすべての VLAN を削除します。
on	スパニングツリープロトコルを有効にします。
off	スパニングツリープロトコルを無効にします。
default	スパニングツリーインスタンスをデフォルト設定に戻します。
cur	現在のスパニングツリープロトコルパラメータを表示します。

## Bridge Spanning Tree configuration

コマンド: /cfg/l2/stp <STG number>/brg

[Bridge Spanni	g Tree Menu]	
prior	Set bridge Priority [0-65535]	
hello	Set bridge Hello Time [1-10 se	cs]
mxage	Set bridge Max Age (6-40 secs)	
fwd	Set bridge Forward Delay (4-30	secs)
cur	Display current bridge paramet	ers

各スパニングツリーグループにスパニングツリーブリッジパラメータを設定できます。以下の STP ブ リッジパラメータがあります。

- ブリッジプライオリティ
- Hello Time
- Max Age
- Forward Delay
- 現ブリッジ構成

次の表に Bridge Spanning Tree メニューの項目を示します。

表91 Bridge Spanning Tree メニュー項目

項目	説明
prior <0-65535>	ブリッジプライオリティを設定します。ブリッジプライオリティが最小のブリッジ
	がルートブリッジになります。範囲は 0~65535、デフォルトは 32768 です。
	RSTP/MSTP : 範囲は 0~61440、ステップは 4096(0、4096、8192、…)、デフ
	オルトは <b>32768</b> です。
hello <1-10>	ブリッジの Hello time 値を設定します。ルートブリッジが BPDU (Bridge Protocol
	Data Unit)を送信する間隔です。ルートブリッジでは以外のブリッジは、ルートブ
	リッジの値を使用します。範囲は 1~10 秒、デフォルトは 2 秒です。
mxage <6-40>	ブリッジの Max Age 値を設定します。STP ネットワークの再構築を開始するまで
	に、ブリッジが BPDU の受信を待つ最大時間です。範囲は 6~40 秒、デフォルト
	は20秒です。
fwd <4-30>	ブリッジの Forward Delay 値を設定します。リスニング状態からラーニング状態、
	もしくはラーニング状態からフォワーディング状態に遷移する際、ブリッジポート
	が待ち合わせる時間です。範囲は 4~30 秒、デフォルトは 15 秒です。
cur	現在のブリッジ STP パラメータを表示します。

STP ブリッジパラメータを設定する場合、以下の条件を満足する必要があります。

- 2\*(*fwd*-1) <u>></u> *mxage*
- 2\*(*hello*+1) < *mxage*
- ここで、fwd は Forward Delay、mxage は Max Age、hello は Hello Time です。

## Spanning Tree port configuration

コマンド: /cfg/l2/stp <STG number>/port <port number>

[Spanning Tree	e Port 1 Menu]
prior	- Set port Priority (0-255)
cost	- Set port Path Cost (1-65535 (802.1d) /
	1-200000000 (MSTP/RSTP)/0 for auto)
link	- Set port link type (auto, p2p, or shared; default: auto)
edge	- Enables or disables this port
fastfwd	- Enable/disable Port Fast Forwarding mode
on	- Turn port's Spanning Tree ON
off	- Turn port's Spanning Tree OFF
cur	- Display current port Spanning Tree parameters

STP/PVST+のデフォルトでは、ダウンリンクポート(1~16)はオフ、インターリンクポート(17、 18)とアップリンクポート(20~24)はオンです。RSTP/MSTPのデフォルトも同様に、ダウンリン クポート(1~16)はオフ、インターリンクポート(17、18)とアップリンクポート(20~24)はオ ンです。また、ダウンリンクポートはエッジポートとして構成されています。

スパニングツリーポートパラメータにより、個々のポートについて STP 動作を変更できます。以下の STP ポートパラメータがあります。

- ポートプライオリティ
- ポートパスコスト

次の表に Spanning Tree Port メニューの項目を示します。

表92 Spanning Tree Port メニュー項目

項目	説明
prior <0-255>	ポートプライオリティを設定します。指定ポートを決定するためのパラメー
	タです。複数のブリッジポートを1つのセグメントに接続している場合、ポ
	ートプライオリティが最小のポートが、セグメントの指定ポートになりま
	す。
	範囲は 0~255、 デフォルトは 128 です。
	RSTP/MSTP : 範囲は 0~240、ステップは 16(0、16、32、)、デフォ
	ルトは128です。
cost <0-200000000>	ポートパスコスト値を設定します。指定ポートを決定するためのパラメータ
	です。ポートが高速になるほどパスコストは小さくなります。
	範囲は 0~65535 です。ポート 19 以外のポートのデフォルトは 4 です。0
	に設定した場合、オートネゴシエーションしたリンク速度でデフォルトコス
	トを計算し、100Mb/s ポートの場合 19、ギガビットポートの場合 4 になり
	ます。
	RSTP/MSTP:範囲は 0~20000000、ポート 19 以外のポートのデフォル
	トは 20000 です。0 に設定した場合、オートネゴシエーションしたリンク速
	度でデフォルトコストを計算し、100Mb/s ポートの場合 200000、ギガビッ
	トポートの場合 20000 になります。
link auto p2p shared	ポートに接続するリンクのタイプを設定します。
	• auto:リンクタイプを検出し、その設定を自動的に一致させるポート
	を設定します。
	<ul> <li>p2p:ポートを Point-To-Point Protocol 用に設定します。</li> </ul>
	<ul> <li>shared:共用メディア(通常はハブ)に接続するようにポートを設定</li> </ul>
	します。
	このコマンドが適用されるのは、RSTP がオンのときだけです。
edge disable enable	本ポートをエッジポートとして有効/無効にします。エッジポートはリンク
	アップすると同時に、トラフィックの転送を開始します。サーバポートをエ
	ッジポートとして構成します(有効化)。ポート 1~16 のデフォルトは有
	効です。
	このコマンドが適用されるのは、RSTP がオンのときだけです。
fastfwd	ポートの Fast Forwarding を有効/無効にします。デフォルトは無効です。
disable enable	
on	ポートの STP を有効にします。デフォルトではポート 17,18,20〜24 が有効
	です。
off	ポートの STP を無効にします。
cur	現在の STP ポートパラメータを表示します。

# Forwarding Database configuration

コマンド: /cfg/l2/fdb

[FDB Menu]	
static	- Static FDB Menu
aging	- Configure FDB aging value
cur	- Display current FDB configuration

次の表に FDB メニューの項目を示します。

### 表93 FDBメニュー項目

項目	説明
static	Static FDB メニューを表示します。
aging <0-65535>	FDB の Aging Time を設定します。デフォルト値は 300 です。
cur	現在の FDB パラメータを表示します。

# Static FDB configuration

コマンド: /cfg/l2/fdb/static

[Static FDB	Menu]
add	- Add a permanent FDB entry
del	- Delete a static FDB entry
clear	- Clear static FDB entries
cur	- Display current static FDB configuration

次の表に Static FDB メニューの項目を示します。

### 表94 Static FDB メニュー項目

項目	説明
add <mac address=""> <vlan> <port></port></vlan></mac>	スタティックエントリを FDB に追加します。
del <mac address=""> <vlan></vlan></mac>	スタティックエントリを FDB から削除します。
clear mac <i><mac address=""></mac></i>  VLAN <i>&lt;</i> 1-4095>	以下のように指定されたスタティック FDB エント
Port <port number=""> All</port>	リを FDB から消去します。
	<ul> <li>MAC アドレス</li> </ul>
	VLAN
	● ポート番号
	• All
cur	現在のスタティック FDB パラメータを表示しま
	す。

# Trunk configuration

コマンド: /cfg/l2/trunk <1-12>

[Trunk group	1 Menu]
add	- Add port to trunk group
rem	- Remove port from trunk group
ena	- Enable trunk group
dis	- Disable trunk group
del	- Delete trunk group
cur	- Display current Trunk Group configuration

トランクグループにより、スイッチや他のトランク可能なデバイス間とのトランク接続を行うことができます。トランクとは相互に作用するポートのグループのことで、それらの帯域幅を結合して1つの大きなポートが生成されます。最大12のトランクグループをスイッチに構成できますが、以下の条件があります。

- 各ポートは1つのトランクグループにのみ属することができます。
- 最大6つのポートが同じトランクグループに属することができます。
- 1トランク内のポートはすべて、速度、フロー制御、オートネゴシエーションの設定を同一にする必要があります。
- 他デバイスからのトランク接続は Cisco® EtherChannel®仕様に準拠している必要があります。
- デフォルトでは、ポート 17 とポート 18 を、トランクグループ1 に構成しています。ただし、 デフォルトで、ポート 17、18 は無効です。

注:ポートトランクを使用する方法については、「アプリケーションガイド」を参照してください。

次の表に Trunk Group メニューの項目を示します。

項目	説明
add <port number<="" th=""><th>&gt; ポートを現トランクグループに追加します。</th></port>	> ポートを現トランクグループに追加します。
rem <port number<="" th=""><th>&gt; ポートを現トランクグループから削除します。</th></port>	> ポートを現トランクグループから削除します。
ena	現トランクグループを有効にします。
dis	現トランクグループをオフにします。
del	現トランクグループ設定を削除します。
cur	現在のトランクグループパラメータを表示します。

表95 Trunk Group メニュー項目

# IP Trunk Hash configuration

コマンド: /cfg/l2/thash

[IP Trunk Hash Menu]			
set	- IP Trunk Hash Settings Menu		
cur	- Display current IP trunk hash configuration		
次の表に IP Trunk Hash メニューの項目を示します。			
表96 IP T	runk Hash メニュー項目		
項目	説明		
set	<b>IP Trunk Hash</b> 設定メニューを表示します。		
cur	現在の IP Trunk Hash 設定を表示します		

## Layer 2 IP Trunk Hash configuration

コマンド: /cfg/l2/thash/set

[set IP Trunk	Hash Settings Menu]
smac	- Enable/disable smac hash
dmac	- Enable/disable dmac hash
sip	- Enable/disable sip hash
dip	- Enable/disable dip hash
cur	- Display current trunk hash setting

Trunk Hash パラメータはスイッチにグローバルに設定されます。以下の組み合わせの中から1つ選択し、パラメータを有効にすることができます。

- SMAC (送信元 MAC のみ)
- DMAC (宛先 MAC のみ)
- SIP (送信元 IP のみ)
- DIP (宛先 IP のみ)
- SIP + DIP (送信元 IP と 宛先 IP)
- SMAC + DMAC (送信元 MAC と 宛先 MAC)

次の表に IP Trunk Hash 設定メニューの項目を示します。

#### 表97 IP Trunk Hash Setting Menu 項目

説明
送信元 MAC を使用した Trunk Hash を有効/無効にします。
宛先 MAC を使用した Trunk Hash を有効/無効にします。
送信元 IP を使用した Trunk Hash を有効/無効にします。
宛先 IP を使用した Trunk Hash を有効/無効にします。
現在の Trunk Hash 設定を表示します。

# Link Aggregation Control Protocol configuration

コマンド: /cfg/l2/lacp

[LACP Menu]	
sysprio	- Set LACP system priority
timeout	- Set LACP system timeout scale for timing out partner info
port	- LACP port Menu
cur	- Display current LACP configuration

次の表に LACP Configuration Menu 項目を示します。

表98 LACP Configuration Menu 項目

項目	説明
sysprio <1-65535>	スイッチのプライオリティ値 <b>(1~65535)</b> を設定します。値が小さい方がプライ
	オリティは高くなります。デフォルト値は <b>32768</b> です。
timeout short long	リモートのパートナから LACP データを無効化するまでのタイムアウト値を設
	定します。short(3 秒)もしくは long(90 秒)を選択します。デフォルトは
	long です。
	注:LACPDUの処理を削減するため、タイムアウト値を long にすることを推奨
	します。スイッチの CPU 利用率が 90 秒以上 100%のままの場合、LACP の代わ
	りにスタティックトランクの使用を考慮してください。
port <port number=""></port>	LACP Port Menu を表示します。
cur	現在の LACP 設定を表示します。

## LACP Port configuration

 $\exists \forall \mathcal{V} \models : \ /cfg/l2/lacp/port < port number >$ 

```
[LACP Port 2 Menu]
mode - Set LACP mode
prio - Set LACP port priority
adminkey - Set LACP port admin key
cur - Display current LACP port configuration
```

次の表に LACP Port Configuration Menu 項目を示します。

表99 LACP Port Configuration Menu 項目

項目	説明
mode off active passive	本ポートの LACP モードを設定します。
	• off :
	本ポートの LACP をオフにします。本ポートを使用して、スタティ
	ックトランクを手動で設定できます。デフォルトは off です。
	active :
	LACP をオンにし、本ポートを active にします。active のポートで
	LACPDU を送出します。
	passive :
	LACP をオンにし、本ポートを passive にします。passive のポート
	では LACPDU を送出しません。active のポートからの LACPDU に
	応答します。
prio <1-65535>	ポートのプライオリティ値を設定します。値が小さい方がプライオリテ
	ィは高くなります。デフォルトは <b>32768</b> です。
adminkey <1-65535>	本ポートの admin key を設定します。admin key と oper key(動作状態
	を内部で生成)が同じポートで、LACP トランクグループを形成しま
	す。
cur	ポートの現在の LACP 設定を表示します。

# VLAN configuration

コマンド: /cfg/l2/vlan <1-4095>

[VLAN 1 Menu]	
name	- Set VLAN name
stg	- Assign VLAN to a Spanning Tree Group
add	- Add port to VLAN
rem	- Remove port from VLAN
def	- Define VLAN as list of ports
ena	- Enable VLAN
dis	- Disable VLAN
del	- Delete VLAN
cur	- Display current VLAN configuration

本メニューのコマンドで、VLAN アトリビュートの構成、VLAN のステータスの変更、VLAN の削除、 VLAN のポートメンバの変更などを行います。

デフォルトでは、VLAN 1, 4095 以外の VLAN メニュー項目は無効です。本スイッチは最大 1,000 の VLAN をサポートします。VLAN 4095 はマネジメントインタフェース用です。

#### 注: VLAN については「アプリケーションガイド」を参照してください。

次の表に VLAN メニューの項目を示します。

表100 )	VLAN	メニュ	ュー項目
--------	------	-----	------

項目	説明
name <1-32 characters>	VLAN に名前を付けるか、変更します。デフォルト VLAN 名
	は最初の名前です。
stg <0-32>	VLAN をスパニングツリーグループに割り当てます。
	スパニングツリーグループについて、
	STP/PVST+の場合、<1-32>
	RSTPの場合、<1>のみ
	MSTPの場合、<0-32> (0はCIST)
	を指定します。
add <port number=""></port>	ポートを VLAN メンバに追加します。
rem <port number=""></port>	ポートを VLAN メンバから削除します。
def <list numbers="" of="" port=""></list>	複数のポートを VLAN メンバに追加します。
ena	本 VLAN を有効にします。
dis	本 VLAN を無効にしますが、設定としては削除しません。
del	本 VLAN を削除します。
cur	現在の VLAN 設定を表示します。

重要:どのポートも少なくとも1つの VLAN に属す必要があります。VLAN から削除され、どの VLAN のメンバでもなくなると、自動的にデフォルトの VLAN 1 に追加されます。VLAN 1 以外の どの VLAN のメンバでもなくなると、VLAN 1 からの削除はできません。また、ポートの VLAN タ グがオフの場合、複数の VLAN に加えることはできません。

# Layer 3 configuration

コマンド: /cfg/13

[Layer 3 Menu]	]	
if	-	Interface Menu
gw	-	Default Gateway Menu
arp	-	ARP Menu
igmp	-	IGMP Menu
dns	-	Domain Name System Menu
cur	_	Display current IP configuration

次の表に Layer 3 メニューの項目を示します。

#### 表101 Layer 3 メニュー項目

項目	説明
if <1-256>	IP Interface メニューを表示します。
gw <1-4>	IP Default Gateway メニューを表示します。
arp	ARP メニューを表示します。
igmp	IGMP メニューを表示します。
dns	IP Domain Name System メニューを表示します。
cur	現在の IP 設定を表示します。

# IP Interface configuration

コマンド: /cfg/l3/if <1-256>

[IP	Interface	1	Menu]
	addr	-	Set IP address
	mask	-	Set subnet mask
	vlan	-	Set VLAN number
	ena	-	Enable IP interface
	dis	-	Disable IP interface
	del	-	Delete IP interface
	cur	-	Display current interface configuration

本スイッチには最大 256 の IP インタフェースを構成できます。各 IP インタフェースでネットワーク 上の IP サブネットにスイッチを表します。IP インタフェースオプションはデフォルトでは無効です。

次の表に IP Interface メニューの項目を示します。

表102 IP Interface メニュー項目

項目	説明
addr <i><ip address=""></ip></i>	スイッチインタフェースの IP アドレスを、ドット 10 進表記で設定し
	ます。例:192.2.14.101
mask <ip mask="" subnet=""></ip>	インタフェースの IP サブネットアドレスマスクを、ドット 10 進表記
	で設定します。例:255.255.255.0
vlan <1-4094>	インタフェースの VLAN 番号を設定します。各インタフェースは1つ
	の VLAN に属すことができますが、どの VLAN も複数の IP インタフェ
	ースを持つことができます。
ena	本 IP インタフェースを有効にします。
dis	本 IP インタフェースを無効にします。
del	本 IP インタフェースを削除します。
cur	現在のインタフェース設定を表示します。

注:インタフェース1にIPアドレスを入力すると、BOOTP設定を変更するよう要求されます。 また、インタフェース 256 はスイッチマネジメントインタフェース用です。

# Default Gateway configuration

コマンド :	/cfg/l3/gw	<1-4>
--------	------------	-------

[Default gates	way 1 Menu]
addr	- Set IP address
intr	- Set interval between ping attempts
retry	- Set number of failed attempts to declare gateway DOWN
arp	- Enable/disable ARP only health checks
ena	- Enable default gateway
dis	- Disable default gateway
del	- Delete default gateway
cur	- Display current default gateway configuration

スイッチはゲートウェイを4つまでサポートします。デフォルトでは、ゲートウェイはスイッチに設定されていません。設定したいゲートウェイに応じて、*<ゲートウェイ番号>*としてコマンドに1、2、3、4を入力します。

次の表に Default Gateway メニューの項目を示します。

衣 105 Delault Galeway / ーユー項目
-------------------------------

項目	説明
addr <i><ip address=""></ip></i>	デフォルト IP ゲートウェイの IP アドレスを、ドット 10 進表記で設定しま
	す。例:192.4.17.44
intr <0-60>	スイッチからデフォルトゲートウェイに ping してヘルスチェックします。
	本オプションでヘルスチェック間隔を設定します。範囲は0~60秒、デフ
	オルトは2秒です。
retry <1-120>	ヘルスチェックのリトライ回数を設定します。範囲は1~120回、デフォ
	ルトは8回です。
arp disable enable	ARPヘルスチェックを有効/無効にします。
ena	ゲートウェイを有効にして、使用できるようにします。
dis	ゲートウェイを無効にします。
del	ゲートウェイを設定から削除します。
cur	現在のゲートウェイ設定を表示します。

注:ゲートウェイ4はマネジメントインタフェースです。

# Address Resolution Protocol configuration

コマンド: /cfg/l3/arp

```
[ARP Menu]
rearp - Set re-ARP period in minutes
cur - Display current ARP configuration
```

ARPは、インターネットレイヤ内に存在する TCP/IP プロトコルです。IP アドレスから物理アドレス を解決します。ローカルネットワークのマシンに物理アドレスを照会します。また、IP アドレスと物 理アドレスのペアをキャッシュメモリに保持します。どの IP 通信でも、コンピュータやルータの IP アドレスが ARP キャッシュにあるか調べます。該当の IP アドレスがあった場合、対応する物理アド レスでパケットを送信します。

次の表に ARP メニューの項目を示します。

### 表104 ARP メニュー項目

<u> </u>	
項目	説明
rearp <2-120>	再 ARP 時間を分単位で設定します。範囲は 2~120 分です。デフォルトは 10 分で
	す。
cur	現在の ARP 設定を表示します。

# **IGMP** configuration

コマンド: /cfg/13/igmp

[IGMP Menu]	
snoop	- IGMP Snoop Menu
mrouter	- Static Multicast Router Menu
igmpflt	- IGMP Filtering Menu
on	- Globally turn IGMP ON
off	- Globally turn IGMP OFF
cur	- Display current IGMP configuration

IGMP スヌーピングを行うと、マルチキャストトラフィックを要求するポートにだけトラフィックを 送ることができます。すべてのポートに送出されるのを防止します。どのサーバホストがマルチキャ ストトラフィックを受信しようとしているかを、スイッチが学習し、そのサーバに接続されているポ ートにだけトラフィックを送ります。

次の表に IGMP メニューの項目を示します。

#### 表105 IGMP メニュー項目

項目	説明
snoop	IGMP Snoop メニューを表示します。
mrouter	Static Multicast Router メニューを表示します。
igmpflt	IGMP Filtering メニューを表示します。
on	IGMP をオンにします。
off	IGMP をオフにします。デフォルトはオフです。
cur	現在の IGMP 設定パラメータを表示します。

# IGMP snooping configuration

コマンド: /cfg/l3/igmp/snoop

[IGMP Snoop M	enu]
timeout	- Set report timeout
mrto	- Set multicast router timeout
qintrval	- Set IGMP query interval
robust	- Set expected packet loss on subnet
aggr	- Aggregate IGMP report
srcip	- Set source ip to use when proxying GSQ
add	- Add VLAN(s) to IGMP Snooping
rem	- Remove VLAN(s) from IGMP Snooping
clear	- Remove all VLAN(s) from IGMP Snooping
fastlv	- Enable/disable Fastleave processing in VLAN
cur	- Display current IGMP Snooping configuration

次の表に IGMP Snoop メニューの項目を示します。

Table 106 IGMP	Snoop ≯	ニュー項目
----------------	---------	-------

項目	説明
timeout <1-255>	IGMP ホストの最大応答時間 (MRT) を設定します。IGMP ホス
	トの中断時間の決定に使用するパラメータの1つです。範囲は
	1~255 秒、デフォルトは 10 秒です。
mrto <1-600>	IGMP Mrouter の中断時間を Mrouter テーブルに設定します。ス
	イッチは、mrto 秒間に Mrouter からクエリを受信しないと、
	テーブルからマルチキャストルータを削除します。範囲は1~
	<b>600</b> 秒、デフォルトは <b>255</b> 秒です。
qintrval <1-600>	IGMP ルータのクエリ間隔を設定します。範囲は 1~600 秒、デ
	フォルト値は 125 秒です。
robust <2-10>	IGMP ロバストネス変数を設定します。パケットのロストが大
	きい場合、この値を大きくします。デフォルトは2です。
aggr disable enable	IGMP Membership Report aggregation を有効/無効にします。
	デフォルトは有効です。
<pre>srcip <ip address=""></ip></pre>	IGMP Group Specific Query を Proxy として出す際のソース IP
	アドレスを設定します。
add <1-4094>	VLAN を IGMP スヌーピングに追加します。
rem <1-4094>	VLAN を IGMP スヌーピングから削除します。
clear	すべての VLAN を IGMP スヌーピングから削除します。
fastlv <1-4094>	Fast Leave を有効/無効にします。ホストが Leave メッセージ
disable enable	を送信し、所定の条件が満足されれば、Fast Leave により
	IGMP ポートリストからポートを直ちに削除できます。デフォ
	ルトは無効です。
ena	IGMP スヌーピングを有効にします。
dis	IGMP スヌーピングを無効にします。デフォルトは無効です。
cur	現在の IGMP スヌーピングパラメータを表示します。

### IGMP static multicast router configuration

コマンド: /cfg/l3/igmp/mrouter

```
[Static Multicast Router Menu]
add - Add port as Multicast Router Port
rem - Remove port as Multicast Router Port
cur - Display current Multicast Router configuration
```

次の表に Static Multicast Router メニューの項目を示します。

注: VLAN にスタティックマルチキャストルータを設定すると、その VLAN ではマルチキャストルー タを学習するプロセスが無効になります。

表107 IGMP Static Multicast Router メニュー

項目	説明
add <port number=""> &lt;1-4094&gt; &lt;1-2&gt;</port>	スタティックマルチキャストルータを接続するポート/
	VLAN ペアを選択し、マルチキャストルータの IGMP バ
	ージョン (1 または 2) を指定します。
rem <port number=""> &lt;1-4094&gt; &lt;1-2&gt;</port>	選択したポート/VLAN ペアからスタティックマルチキ
	ャストルートを削除します。
cur	現在の IGMP スタティックマルチキャストルータパラメ
	ータを表示します。

# IGMP filtering configuration

 $\exists \forall \mathcal{V}$ : /cfg/l3/igmp/igmpflt

[IC	GMP Filt	er	Menu]
	filter	-	IGMP Filter Definition Menu
	port	-	IGMP Filtering Port Menu
	ena	-	Enable IGMP Filtering
	dis	-	Disable IGMP Filtering
	cur	-	Display current IGMP Filtering configuration

次の表に IGMP Filter メニューの項目を示します。

表108 IGMP Filter メニュー項目

項目	説明
filter <1-16>	IGMP Filter Definition メニューを表示します。
<pre>port <port number=""></port></pre>	IGMP Filtering Port メニューを表示します。
ena	IGMP フィルタリングを有効にします。
dis	IGMP フィルタリングを無効にします。デフォルトは無効で
	す。
cur	現在の IGMP フィルタリングパラメータを表示します。

### **IGMP** filter definition

コマンド: /cfg/l3/igmp/igmpflt/filter

[IGMP Filter	r 1 Definition Menu]
range -	Set IP Multicast address range
action -	Set filter action
ena –	Enable filter
dis -	Disable filter
del -	Delete filter
cur -	Display current IGMP filter configuration

次の表に IGMP Filter Definition メニューの項目を示します。

表109	IGMP	Filter	Definition	メ	ニュ	一項	目
------	------	--------	------------	---	----	----	---

項目	説明
range <ip address="" multicast=""></ip>	フィルタの IP マルチキャストアドレスの範囲を設定します。範
<ip address="" multicast=""></ip>	囲の先頭と最後を続けて入力します。
action allow deny	指定した IP マルチキャストアドレスのマルチキャストトラフィ
	ックを許可または拒否します。
ena	本 IGMP フィルタを有効にします。
dis	本 IGMP フィルタを無効にします。デフォルトは無効です。
del	本フィルタのパラメータ定義を削除します。
cur	現在の IGMP フィルタを表示します。

### IGMP filtering port configuration

コマンド: /cfg/l3/igmp/igmpflt/port

```
[IGMP Port 17 Menu]
filt - Enable/disable IGMP Filtering on port
add - Add IGMP filter to port
rem - Remove IGMP filter from port
cur - Display current IGMP Filtering Port configuration
```

次の表に IGMP Port メニューの項目を示します。

#### 表110 IGMP Port メニュー項目

項目	説明
filt enable disable	ポートの IGMP フィルタリングを有効/無効にします。デフォルト
	は無効です。
add <1-16>	IGMP フィルタをポートに追加します。
rem <1-16>	IGMP フィルタをポートから削除します。
cur	本ポートの現在の IGMP フィルタパラメータを表示します。

## **Domain Name System configuration**

コマンド: /cfg/l3/dns

[Domain Name	System	Menu]
prima	- Set	primary DNS server address
secon	- Set	secondary DNS server address
dname	- Set	default domain name
cur	- Disp	play current DNS configuration

Domain Name System メニューは、ローカルネットワークでプライマリとセカンダリ DNS サーバの 定義、スイッチサービスで利用するデフォルトドメイン名の設定に使用するメニューです。ping、 traceroute、tftp コマンドでホスト名パラメータを使用する場合、DNS パラメータを設定する必要があ ります。

次の表に Domain Name System メニューの項目を示します。

表111 Domain Name System メニュー項目

項目	説明
prima <i><ip address=""></ip></i>	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを、ドット十進表記
	で設定します。例:192.4.17.41
secon <i><ip address=""></ip></i>	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。プラ
	イマリ DNS サーバが故障すると、代わってこのセカンダリ
	サーバが使用されます。ドット十進表記で入力します。
	例:192.4.17.42
dname <dotted dns="" notation=""> none</dotted>	スイッチで使用するデフォルトドメイン名を設定します。
	例:mycompany.com
cur	現在のドメイン名システム (DNS) 設定を表示します。

# Remote Monitoring configuration

コマンド: /cfg/rmon

[RMON	Menu]		
	hist	RMON History Menu	
	event	RMON Event Menu	
	alarm	RMON Alarm Menu	
	cur	Display current RMON configuration	

RMON により、スイッチを通るトラフィックフローをモニタすることができます。RMON MIB については RFC 1757 に説明されています。

次の表に RMON メニューの項目を示します。

### 表112 RMON メニュー項目

項目	説明
hist	RMON History メニューを表示します。
event	RMON Event メニューを表示します。
alarm	RMON Alarm メニューを表示します。
cur	現在の RMON 構成を表示します。

# RMON history configuration

コマンド: /cfg/rmon/hist <1-65535>

[RMON	History	1	Menu]
	ifoid	-	Set interface MIB object to monitor
	rbnum	-	Set the number of requested buckets
	intrval	-	Set polling interval
	owner	-	Set owner for the RMON group of statistics
	delete	-	Delete this history and restore defaults
	cur	-	Display current history configuration

スイッチは history グループを 5 つまでサポートします。

次の表に RMON History メニューの項目を示します。

### 表113 RMON History メニュー項目

項目	説明
ifoid <1-127 characters>	インタフェース MIB オブジェクト識別子 (IFOID) を設定します。た
	とえば、1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.x のように、標準インタフェース OID を
	指定する必要があります。最大 127 文字です。
rbnum <1-65535>	リクエストバケット数を設定します。範囲は <b>1~65535、</b> デフォル
	トは <b>30</b> です。
	注:最大許容バケット数は 50 です。
intrval <1-3600>	各バケットについてデータをサンプリングする間隔を設定します。
	範囲は 1~3600 秒、デフォルトは 1800 秒です。
owner <1-127 characters>	history インデックスを使用する人またはエンティティを示すテキス
	トを入力します。最大 <b>127</b> 文字です。
delete	選択した history インデックスを削除します。
cur	現在の RMON history パラメータを表示します。

# **RMON** event configuration

コマンド: cfg/rmon/event <1-65535>

[RMON	Event 1	Menu]
	descn	- Set description for the event
	type	- Set event type
	owner	- Set owner for the event
	delete	- Delete this event and restore defaults
	cur	- Display current event configuration

本スイッチはイベントグループを30までサポートします。

次の表に RMON Event メニューの項目を示します。

#### 表114 RMON Event メニュー項目

項目	説明
descn <1-127 characters>	イベントを説明するテキストを入力します。最大 127 文字です。
type none log trap both	イベント発生時に通知するタイプを設定します。ログイベントの場合、
	ログテーブルに入力し、シスログホストに送信します。トラップイベン
	トの場合、SNMP トラップを送信します。
owner <1-127 characters>	イベントインデックスを使用する人またはエンティティを示すテキスト
	を入力します。最大 <b>127</b> 文字です。
delete	イベントインデックスを削除します。
cur	現在の RMON イベントパラメータを表示します。

# RMON alarm configuration

コマント	× :	/cfg/rmon/alarm	<1-65535>
------	-----	-----------------	-----------

[RMON	Alarm 1	lenu]
	oid	Set MIB oid datasource to monitor
	intrval	Set alarm interval
	sample	Set sample type
	almtype	Set startup alarm type
	rlimit	Set rising threshold
	flimit	Set falling threshold
	revtidx	Set event index to fire on rising threshold crossing
	fevtidx	Set event index to fire on falling threshold crossing
	owner	Set owner for the alarm
	delete	Delete this alarm and restore defaults
	cur	Display current alarm configuration

アラーム RMON グループで MIB オブジェクトの立上り値、立下り値を監視できます。MIB オブジェ クトとして、カウンタ、ゲージ、整数、時間のいずれかを指定します。アラームのしきい値を横切っ たときにトリガするイベントインデックスと、各アラームインデックスを対応させる必要があります。 スイッチはアラームグループを 30 までサポートします。

次の表に RMON Alarm メニューの項目を示します。

表115 RMON Alarm メニュー項目

項目	説明
oid <1-127 characters>	アラーム MIB オブジェクト識別子を設定します。最大 127 文字
	です。
intrval <1-65535>	データをサンプリングし、立上り/立下りしきい値と比較する間
	隔を設定します。範囲は 1~65535 秒、デフォルトは 1800 秒で
	す。
sample abs delta	選択した変数をサンプリングし、しきい値と比較する方法を設定
	します。
	abs:絶対値。選択した変数の値を、サンプリング間隔の最後に
	しきい値と直接比較します。
	delta:デルタ値。選択した変数の最終サンプル値を現在の値か
	ら引き、その差をしきい値と比較します。
	デフォルトは abs です。
almtype	アラームタイプを、rising(立上り)、falling(立下り)、either
rising falling either	(立上りまたは立下り)から設定します。
	デフォルトは either です。
rlimit < -2147483647 to	サンプリングした統計データの立上りしきい値を設定します。現
2147483647>	サンプル値が本しきい値以上で、最終サンプリング時の値が本し
	きい値より小さい場合、イベントが生成されます。デフォルトは
	0 です。
flimit < -2147483647 to	サンプリングした統計データの立下りしきい値を設定します。現
2147483647>	サンプル値が本しきい値以下で、最終サンプリング時の値が本し
	きい値より大きい場合、イベントが生成されます。デフォルトは
	0です。
revtidx <0-65535>	立上りしきい値と交差したときにトリガする立上りアラームイベ
	ントインデックスを設定します。範囲は0~65535、デフォルト
fevtidx <0-65535>	立下りしきい値と交差したときに下リガする立下りアラームイベ
	ントインテックスを設定します。範囲は0~65535、テフォルト
owner <1-127 characters>	アフームインテックスを使用する人またはエンティティを示すア
	キムトを八刀します。
delete	アフームインテックスを削除します。
cur	現在の RMON アラームパラメータを表示します。

# Port mirroring

コマンド: /cfg/pmirr

[Port	Mirroring	Menu]	
	mirror -	Enable/Disable Mirroring	
	monport -	Monitoring Port based PM Menu	
	cur -	Display All Mirrored and Monitoring Ports	

ポートミラーリングは、ポートをモニタするために使用します。有効にすると、ターゲットポートで 送受信しているネットワークパケットが二重化され、モニタポートに送られます。ネットワークアナ ライザをモニタポートに接続すれば、ネットワークの性能と利用に関して詳細な情報を収集できます。 ポートミラーリングはデフォルトでは無効です。

注:ポートミラーリングを使用する方法については、「アプリケーションガイド」を参照してください。

次の表に Port Mirroring メニューの項目を示します。

表116 Port Mirroring メニュー項目

項目	説明
mirror disable enable	ポートミラーリングを有効/無効にします。デフォルトは無効で
	す。
monport <port number=""></port>	Port メニューを表示します。
cur	ミラーポートとモニタポートの現在の設定を表示します。

## Port-based port mirroring

コマンド: /cfg/pmirr/monport <port number>

[Port	1 Menu]	
	add	- Add "Mirrored" port
	rem	- Rem "Mirrored" port
	delete	- Delete this "Monitor" port
	cur	- Display current Port-based Port Mirroring configuration

次の表に Port メニューの項目を示します。

表**117 Port**メニュー項目

項目	説明
add <i>«mirrored port»</i> in out both	<ul> <li>ミラーポートとトラフィックの方向を設定します。</li> <li>フレームのソースポートがミラーポートと一致し、ミラーリング方向が ingress か both (ingress と egress の両方)の場合、そのフレームはミラーポートに送信されます。</li> <li>フレームの宛先ポートがミラーポートと一致し、ミラーリング方向が egress か both の場合、そのフレームはモニタポートに送信されます。</li> </ul>
rem <mirrored port=""></mirrored>	ミラーポートを削除します。
delete	本モニタポートを削除します。
cur	本ポートのミラーリング設定を表示します。
# Uplink Failure Detection configuration

コマンド: /cfg/ufd

```
[Uplink Failure Detection Menu]
fdp - Failure Detection Pair Menu
on - Globally turn Uplink Failure Detection ON
off - Globally turn Uplink Failure Detection OFF
cur - Display current Uplink Failure Detection configuration
```

Uplink Failure Detection (UFD) は、ネットワークアダプタチーミングのネットワークフォールトトレ ランスをサポートするものです。このメニューから、LtM と LtD の Failure Detection Pair (FDP) を構 成します。FDP は4ペアまで設定することができます。UFD が有効で FDP を構成した場合、LtM で 故障を検出すると、LtD のポートを自動的に無効にします。LtM グループでモニタする故障状態には、 ポートリンク状態のダウンへの移行、スパニングツリープロトコルが有効のときポート状態のブロッ キングへの移行があります。

次の表に Uplink Failure Detection メニューの項目を示します。

表118	Uplink	Failure	Detection	メニ:	ュー項目
------	--------	---------	-----------	-----	------

項目	説明
fdp	FDPメニューを表示します。
on	Uplink Failure Detection をオンにします。
off	Uplink Failure Detection をオフにします。デフォルトはオフです。
cur	現在の Uplink Failure Detection の設定パラメータを表示します。

### Failure Detection Pair (FDP) configuration

コマンド: /cfg/ufd/fdp <FDP number>

[FDP	1 Menu]	
	ltm	- Link to Monitor Menu
	ltd	- Link to Disable Menu
	ena	- Enable FDP
	dis	- Disable FDP
	current	- Display current FDP configuration

Link to Monitor (LtM) と Link to Disable (LtD) からなる FDP の構成に使用するコマンドです。LtM で故障を検出すると、LtD のポートを自動的に無効にします。

次の表に FDP メニューの項目を示します。

表119	FDP >	くニュ	一項目
------	-------	-----	-----

項目	説明
ltm	Failure Link to Monitor メニューを表示します。
ltd	Failure Link to Disable メニューを表示します。
ena	本 FDP を有効にします。
dis	本 FDP を無効にします。デフォルトは無効です。
current	現在の FDP 構成を表示します。

## Link to Monitor (LtM) configuration

コマンド: /cfg/ufd/fdp <FDP number>/ltm

[Failure Link	to Monitor Menu]
addport	- Add port to Link to Monitor
remport	- Remove port from Link to Monitor
addtrnk	- Add trunk to Link to Monitor
remtrnk	- Remove trunk from Link to Monitor
addkey	- Add adminkey to Link to Monitor
remkey	- Remove adminkey from Link to Monitor
cur	- Display current LtM configuration

次の表に Failure Link to Monitor メニューの項目を示します。LtM は、アップリンクポート(ポート 20~24) 1 つだけか、アップリンクポートだけからなる、1 トランクグループもしくは LACP トラン クグループのいずれかを割り当てることができます。

表120 Failure Link to Monitor メニュー項目

項目	説明
addport <port number=""></port>	ポートを LtM に追加します。アップリンクポート (20~24) のみ設定可能
	です。
remport <port number=""></port>	ポートを LtM から削除します。
addtrnk <1-12>	トランクグループを LtM に追加します。アップリンクポート (20~24) だ
	けで構成したトランクグループのみ設定可能です。
remtrnk <1-12>	トランクグループを LtM から削除します。
addkey <lacp port<="" td=""><td>LACP トランクグループを LtM に追加します。LACP トランクグループに</td></lacp>	LACP トランクグループを LtM に追加します。LACP トランクグループに
adminkey>	設定している adminkey を指定します。アップリンクポート (20〜24) だ
	けで構成した LACP トランクグループのみ設定可能です。
remkey <lacp port<="" td=""><td>LACP トランクグループを LtM から削除します。</td></lacp>	LACP トランクグループを LtM から削除します。
adminkey>	
cur	現在のLtM構成を表示します。

## Link to Disable (LtD) configuration

コマンド: /cfg/ufd/fdp <FDP number>/ltd

[Failure Link	to Disable Menu]
addport	- Add port to Link to Disable
remport	- Remove port from Link to Disable
addtrnk	- Add trunk to Link to Disable
remtrnk	- Remove trunk from Link to Disable
addkey	- Add adminkey to Link to Disable
remkey	- Remove adminkey from Link to Disable
cur	- Display current LtD configuration

次の表に Failure Link to Disable メニューの項目を示します。LtD は、ダウンリンクポート(ポート 1 ~16)の任意の組合せと、ダウンリンクポートだけから構成したトランクグループもしくは LACP トランクグループからなります。

	表121	Failure	Link to	Disable	メニ	ニュ	一項目
--	------	---------	---------	---------	----	----	-----

項目	説明
addport <port number=""></port>	ポートを LtD に追加します。ダウンリンクポート (1~16) のみ設定可能で
	す。
remport <port number=""></port>	ポートを LtD から削除します。
addtrunk <1-12>	トランクグループを LtD グループに追加します。ダウンリンクポート (1~
	<b>16)</b> だけで構成したトランクグループのみ設定可能です。
remtrunk <1-12>	トランクグループを現 LtD グループから削除します。
addkey <lacp port<="" td=""><td>LACP トランクグループを LtD に追加します。LACP トランクグループに</td></lacp>	LACP トランクグループを LtD に追加します。LACP トランクグループに
adminkey>	設定している adminkey を指定します。ダウンリンクポート (1~16) だけ
	で構成した LACP トランクグループのみ設定可能です。
remkey <lacp port<="" td=""><td>LACP トランクグループを LtD から削除します。</td></lacp>	LACP トランクグループを LtD から削除します。
adminkey>	
cur	現在の LtD 構成を表示します。

# **Configuration Dump**

コマンド: /cfg/dump

ダンププログラムは現在のスイッチ設定を端末画面に表示するものです。ダンププログラムを開始するには、Configuration#プロンプトに次のように入力します。

Configuration# dump

デフォルト値から変更した設定情報が表示されます。画面表示を取り込み、編集し、スクリプトファ イルとして他のスイッチの設定にも使用できます。スクリプトファイルから、スイッチのコマンドラ インプロンプトに設定コマンドをペーストて設定を変更できます。また、現在の設定情報は FTP/TFTPにより保存、ロードできます。

# スイッチ設定情報の保存

コマンド: /cfg/ptcfg <FTP/TFTP server> <filename>

ptcfg コマンドを使用すると、スイッチの設定情報(/cfg/dump により表示されます)が、指定した FTP/TFTP サーバのファイルにアップロードされます。アップロードを開始するには、Configuration# プロンプトに次のように入力します。

Configuration# ptcfg <FTP/TFTP server> <filename>

ここで、<*FTP/TFTP server>*は FTP/TFTP サーバの IP アドレスかホスト名、<*filename>*はアップロードするファイルの名前です。

注:出力ファイルはキャリッジリターンを伴わない改行でフォーマットされます。キャリッジリターン が必要なエディタ(Microsoft Notepad など)ではファイルを見られません。

注:FTP/TFTP サーバのオペレーティングシステムが SunOS™か Solaris™の場合、指定 ptcfg ファイルは、ptcfg コマンドを実行する前に存在し、書込み可能でなければなりません(該当のパ ーミッションで設定し、どのアプリケーションでもロックされないようにします)。指定ファイルの内 容が現設定データと置き換わります。

# スイッチ設定情報の復元

コマンド: /cfg/gtcfg <FTP/TFTP server> <filename>

gtcfg コマンドを使用すると、現在の設定から、指定された設定ファイルのコマンドと置き換わります。 ファイルの内容はスイッチ全体の構成と部分的構成のどちらも可能です。gtcfg でロードした設定を有 効にするためには、apply コマンドを実行する必要があります。

スイッチ構成ダウンロードを開始するには、Configuration#プロンプトに次のように入力します。

Configuration# gtcfg <FTP/TFTP server> <filename>

ここで、<*FTP/TFTP* server>は FTP/TFTP サーバの IP アドレスかホスト名、<*filename>*はターゲット スクリプト構成ファイルの名前です。

注:スイッチは、active、backup、factoryの3つのConfigurationブロックをサポートします。ブート時に使用するブロックを設定する方法については、「Boot Options Menu」の章の「Configurationブロックの選択」を参照してください。

# **Operations Menu**

# はじめに

オペレーションレベルのコマンドで、スイッチ設定の一時的な変更を行います。アドミニストレータ ログインかオペレータログイン時のみ利用できます。

## メニュー内容

コマンド: /oper

Operations	Menu
port	- Operational Port Menu
passwd	- Change current user password
clrlog	- Clear syslog messages
tnetssl	nc - Close all telnet/SSH connections
ntpreq	- Send NTP request

次の表に Operations メニューの項目を示します。

表122 Operations メニュー項目

項目	説明
port <port number=""></port>	Operations Port メニューを表示します。
passwd <1-128	パスワードを変更できます。権限を証明するため現パスワードを入力す
characters>	る必要があります。
clrlog	すべてのシスログメッセージを消去します。なお、本項目はアドミニス
	トレータログイン時のみ表示されます。
tnetsshc	telnet, ssh コネクションを閉じます。
ntpreq	NTP サーバにリクエストを送信できます。なお、本項目はアドミニスト
	レータログイン時のみ表示されます。

## オペレーションレベルポートオプション

コマンド: /oper/port <port number>

[Operations	Port 1 Menu]
rmon	- Enable/Disable RMON for port
ena	- Enable port
dis	- Disable port
cur	- Current port state

ポートの一時的な有効/無効に Operations Port メニューを使用します。次の表に Operations Port メニューの項目を示します。

表123 Operations Port メニュー項目

項目	説明
rmon disable enable	ポートのリモートモニタリング(RMON)を有効/無効にします。RMON を使
	用する場合、RMON を有効にする必要があります。
ena	ポートを一時的に有効にします。スイッチをリセットすると、元の動作モー
	ドに戻ります。
	注: このコマンドは、E-keyling mismatch error で無効になったポートを有効
	にしません。
dis	ポートを一時的に無効にします。スイッチをリセットすると、元の動作モー
	ドに戻ります。
cur	ポートの現在の設定を表示します。

# **Boot Options Menu**

## はじめに

Boot Options メニューは、アドミニストレータログイン時のみ利用できます。

Boot Options メニューには以下の機能があります。

- スイッチを次にリセットするときに使用するスイッチソフトウェアイメージの選択
- スイッチを次にリセットするときに使用する Configuration ブロックの選択
- FTP/TFTP による新しいソフトウェアイメージのスイッチへのダウンロード、アップロード

## メニュー内容

コマンド: /boot

[Boot	Options	Menu]
	image	- Select software image to use on next boot
	conf	- Select config block to use on next boot
	mode	- Select CLI mode to use on next boot
	prompt	- Prompt for selectable boot mode
	gtimg	- Download new software image via FTP/TFTP
	ptimg	- Upload selected software image via FTP/TFTP
	reset	- Reset switch [WARNING: Restarts Spanning Tree]
	cur	- Display current boot options

Boot Optiosn メニューの各コマンドを以下の節で詳細に説明します。

# スイッチソフトウェアイメージの更新

スイッチソフトウェアイメージとは、スイッチで動作する実行可能コードのことです。スイッチには 特定のバージョンのイメージが予めインストールされています。新しいバージョンがリリースされれ ば、アップグレードできます。

ソフトウェアイメージをアップグレードするには、以下の処理が必要です。

- 新しいイメージをネットワーク上の FTP/TFTP サーバにロードする。
- FTP/TFTP サーバからスイッチに新しいイメージをダウンロードする。
- スイッチを次にリセットするときにメモリにロードするソフトウェアイメージとして、新しいイメージを選択する。

### 新しいソフトウェアイメージのスイッチへのダウンロード

スイッチは、ブートソフトウェア(boot)とともに、ソフトウェアイメージを2つまで(image1と image2)格納できます。新しいソフトウェアをダウンロードする場合、image1、image2、bootのう ち、置換するイメージを指定します。

工場出荷時には、image1にスイッチモードのソフトウェア(NormalPanel)、image2にスマートパネルモードのソフトウェア(SmartPanel)が格納されています。

新しいソフトウェアをスイッチにダウンロードするには、以下のものが必要です。

- ネットワーク上の FTP/TFTP サーバにロードするイメージまたはブートソフトウェア
- FTP/TFTP サーバのホスト名または IP アドレス
- 新しいソフトウェアイメージまたはブートファイルの名前

注:ホスト名を指定する場合、DNS パラメータを設定する必要があります。「Configuration Menu」の章の「Domain Name System configuration」を参照してください。

注:スマートパネルについては、スマートパネルリファレンスガイドを参照してください。

上記の条件が満足されていれば、以下の手順で新しいソフトウェアをスイッチにダウンロードできま す。

1. Boot Options#プロンプトに次のように入力します。

Boot Options# gtimg

2. 置き換えるスイッチソフトウェアの名前を入力します。

Enter name of switch software image to be replaced
["image1"/"image2"/"boot"]: <image>

3. FTP/TFTP サーバのホスト名か IP アドレスを入力します。

Enter hostname or IP address of FTP/TFTP server: <server name or IP address>

4. 新しいソフトウェアファイルの名前をサーバに入力します。

Enter name of file on FTP/TFTP server: <filename>

名前の形式は FTP/TFTP サーバ毎に異なります。ただし、ファイルの場所は、通常、FTP/TFTP ディレクトリの配下です。

5. FTP サーバを使用する場合はユーザ名を入力します。

Enter username for FTP server or hit return for TFTP server: <userID>

6. FTP サーバのパスワードを入力します(要求された場合)。

Enter password for username on FTP server: reserver

7. システムからリクエスト内容を確認するよう要求されます。

- 次の「実行するソフトウェアイメージの選択」に従って、次に実行するソフトウェアイメージを 選択します。
- 8. ダウンロード先(image1 もしくは image2) と、次回ブート時にロードするソフトウェアイメージが異なる場合、次回ブート時にロードするイメージを変更するか確認メッセージが表示されます。

image2 currently contains Software Version 1.0.0 that was downloaded at 15:46:36 Wed Apr 23, 2006. New download will replace image2 with file "1.0.1\_OS.img" from TFTP server 192.168.2.4. Confirm download operation [y/n]: y Invoking TFTP over port 69... Starting download.. File appears valid Download in progress..... Image download complete (1333953 bytes) Writing to flash... This takes about 90 seconds. Please wait Write complete (1333953 bytes), now verifying FLASH... Verification of new image2 in FLASH successful. image2 now contains Software Version 1.0.1 Switch is currently set to boot software imagel. Do you want to change that to the new image2? [y/n] y Next boot will use new software image2.

# 実行するソフトウェアイメージの選択

次のリブートでロードするソフトウェアイメージ(image1 または image2)を選択します。

1. Boot Options#プロンプトに、次のように入力します。

Boot Options# image

2. 次のリブートで、スイッチ上で動作させるイメージの名前を入力します。次リセットでロードす るイメージがシステムから知らされ、新たな選択を行うよう要求されます。

```
Currently set to use switch software "imagel" on next reset. Specify new image to use on next reset ["imagel"/"image2"]:
```

重要:次のブート時のソフトウェアイメージを変更してリブートすることにより、スイッチモードの切り替え(スイッチモード、もしくはスマートパネルモード)を行った場合、スイッチに保存されている 設定情報は消去され、工場出荷時状態で起動します。必要に応じて、スイッチ設定情報のバック アップを行ってください。

# ソフトウェアイメージのスイッチからのアップロード

ソフトウェアイメージをスイッチから FTP/TFTP サーバにアップロードできます。

1. Boot Options#プロンプトに次のように入力します。

Boot Options# ptimg

2. システムから必要な情報を求められます。該当のイメージを入力します。

Enter name of switch software image to be uploaded
["image1"|"image2"|"boot"]: <image>

3. FTP/TFTP サーバの名前か IP アドレスを入力します。

Enter hostname or IP address of FTP/TFTP server: <server name or IP address>

4. FTP/TFTP サーバの中でイメージをアップロードするファイルの名前を入力します。

Enter name of file on FTP/TFTP server: <filename>

5. FTP サーバを使用する場合はユーザ名を入力します。

Enter username for FTP server or hit return for TFTP server: <userID>

6. FTP サーバのパスワードを入力します(要求された場合)。

Enter password for username on FTP server: cpassword>

7. 入力した内容を確認するよう要求されます。ファイルをアップロードしてよければ"y"を入力します。

```
image2 currently contains Software Version 1.0.0
Upload will transfer image2 (1889411 bytes) to file "test"
  on TFTP server 192.1.1.1.
Confirm upload operation [y/n]: y
```

# Configuration ブロックの選択

スイッチに設定変更を行った場合、リセットしても消去されないよう、保存する必要があります。保 存コマンドを実行すると、新しい設定が active ブロックに入り、旧設定は backup ブロックにコピー されます。

また、factory ブロックは、スイッチ製造時に工場で設定したデフォルト設定が保持されています。環境によっては、デフォルトに戻すのが望ましいことがあります。たとえば、カスタム設定したスイッチを別のネットワーク環境に移し、新たな用途に再設定する場合などに有効です。

以下の手順により、次回のリセット時にスイッチにロードする Configuration ブロックを設定できます。

1. Boot Options#プロンプトに次のように入力します。

Boot Options# conf

2. 次のリセット時にロードする Configuration ブロックの名前を入力します。

Currently set to use active configuration block on next reset. Specify new block to use ["active"/"backup"/"factory"]:

# スイッチのリセット

スイッチをリセットして、ソフトウェアイメージファイルと Configuration ブロックを変更することが できます。

スイッチをリセットすると、スパニングツリープロトコルで経路が再構成されます。ネットワークの トポロジによっては、この処理に時間がかかります。

スイッチをリセットするには、Boot Options#プロンプトに次のように入力します。

>> Boot Options# reset

## ISCLI への変更

本スイッチのデフォルトのコマンドラインインタフェースは AOS CLI です。CLI を ISCLI に変更する には、AOS CLI から次のコマンドを入力し、スイッチをリセットします。

Boot Options# mode iscli

ISCLI に変更後、再度 AOS CLI に戻すには、次のコマンドを入力し、本スイッチをリセットします。

>> Switch# boot cli-mode aos

/boot/prompt コマンドを有効にした場合、ログイン時に CLI モードを選択できます。コンソール ポートから接続したアドミニストレータのみが/boot/prompt コマンドを確認/有効にすることがで きます。/boot/prompt が有効な場合、最初にログインしたユーザが CLI モードを選択できます。 後からログインしたユーザは、すべてのユーザがログアウトするまで、選択されている CLI モードの み使用できます。

# 現在のスイッチソフトウェアの表示

現在のスイッチソフトウェアの情報を表示するには、次のように入力します。

```
>> Boot Options# cur
Currently set to boot software image2, factory default config block.
Current FLASH software:
    image1: version 1.2.0, downloaded 0:15:51 Mon Jan 2, 2006
        NormalPanel
    image2: version 1.0.0, downloaded 1:32:08 Sun Jan 8, 2006
        SmartPanel
    boot kernel: version 1.2.0
```

次にブートする際に実行するソフトウェアイメージ、**Configuration** ブロックと、**image1**、**image2**、**boot** に格納されているソフトウェアのバージョンが表示されます。

image1、image2の情報で、NormalPanelはスイッチモードのソフトウェア、SmartPanelはスマート パネルモードのソフトウェアが格納されていることを示します。

# Maintenance Menu

# はじめに

デバッグ用に使用するメニューで、スイッチの状態に関する重要な情報のダンプ表示や、FDB、ARP テーブルなどのエントリをクリアします。アドミニストレータログイン、オペレータログイン時のみ 利用できます。

# メニュー内容

コマンド: /maint

[Maintenance	Menu]		
sys	- System Maintenance Menu		
fdb	- Forwarding Database Manipulation Menu		
debug	- Debugging Menu		
arp	- ARP Cache Manipulation Menu		
igmp	- IGMP Multicast Group Menu		
uudmp	- Uuencode FLASH dump		
ptdmp	- tftp put FLASH dump to tftp server		
cldmp	- Clear FLASH dump		
panic	- Dump state information to FLASH and reboot		
tsdmp	- Tech support dump		
pttsdmp	p - tftp put tech support dump to tftp server		

次の表に Maintenance メニューの項目を示します。

表124 Maintenance メニュー項目

項目	説明
sys	System Maintenance メニューを表示します。
fdb	FDB Manipulation メニューを表示します。
debug	Debug メニューを表示します。
arp	ARP Cache Manipulation メニューを表示します。
igmp	IGMP Maintenance メニューを表示します。
uudmp	ダンプ情報を uuencode フォーマットで表示します。
ptdmp	TFTP でシステムダンプ情報を保存します。
cldmp	ダンプ情報をフラッシュメモリから消去します。
panic	MP 情報をフラッシュメモリにダンプして、リブートします。
tsdmp	スイッチ情報、統計データ、設定のすべてをダンプします。
pttsdmp	テクニカルサポートダンプ (tsdmp) を FTP/TFTP サーバにリダイレクトしま
	す。

## System Maintenance options

コマンド:	/maint/sys
-------	------------

```
[System Maintenance Menu]
flags - Set NVRAM flag word
```

テクニカルサポート専用のメニューです。システムデバッグに使用します。

次の表に System Maintenance メニューの項目を示します。

表125 System Maintenance メニュー項目

項目	説明
<pre>flags <new 0xxxxxxxxx="" as="" flags="" nvram="" word=""></new></pre>	テクニカルサポートがデバッグに使用する フラグをセットします。

## FDB Manipulation options

コマンド: /maint/fdb

[FDB	Manipula	ation Menu]
	find	- Show a single FDB entry by MAC address
	port	- Show FDB entries for a single port
	vlan	- Show FDB entries for a single VLAN
	dump	- Show all FDB entries
	clear	- Clear entire FDB, then re-add static entries

**FDB**(フォワーディングデータベース)の内容の確認、**FDB**からの MAC アドレスの削除、FDB 全体のクリアなどに使用するメニューです。

次の表に FDB Manipulation メニューの項目を示します。

表126	FDB Mani	pulation ;	メニュー項目
------	----------	------------	--------

項目	説明
find <mac address=""> [&lt;1-4095&gt;]</mac>	データベースエントリをその MAC アドレスで表示します。装
	置の MAC アドレスを入力するよう要求されます。次のどちら
	かのフォーマットで入力してください。
	xx:xx:xx:xx:xx:xx (例:08:00:20:12:34:56)
	xxxxxxxxxxxx (例:080020123456).
port <port number=""></port>	指定したポートの FDB エントリをすべて表示します。
vlan <1-4095>	指定した VLAN の FDB エントリをすべて表示します。
dump	FDB のすべてのエントリを表示します。
clear	FDB 全体をスイッチメモリから消去し、スタティックエントリ
	を FDB に追加します。

## **Debugging options**

コマンド: /maint/debug

```
[Miscellaneous Debug Menu]
    tbuf - Show MP trace buffer
    snap - Show MP snap (or post-mortem) trace buffer
    clrcfg - Clear all flash configs
```

イベントのトレースバッファ情報を表示するメニューです。以下の情報を参照できます。

- 管理プロセッサ (MP) がトレースしたイベント
- リセット発生時にバッファエリアにトレースするイベント

スイッチが何らかの理由でリセットすると、管理プロセッサ (MP) のトレースバッファがスナップト レースバッファエリアに保存されます。

次の表に Miscellaneous Debug メニューの項目を示します。

#### 表127 Miscellaneous Debug メニュー項目

項目	説明
tbuf	管理プロセッサトレースバッファを表示します。次のようなヘッダ情報が示されます。
	MP trace buffer at 13:28:15 Fri May 25, 2002; mask: 0x2ffdf748
	ヘッダの後にバッファ情報が表示されます。
snap	管理プロセッサスナップ(または事後)トレースバッファを表示します。このバッファに
	は、リセット発生時にトレースした情報が入っています。
clrcfg	フラッシュ Configuration ブロックをすべて削除します。スイッチを次にリブートしたとき
	に、工場デフォルト設定に戻ります。

## **ARP** options

コマンド: /maint/arp

[Address Reso	lution Protocol Menu]
find	- Show a single ARP entry by IP address
port	- Show ARP entries on a single port
vlan	- Show ARP entries on a single VLAN
addr	- Show ARP entries for switch's interfaces
dump	- Show all ARP entries
clear	- Clear ARP cache

次の表に Address Resolution Protocol (ARP) メニューの項目を示します。

表128	Address	Resolution	Protocol	メニュー	項目
------	---------	------------	----------	------	----

項目	説明
find <ip address=""></ip>	指定した IP アドレスの ARP エントリを示します。
<pre>port <port number=""></port></pre>	指定したポートの ARP エントリを示します。
vlan <1-4095>	指定した VLAN の ARP エントリを示します。
addr	スイッチが ARP リクエストに応答する IP アドレスのリスト
	を示します。
dump	ARP エントリをすべて示します。
clear	ARP リスト全体をスイッチメモリから消去します。

注:スイッチに現在保持されている全 ARP エントリや、メニュー項目(find、port、vlan、dump)に 応じたエントリの表示については、「Information Menu」の章の「ARP information」を参照してく ださい。

# IGMP Multicast Group options

コマンド: /maint/igmp

[IGMP Multicast	Group Menu]
snoop -	IGMP Snooping Menu
mrouter -	IGMP Multicast Router Port Menu
clear -	Clear group and mrouter tables

次の表に IGMP Multicast Group メニューの項目を示します。

表129 IGMP Multicast Group メニュー項目

項目	説明
snoop	IGMP Snooping メニューを表示します。
mrouter	IGMP Multicast Routers メニューを表示します。
clear	IGMP マルチキャストデータをスイッチメモリから消去します。

#### **IGMP Snooping options**

 $\exists \forall \mathcal{V}$  : /maint/igmp/snoop

[IGMP Snooping	g Menu]
find	- Show a single group by IP group address
vlan	- Show groups on a single vlan
port	- Show groups on a single port
trunk	- Show groups on a single trunk
dump	- Show all groups
clear	- Clear group tables

次の表に IGMP Snooping メニューの項目を示します。

表130 IGMP Snooping メニュー項目

項目	説明
find <ip address=""></ip>	指定した IP アドレスの IGMP マルチキャストグループを示しま
	す。
vlan <1-4094>	指定した VLAN の IGMP マルチキャストグループを示します。
port <port number=""></port>	指定したポートの IGMP マルチキャストグループを示します。
dump	すべての IGMP マルチキャストグループを示します。
clear	IGMP マルチキャストデータをスイッチメモリから消去します。

#### IGMP Multicast Routers options

コマンド: /maint/igmp/mrouter

[IGMP Multicas	st	Routers Menu]
vlan	-	Show all multicast router ports on a single vlan
dump	-	Show all multicast router ports
clear	-	Clear multicast router port table

次の表に IGMP Multicast Routers メニューの項目を示します。

表131 IGMP Multicast Router 項目

項目	説明
vlan <1-4094>	指定した VLAN の IGMP マルチキャストグループを示します。
dump	すべての IGMP マルチキャストルータを示します。
clear	IGMPマルチキャストルータデータをスイッチメモリから消去します。

#### Technical support dump

コマンド: /maint/tsdmp

スイッチの、Information、Statistics、Configurationのすべての情報をダンプ表示します。

本ダンプコマンドを実行する前に通信ソフトウェアでデータを取り込む設定を行うと、キャプチャしたデータをファイルに取り込むことができます。

### FTP/TFTP technical support dump put

コマンド: /maint/pttsdmp

本コマンドで technical support dump を FTP/TFTP サーバに保存することができます。

#### Uuencode flash dump

 $\exists \forall \mathcal{V} \models : /maint/uudmp$ 

このコマンドを使用すると、ダンプ情報が uuencode フォーマットで表示します。

本ダンプコマンドを実行する前に通信ソフトウェアでデータを取り込む設定を行うと、キャプチャしたデータをファイルに取り込むことができます。本コマンドを入力すると、約23,300行のデータが 画面に表示され、ファイルにコピーされます。

uudmp コマンドを使用すれば、ダンプ情報を何回でも読み取れます。ダンプ情報が自動的に消去されることはありません。後続のダンプ情報をフラッシュメモリに書き込むためには、ダンプ領域を手動で消去する必要があります。ダンプ領域の消去については、後述の「ダンプ情報のクリア」を参照してください。

ダンプ情報にアクセスするには、Maintenance#プロンプトに次のように入力します。

Maintenance# uudmp

ダンプ領域が存在しない場合、次のように表示されます。

No FLASH dump available.

## FTP/TFTP サーバへのシステムダンプ転送

コマンド: /maint/ptdmp <server> <filename>

システムダンプを FTP/TFTP サーバに保存するコマンドです。

注:FTP/TFTP サーバのオペレーティングシステムが SunOS か Solaris の場合、ptdmp ファイ ルが、ptdmp コマンド実行前に用意され、書込み可能でなければなりません(該当のパーミッショ ンで設定し、どのアプリケーションでもロックされないようにします)。指定ファイルの内容が現ダン プデータと置き換わります。

FTP/TFTP でダンプ情報を保存するには、Maintenance#プロンプトに次のように入力します。

Maintenance# ptdmp <server> <filename>

<server>として FTP/TFTP サーバの IP アドレスかホスト名、<filename>としてターゲットダンプファイルを入力します。

FTP サーバを使用する場合はユーザ名を入力します。

Enter username for FTP server or hit return for TFTP server: <userID>

FTP サーバのパスワードを入力します(要求された場合)。

Enter password for username on FTP server: cpassword>

## ダンプ情報のクリア

コマンド: /maint/cldmp

ダンプ情報をフラッシュメモリから消去するには、Maintenance#プロンプトに次のように入力します。

Maintenance# cldmp

スイッチがフラッシュメモリのダンプ領域を消去し、次のメッセージを表示します。

FLASH dump region cleared.

すでに消去されている場合には、次のメッセージになります。

FLASH dump region is already clear.

## panic コマンド

コマンド: /maint/panic

このコマンドを指定すると、スイッチがステータス情報をフラッシュメモリに直ちにダンプし、自動 的にリブートします。

パニックを行うには、Maintenance#プロンプトに次のように入力します。

```
>> Maintenance# panic
A FLASH dump already exists.
Confirm replacing existing dump and reboot [y/n]:
```

"y"をタイプしてコマンドを確認します。

Confirm dump and reboot [y/n]: y

一連のメッセージが表示されます。

Starting system dump...done.

Reboot at 11:54:08 Wednesday October 30, 2005...

Rebooted because of console PANIC command.

Booting complete

# 予定にないシステムダンプ

フラッシュメモリへのシステムダンプで予定になかったものがあると、スイッチにログオンしたとき に次のメッセージが表示されます。

Note: A system dump exists in FLASH. The dump was saved at 13:43:22 Wednesday October 30, 2005. Use /maint/uudmp to extract the dump for analysis and /maint/cldmp to clear the FLASH region. The region must be cleared before another dump can be saved.